

# 掲 示 板



2001年度 第1号 通巻第12号 (5月)

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。新緑の萌える季節になりましたが、みなさんいかがお過ごしですか。今年度第1号のフィールドレポーター掲示板をお送りさせていただきます。今年度も、昨年度に引き続き古谷さんと武田さんにご尽力いただき、掲示板の発行をすることになりました。21世紀のフィールドレポーターも早1ヶ月半が過ぎ、みなさんも活発に活動していただいているようで、今年度最初にもかかわらず多くの投稿をいただきました。これからも、みなさんの積極的な投稿をお待ちしています。また、フィールドレポーター長め調査として始めたへちまクラブの記事を、へちまクラブ便りとして掲示板に併設していきたいと思っておりますので、こちらの方へも投稿よろしくお願ひします。



ところで、4月29日(日)に行われた植樹祭では、昨年度行った田んぼの生き物調査のパネルと、ドングリ調査のパネルそれにドングリの標本とみなさんに集めてきていただいたドングリの花を展示しました。午後から本降りの雨が降り出したにもかかわらず、多くの人たちがフィールドレポーターのブースを訪れてくださいました。みなさんに集めてきていただいたドングリの花が、訪れてくださった方々の興味を引いていたようです。ドングリの花といえば、5

月6日(日)に行ったドングリの花観察会にも、多くの方に参加していただき盛況でした。

近江神宮の鳥居のところから宇佐神宮までの間で、要所要所で見つけたドングリの花やその他の植物について布谷さんから詳細な説明をしていただきながら、みんなで歩きました。昨年度から心待ちにしていたドングリの花の観察会とあって、みなさん



さん熱心に観察されるため、結局予定していた皇子山までは行けませんでした。アラカシ、イチイガシ、スタジイなど主だったドングリの花は観察することができました。今回の観察会に参加して思ったことは、これまでドングリの花を見たことがなかったのではなく、見ていたけどわからなかったのだなということでした。みなさんはどうでしたか。

これからも、積極的に楽しくフィールドレポーター活動を行っていただきますようお願いいたします。

## フィールドレポーター5・6月の予定をお知らせします。

- ・5月27日(日)  
定例会：第1回フィールドレポーター調査発送等  
於：琵琶湖博物館交流室 13:00～
- ・6月2日(土)  
定例会： 於：琵琶湖博物館交流室 14:00～
- ・6月17日(日)  
定例会： 於：琵琶湖博物館交流室 14:00～

\*予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。

表題【蒲(がま) 科】

投稿日【01/05/08】お名前【甲西市 村がまびん(ペンネーム)】

蒲です。カミの友だちの方にはありません、アメリカンドックのようなヤツ? ...  
沼や湖、河原などで見かけます。2~3年前なせお好まておては〜郡内を探し  
回りました。当方、学問的なことも、他も蒲に対する知識はまったくなく、ただ  
たらのひとめぼれ、気がついたら近くの沼地は宅地になり、小川はブル  
トナーで整備され、そのせいで地は見知った2~3年たってもずい分と  
狭められてしまっている。あせる気持ち、蒲に対する思いはつらいつのふり、  
そんな時(今)フィールドリポーターのことを知り応募しました。  
現在現状の調査と考えています。へえ〜、蒲なれはのこぼら自生しているよ  
という方がおられました。ぜひご連絡を(当初は町内のみ始めて県内全体の  
分布調査をしたいと思っております。愚問に当方の情報不足にて活動されていま

あつた方がおられました。仲間に入れてくださ〜い!!



ガマ *Typha latifolia*



コガマ *Typha orientalis*

日本 野生植物館 小学館 1997 より

がまびんさん宛の情報は琵琶湖博物館 担当桑原まで tel. 077-568-4811

表 題【ハチのたつ巻】

投稿日【5/5】お名前【土山 市(町)村 岡崎直純】

こんにちは、昨日畑で10時ごろ虫の羽音がふと耳にとまり「今日は虫もいきがしいな」と思ったのです。その音がなんだかうたりのようにたり近づく感じがしたのです。顔を上げて見てビックリ。すぐ近くには5〜10mくらいの大きさのハチの大群。とっさに「あやハチの巣つづいてもたか。いやそんなはずない」と思いながらあやめてスコップをほりあげにげました。少しはなれて見てみると、人の歩くほどの速さでその集団は移動し森へ消えてゆきました。

表 題【ヤマカガシについて、】

投稿日【010506】お名前【浅井 市(町)村 水相修躬】

最近家の周りでも、野や山へ行っても、ヤマカガシの姿をよく見てギョツとします。それもカラスヘビと呼ばれている黒いのが多いです。噛まれれば全身の毛細血管から出血をして死ぬと聞いていたので、身の毛もよだつ思いです。滋賀県内各地に多いのでしょうか。

◎ 蛇も我も 出合い頭に 固まりぬ

表 題【貝エビ生まれるかな?】

投稿日【5月6日】  
010506 お名前【浅井市(町)村水相修躬】

昨年5月湖東から湖南地方まで、カブトエビ、貝エビの調査に行き、残念ながらカブトエビは見つけることができなかったが、貝エビは、沢山見つけることができました。ビンに入れて持ち帰り、家の前の水田に放しました。今年は生まれてくれるかなと楽しみにしています。

◎貝エビを 探し 植田に たたずみし。

表 題【あーい、カッコウやい、】

投稿日【010506】お名前【浅井市(町)村水相修躬】

カッコウの声がもうすぐ聞ける季節となりました。20年ほど前は、家の回りでも聞けたのに、今では、山へ入らないと聞けません、原因は何なのか、地球温暖化のせいで、南まで来ないのか、農薬のせいで、エサとなる虫が少なくなったのか、滋賀県内では、カッコウの声、どのあたりまで聞くことができますか。

◎山里に郭公鳴いて雨上がる



表 題 さっそく試しました

投稿日 2000. 3. 8.

お名前 相本 さつき

掲示板第8号有り難うございました。

鮎ずしのお茶漬けに入れる2種類の昆布についておたずねしたところ、掲示板で回答いただき有り難うございました。

さっそく試しました。

お茶漬けもお吸い物もたいへん美味でした。

こんどは、てんぶらを試したいと思っています。

食についての追求は、限りなく続くものですね。人間の胃袋のしたたかさにもあらためて感心しています。

先人の残した食文化にも感謝し伝えたいものです。

我が家の95才の姑は、鮎ずし、鮎汁、しじみ汁を大変喜んでいただきます。むしろ薬だと思っているようです。一番効くのが姑いわく「鮎のこまぶし」だそうです。

大切にいただきたいものです。

有り難うございました。

☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆

表 題 【 花 粉 】

投稿日【010415】お名前【大津市町村 伊東貴美子】

「スプレション」お気の毒にこの人も。顔が隠れるくらい大きなマスクをしているあの人も。花粉症？

このところ比叡の山は、春がすみか？ いやそろではない。

花粉が飛んで、緑の木々も、山櫻も、黄色いベールで覆わ

れています。風に煽られて家の吹き留りに黄色の物が溜って

います。お寺の縁側も何度拭いても真っ白。「みんなと今年はじめ

という声もできるくらい今年が多い。

防いすべもなく、たわわに実をつけたスギやヒノキの木を見上げて

ますます大きく育っていく程花粉も多く飛ぶのでは無いかと。

春、うららの春、早く来て。

表 題【信長も見たか? 白はなのタンポポ】

投稿日【2010427】お名前【守山 市町村ゆわい ああなまけ】

2000年4月12日. 私は安土城址のあの道路(近江八幡-能登川)で道の両側を飾るように咲く「白はなのタンポポ」を見た. 私の住む守山市で「白はなのタンポポ」を見る事はなく話には聞いてはいたが. 実際に見るとは違っていたのでこの印象は強かった. 今年も「白はなのタンポポ」に会えるのを楽しみに4月17日にこの道を通った. とすると昨年咲いてはいたけれど今年は見られなかった.

中でも. 安土町の中央. 下豊浦の信号を北に越え約100米ほどの左側(西側)に依り金網で囲まれた100m<sup>2</sup>ほどの空地に昨年は「白はなのタンポポ」が一面に咲きわたっていた. 今年もななとたん黄色いタンポポが満開ではあるが. これはどういふ理由か? 「白はなのタンポポ」も「黄はなのタンポポ」もこの時期に咲くものだろうか?

昨年. 安土城址前の桜並木の丘では樹上は桜. 樹下では「白はなのタンポポ」の競演だったのに今年見られないのはなぜか. 二ヶ所を知りたく先日(4月25日)再び安土城址に行き. 金500円也の駐車料を払って車から200mほど歩いて丘を探してみた.

「白はなのタンポポ」はあった. 白の花が完全に開いたのはなかったが(25日午前)駐車場の囲いの下にも 道路際にも. 桜並木の丘にも「白はなのタンポポ」はあった. 花は開いてないが蕾と種子が飛ぶためのものや花びら散らばった跡や土を覗き見ると. 開いた花が見られないのは気象の故かも. 24日は午後から雨が気温もあまりあがらず. 25日も午前中は小雨がぱらぱらと降っていたので花は開くのを待たなかった.

蕾は沢山あった. そのうち1つが黄花の蕾よりはるかに大きく. 花茎も背が高いので. 道路際の植栽(樹名?)の中1株の花茎は植栽より高く伸びたのは種子を飛ばせたいとがんばって700mmもあった. 別の1株は女の本物の花茎と出ている.

「白はなのタンポポ」は花弁も黄花の重瓣型に変わって中広く中央がくらくらしている. 全体に大柄で花は小菊ががべらに近う感じた. 昨年のあの空地の「白はなのタンポポ」今年は見られなかった. これは来年の春の課題として私事に与えられた.

表題「一本の桜に咲く花の数は何個でしょうか」

投稿日「010409」

名前「大津市 有田 重彦」

公園で満開の樹齢二十年余の桜（染井吉野）（地上1mで幹径20cm弱の3本仕立て）について、花びらの数の異常性を調べていた時に、いったい、この木に付いている花の数は何個だろう、との疑問が『モクモク』と沸き上がってきました。

早速、桜の木を見上げながら下記のような数え方をしてみたところ、約30万個という値となりました。途方もなく多いように感じますが、みなさんはどう思われますか？

いやもっと多いのでは？ こんなものだ、いやいやもっと少ないのでは？

一本の桜の花の数を完全に数えてみようという人が、いつか現れるに違いないとの期待は、到底考えられないので、この正解は未来永劫の永遠のテーマではないでしょうか。

吉野の桜は、下千本、中千本、上千本、奥千本、あるいはまとめて、一目三千本といわれますがそれらの木に咲く花の総数は、すごい値になりそうですね。

〔桜の花の総数推定手順〕

1. 直径約1センチ前後の小枝に付く花枝の数

25本（小枝1本の実測値）

2. 一本の花枝に付く花の数

12.5本（花枝13本の平均値）

3. 直径約5センチの中枝に付く小枝の数

13本（実測値）

4. 直径5センチ前後の中枝の本数

73本（実測値）

5. 一本の桜の花の数総数推定値N

$N = 25 \times 12.5 \times 13 \times 73 = 296,563$ 本

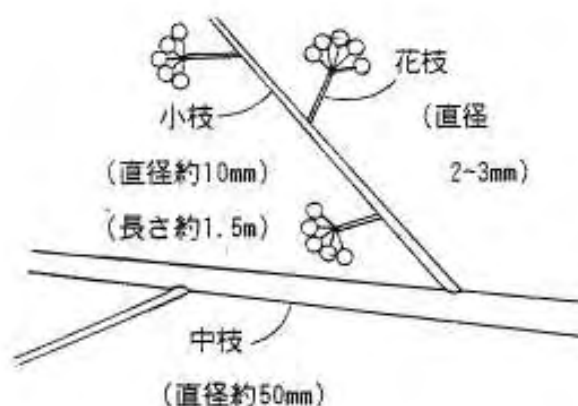


表 題「花びらの異常性一統（本年の調査結果）」

投稿日「010411」

名前「大津市 有田 重彦」

昨年、十年ぶりに咲いた通称『金のなる木』の花について、花弁の数の異常性を調べたことに端を発して、クンシランや他の花についても調べました（本掲示板2000年度第5号）。それから1年、金のなる木は今年も昨年以上のたくさんの花を咲かせましたので、花びらの異常性の再現性チェックとして再度調査をやってみたところ、下表の結果が得られました。なお桜については今年が初めての調査です。

- (1) 金のなる木は、初めて咲いた昨年より3倍の花数になったが、異常花弁の数は5%程減少。
- (2) クンシランは、花数が少ないためであろうか、今年は異常花弁はなかった。
- (3) ハナニラは、昨年とほとんど同じで、異常性の再現性は良いという結果になった。
- (4) 桜（染井吉野）の異常性は非常に少なく、径10mm、長さ1.5mの小枝で2個の異常花弁が見つかる程度である（小枝に付く花数は約250個）。

表 花弁の数の異常性調査結果一（昨年調査結果+本年調査結果）

調査 年月	花の名前		正常 の花 弁数	花弁の数/正常のものより2枚少ないものは-2弁							調査 花数 合計
	通称名	正式名称		-3弁	-2弁	-1弁	正常	+1弁	+2弁	+3弁	
12.3	金のなる木	花月	5	0	2	10	128	8	0	0	148
							1.4%	6.8%	86.5%	5.4%	
13.4				0	0	7	401	35	0	0	443
						1.6%	90.5%	7.9%			100%
12.4	クンシラン	クンシラン	6	0	0	0	38	0	2	0	40
									95.0%		5.0%
13.4				0	0	0	25	0	0	0	25
							100%				100%
12.4	ハナニラ	ハナニラ	6	0	2	1	233	13	7	0	256
							0.8%	0.4%	91.0%	5.1%	2.7%
13.4				0	2	3	318	17	16	0	346
					0.6%	0.9%	91.9%	4.9%	4.6%		100%
13.4	染井吉野桜		5	0	0	4	481	0	0	0	485
						0.8%	99.2%				100%



表題【この実なんの実きになる実】

投稿日【2001 / 04 / 17】

【草津市 中後佐知子】

近江湖（うみ）の辺道を歩きに行った4月1日、最後に寄った高島町の日吉神社で、珍しい実を拾いました。種を抜いたハウズキが色褪せたような殻の中に、黒っぽい種が半透明で見え振るとカラカラと音がします。「イチョウの大木があったと思うからギンナンじゃない」と言う人もありましたが、納得できません。ギンナンは落ちるとべちゃとつぶれて臭い匂いがします。それが半透明に乾燥するとは考えられません。

15日に博物館に行った時に、布谷さんにお尋ねする心算でしたが、お出かけで出会えませんでした。

交流室を開けて頂いた芳賀さんが、「図書室で調べたら」と一緒に本を繰って下さいましたが分かりません。そこで、質問コーナーで草加さんと呼んで頂き説明をして頂くことが出来ました。

ムクロジ



1種1科の落葉高木

日本中部以南の山林に自生し庭園にも栽培される。

葉は、羽状複葉で秋に黄色く紅葉する。

6月頃、淡緑色5弁の小花を円錐花序につけ、

球状の核果を結ぶ。

種子は黒色で固く羽根つきの羽子の球に用いる。

果皮はサポニンを含み石鹸の代用とした。

以上のことが分かりました。子供の頃に遊んだ羽根つきの羽の球が、この実だったとは、初めて知り驚きました。果皮を半分にはると本当になつかしい黒い球が出てきました。床に落としてみると跳ねました。

切り口は、魚の干物のような匂いがします。水をつけ手のひらにこすりつけてみると、少し泡立ちました。

皆様の近くにも、ムクロジはありませんか？。「どこどこにあるよ」と掲示板にお便りを下さると嬉しいです。花の時期、紅葉の時期、実の鈴なりの時期にも見に行ってみたいですね。

また、ちょっと疑問に感じたことでも、聞いてみると丁寧に教えてもらえますよ。みんなで、どんどん利用させて傾きましようね。

表 題「カマキリの雌雄判別法」

投稿日「010401」

名前「大津市日吉台 有田重彦」

カマキリの雌雄判別法として、雌雄の相対比較から次の四つが挙げられている（虫の飼  
い方全書 東洋出版社 1999）。

- (1)雄は体が雌より小さく全体的に細身で、雌はガッシリした体。
- (2)顔も雄が細長で、雌はふっくら。
- (3)雄の尾の先は雌より丸い。
- (4)雄の触角の長さは、雌より2倍ほど長い。

これらの判別法は、雌雄見比べての比較法であり、雄あるいは雌一匹だけでの絶対評価  
は、比較評価を経験していないと判別に迷う場合がありそうである（尾の先の形が一番分  
かりやすいようですが）。

昨秋調べた雌雄9匹のカマキリの触角の長さを体長比で取り纏め、絶対評価が可能か否  
かを検討した結果は次表のようになり、データ数は少ないが次のようにまとめられる。

- (1)触角長さの体長比が、18～26（平均22）%なら雌カマキリ  
（コカマキリ、ハラビロカマキリ、オオカマキリ）
- (2)触角長さの体長比が、36～57（平均46）%なら雄カマキリ  
（コカマキリ、チョウセンカマキリ、オオカマキリ）

なお、①触角長さの体長比が、36%なら雄のコカマキリかチョウセンカマキリ

②触角長さの体長比が、56%なら雄のオオカマキリ

即ち、体長にたいする触角長さの比率を求めれば、絶対評価として一匹でも雌雄の判別  
が可能であるといえる。また、触角長さから、雄カマキリの種類も、一部ではあるが判別  
できそうであるが、今少しデータ数を増やして信頼性を確認する必要がある。

表 カマキリの触角長さ調査解析結果

カマキリ	雌 雄	体長*	触角長	体長比%
コカマキリ／緑色	雌	55	11	20.0
同 / 茶色	雌	61	11	18.0
ハラビロカマキリ	雌	53	13	24.5
オオカマキリ／羽なし	雌	69	16	23.2
同 / 婁腕	雌	72	19	26.4
平 均	雌	-----	-----	22.4
コカマキリ／茶色	雄	47	17	36.2
チョウセンカマキリ	雄	61	22	36.1
オオカマキリ	雄	68	38	55.9
同	雄	67	38	56.7
平 均	雄	-----	-----	46.2

\*：体長は頭部から羽先端でなく、尾の先端までの値

表題【クビキリギス】

投稿日【2001 / 04 / 17】

【草津市 中後佐知子】

ほかほか陽気の3月初め、鮮やかな黄緑色の葉がガレージに、新緑には早いのにどこから。と、そばに行くとバッタのようなのが横たわっていました。触ろうとすると、むっくり起き上がって動きますので、暖かい庭のほうに移してやりました。

それから2・3日後の8日夜より雪が降り、3月にしては珍しく積もりました。どうしたかと心配していましたが、雪の解けた玄関先で足がもげつぶれた状態で見つかりました。瀕死の状態だったのに随分動いたものだと思っていたら、庭でももう1匹見つかりました。

こんな早い時期に見たことがなく不思議に思ったので、質問コーナーで聞いてみました。

調べて頂いたところ、クビキリギスで、1度物に噛みつくとも首がちぎれても離さないから名付けられた昆虫だそうです。

バッタ目キリギリス科 夏に畑などでジイジイと喧しく鳴く。

成虫越冬をして、春に卵を産み死ぬのだそうです。でもこんなに早く出てくるかは分かりません。あわてんぼうで早く出て来過ぎたのかも知れませんね。2匹でペアなのかしら。

皆さんのところでも、見かけられたことがありますか。私は初めてだったので不思議に思いましたが、それだけ自然に関心を持ち始めた証拠なのかも知れません。フィールドレポータに参加して、随分と知らない世界を垣間見る機会が増えました。これからも楽しく続けて行きたいと思います。

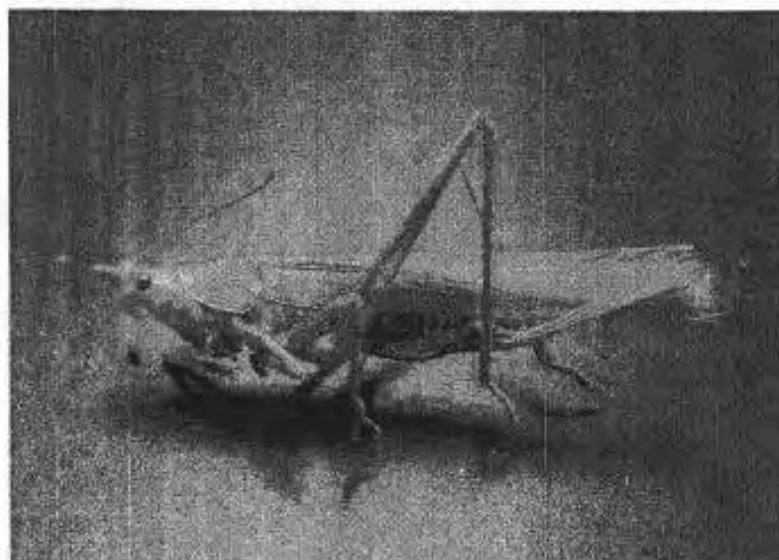


表 題【 例之ば、スズメやヒバリがいなくなろ！ 】

投稿日【 ~~5月7日~~ 】お名前【 能登川市(町)村 石井秀憲 】  
010507

〔 例之ば、スズメやヒバリがいなくなろ！ 〕

田んぼの畦の草を農薬(除草剤)で(化学的に)枯らすのは止めて、  
以前の様に鎌か、草刈機で(物理的に)刈るべきだと思ひます。  
今、あちこちで、あぜが茶色に変色しているのは、農薬で枯したせいです。  
私見ですが、除草剤の野生生物に与える害は、甚大なものがあります。

1. 先ず、薬を撒いた時、薬を絡めた生物は死滅します。
2. 植物(草)が行う、光合成作用が長期にわたって行われなくなり、それを餌としている、微生物や昆虫が全くいなくなります。

即ち、食物連鎖の基礎となる植物の光合成作用による生産される炭水化物が全くなり、長期にわたって回復しないため、そこには野生生物の生態系に壊滅的な影響を与えるということになります。

例之ば、スズメやヒバリ等は、この時期あぜには昆虫やミズ等も、子育ての貴重な餌としています。これがいなくなると、従って子育てが出来ない！  
私の所でも毎年、子育てが難しくなっているのが分ります。少子化が進んでいます。

これはあぜの植物にかかっている全ての野生生物に言えることです。  
種が絶滅するものも、出て来るでしょう。

年に、手軽に作業が出来ることや、農薬メーカーの「根こそぎ枯れる」などの宣伝で、その使用面積は急激に拡大しています。あぜだけでなく、川の土手や、広場の除草にも使われようになった。恐いことです。野生生物のことを思いやりを持つのが欲しいものです。

私の主張に賛同いただける方は、知り合の農家の方にも、面倒でも草刈機で刈って貰うよう説得に貰えませんか。

この件、私見でして「データアップ」は出来ていません。本博物館としてテーマとして取り上げて貰えませんか。

農薬メーカーの見解や、安全性のデータ等を知りたいものです。  
枯草剤といへば、ベトナム戦争で米軍が使った枯草剤を連想します。  
残留したものが、びわ湖に流れ、遺伝的には大丈夫なんでしょうか。



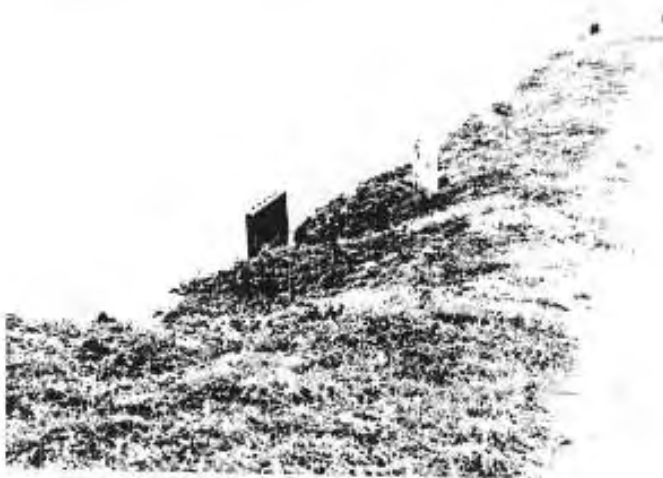
前ページの説明

写真を5点同封していただきましたが、カラーではよく判るのですが白黒では余りよく判りません。

送っていただいた石井さんには申し訳ありませんが、次の写真で少し手を加えて説明いたします。

概ね、農薬を使用した田んぼの畦の状態です。

白い部分は農薬を使用したところ、黒い部分が農薬を使用しない緑の草です。



昨年はプランターで水稲を作り、その越冬栽培を試し、ほぼ可能であるとの見通しはつききましたが、少々旅行をしたりして自身のある証明には至りませんでした。

その時残った稲藁を使い納豆作りに励み、ついに一般家庭で、多分経済的にも見合うと思われる方法を見いだしましたのでお知らせします。

手順

- 1 大豆を約一昼夜水に浸し、十分にふやかす。
- 2 大豆を調味料を加えない水に状態に煮る。圧力鍋を使うと速く煮上がるが、その時は水を少なめにする。(水分があまり蒸発しない為。)
- 3 大豆の煮上がる頃合いに合わせて別の鍋にお湯を沸かして置く。
- 4 ステンレスのボールの底に、天然ナットウ菌にこだわるなら稲刈りの後に伸びた稲を一株分(犬の尻尾程度、この場合の犬はチワワでもグレートデンでもかまわない。)敷き、納豆に稲藁が混ざらないように、その上からキッチンペーパータオルを敷く。  
天然ナットウ菌にこだわらなければ、少量の市販の納豆か、納豆のネバネバを稲藁の代わりに、直接煮豆に混ぜる。(試してはいないが、多分調味料を加えない物の方が良さそうに思える。)

\*\*\* 天然ナットウ菌製と市販品との差を期待していたのですが、殆ど感じられませんでした。

- 5 上記のボールに、煮上がった大豆を一気に(熱いまま)入れる。
- 6 煮豆の入ったボールを上記3の鍋に、湯煎状態に浮かせる。浮き過ぎる場合は適当な重しを入れる。(納豆についての本には「80℃以上にしないこと。」と書いてあるが多分ナットウ菌は沸騰から火を止めた湯煎の温度にも耐えられる。)
- 7 後はダンボール箱等で保温し、温度が下がったら鍋ごと過熱するか、お湯を入れ替える。納豆の匂いがしてきたら、箸でかきまぜて食べ頃を見つける。

\*\*\* 最初、大豆が冷えない内に、ナットウ菌と出会えば必ず納豆は出来ます。後は、律義に加熱と保温を繰り返せば速く出来上がり、あまり加熱しなくても、その内には食べ頃になります。徐徐にですが冷蔵庫の中でも納豆の熟成は進むようです。



全体をダンボール箱等で保温する。

グルタミンさんはっこう — 酸発酵 glutamic acid fermentation (英) Glutaminsäuregärung (独) L-グルタミン酸\* は従来はコムギ中のグルテンまたはダイズ粕等のタンパク質を加水分解して得られたが、1956年に木下祝郎等が発酵により窒素源を加えた糖類から直接L-グルタミン酸を作ることに成功した。この酸を生産する菌はバクテリア\*、糸状菌\*、放線菌\*にもあるが、木下等はL-グルタミン酸発酵に最適の菌に *Micrococcus glutamicus* と命名し、この新菌種を利用して、発酵法によるグルタミン酸ソーダの製造を工業化した。

納豆に関する疑問 どなたか教えて下さい。

1 ナットウ菌は稲藁について何をしていますか？

初から育てた稲に住み着いているのだから、多分空気のあるところ何処にでも命の元は有るのですが、藁との縁がなになのか、特に稲藁の生分解に寄与している様にも思えないのですが。又、嫌気性・好気性のどちらなのですか。

2 発酵・醸造・生分解・(納豆のきれいな火とには)腐敗・のどれに当たるのかは分かりませんが、ポリグルタミン酸生成の過程で空中窒素は固定されないのでしょうか。大豆由来の窒素だけなのでしょうか。初期の発酵法による味の素の製法が、納豆を思わせるものがあります。この場合は原料に窒素を添加しています。

AJINOMOTOについては、昔の、日本が三等国意識で自信をなくしていた時代に、メルク インデックスにこの文字を見出し、勇気づけられたことを覚えています。

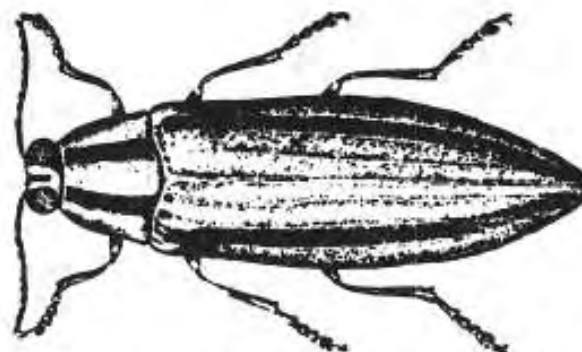
表 題 [タマムシ象眼の樹を見つけました]

投 稿 日 [010429]

名 前 [彦根市 加固啓英]

愛知川右岸、葉枝見橋の少し上手(メッシュ コード 5236-6143)の堤に周囲2m程の立ち枯れた樹があり、その上の方はカワラタケでおおわれています。この樹には無数(多い所は20cm角に20個程)の楕円形の孔(長径17mm短径5mmほど)があります。その孔のいくつかには、赤・青・緑の金属光沢の物が詰まっています。他のいくつかには木屑が詰まっています。

この金属光沢の物を掘り出してみましたところ、全てが頭の無い、干からびたタマムシでした。多分樹を離れる前に鳥につつかれて頭だけ食べられたのでしょうか。この樹の根元にはナイフで削った跡があります。この努力は報いられたのでしょうか。この木屑の詰まった孔にはまだタマムシがいるのでしょうか。この樹のタマムシを全部使えば一基ぐらいは玉虫の厨子が作れそうです。



タマムシ *Chrysochroa fulgidissima*

学生版 日本昆虫図鑑 北隆館 1983より

表 題 [ケナフにこだわりのある方へ]

投 稿 日 [010502]

名 前 [彦根市 加 固 啓英]

以前に環境問題に関したいくつかのイベントや会合等に参加しましたが、残念に思うことは、以下の点です。

- 1 同じような趣旨、目的のグループが多数ありながら、横の繋がりが無いため情報やスキルの交流や共有が出来ず、互いに知識や技術を高めあうことが無いこと。
- 2 趣味と環境改善のムード作りと持ちだしの資金・労力での自己満足の範囲を出られないでいること。
- 3 約一年たつと、また振りだしに戻り、また同じようなグループが誕生し、前年と同じようにスタートから出直していること。

それは、必要なことであり、通らなければならない道だったのでしょうが、そろそろ力を結集して採算ベースまではともかくとして、製造ラインに乗せられるものかどうかの見極めが付くまでひと踏ん張り頑張って見ようではありませんか。Go no go の見極めを付けようではありませんか。

もし、趣味・手芸的なものでなく産業のラインに組み込めそうな情報がありましたらお知らせ下さい。トーレ(株)が壁紙を製造しているらしいのですが、何か分かりませんか。

私は現在モミジアオイ(*Hibiscus coccineus*)というケナフに近縁の植物の種子または苗を手配しているのですが、なかなか入手にいたりません。もし手に入り、十分に増やすことが出来たらケナフとの比較試験をして見たいと思っており、ご指導ご協力をお願いします。

これは、北アメリカ原産の明治初期に渡来した観賞用の紅い花を咲かせる庭園植物です。渡来してから年月を経ていますので野性化の心配も少なく、地上部は冬季枯死しますが、地下部が越冬し、次の年は株立ちが増えますので、毎年種子から育てる手間が要らず、地上部は年毎に収穫量が増しそうです。花は鑑賞に耐えますので自動車道路や市街地の植栽にも使え、植栽の手入れのついでに収穫が可能となると思います。

私もケナフをプランター栽培したことがありますが、この植物は多分セイタカアワダチソウが繁茂している放置された河川敷等に適しているように思われます。そうすると借地代は只か安くすみそうにも思われます。但し、刺だらけの果実から種子を取り出す作業は非常に痛痒くてつらいものとなります。この点でもモミジアオイは有利です。



表題【どんじりの花とその他いろいろ 菜見ツアーに行ってきたよ】

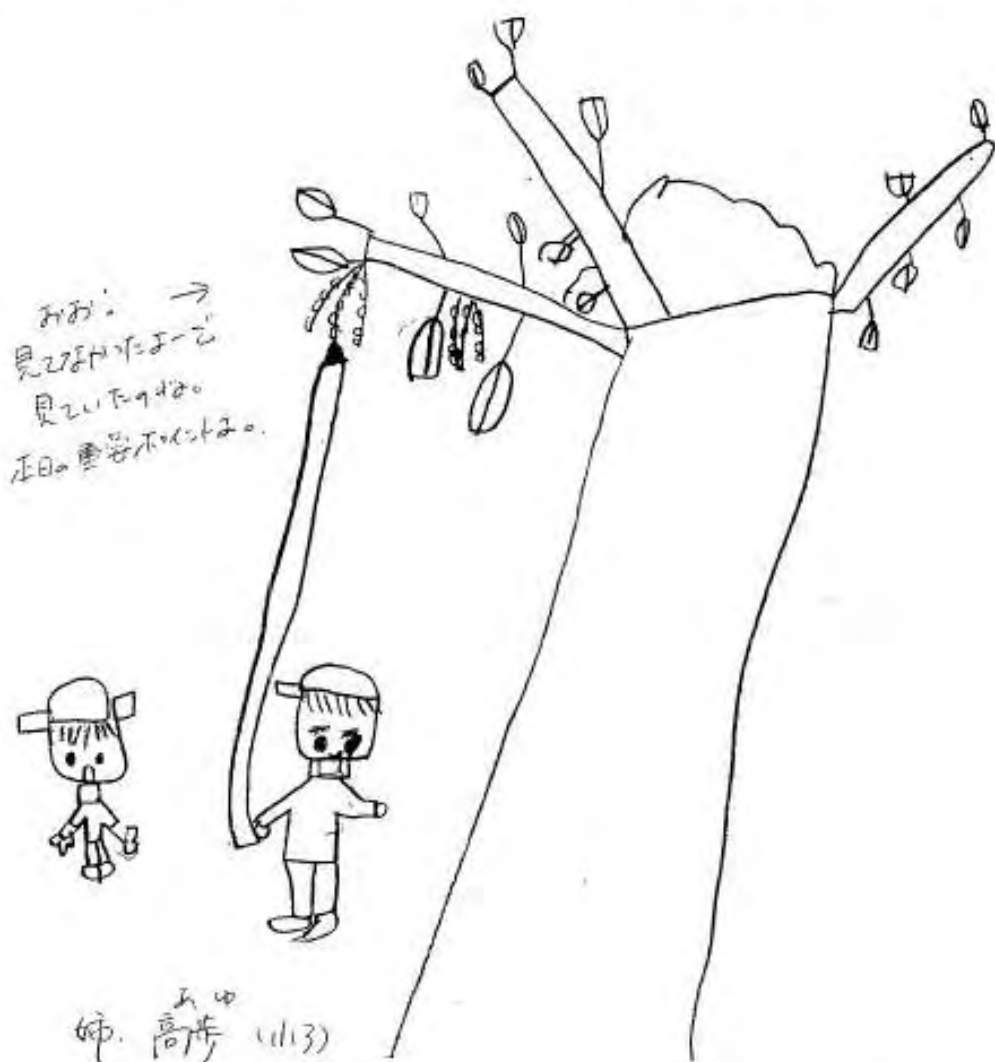
投稿日【11/3 5/6】お名前【大津(市)町村いたにかあこ (保育士)】

母は自然観察よりも、今は人間の心理学とかにこじています。  
姉は、山登り、がけ登り、木登りなどの体育会系です。  
妹だけが、研究・観察・調査に興味があり、大人達の人垣に  
入り込んでまで、博士のお話を聞いていました。

家族で出掛けると、山登りにしろ、ハイキングにしろ、足元しか見て  
いれませんが、頭上を見る大切さを姉妹が理解できていると嬉しい  
ですね。

葉・花・実を見つけるとは「何やろ?」「何て言うやつやろ」との探求心  
が必要なんですね。

本日の母の菜見!! もやしやめしがおは種の中み = 双葉だけのこと、  
どんじりって、わろの中みがそのまま双葉にびるんじやなくて、別に根と  
茎一葉が出るんだ。←改めてこいふと考える機会で、ありがたいですね。



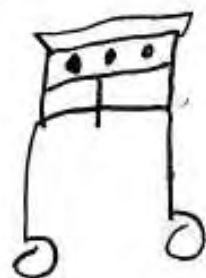
だいじんじたまぞがんぼであるいた

ひうけ

らがっもか

なまえ

いたにらみ小が1ねん  
じやうしおまつしりかま1ちがみ



① どんぐりしらべについて おもたこと

いろとりあまやどんぐりけんきく  
してあごくおもしろかった



② どんぐりしらべで わかたこと  
どどりがいたおもしろかったことか  
わかった



③ どんぐりほかせのせんせいとともだちのひとへ  
マドモ<sup>も</sup>いっしよにトナト<sup>き</sup>あつしてくだされ

妹 園<sup>3</sup> 潤<sup>4</sup> (小1)

題山のいがんばったよ。

日付 5月6日

名前 井筒 小三

住所 大津市

① どんぐり調べに行つて思つたこと

絵を書きました (別紙)

② どんぐり調べでわかつたこと

どんぐりのあがてていマ  
わんてはなつていたよ。

③ どんぐり博エの先生や友達の人へ

リョリに巻とあつた。 (京阪。どんの島で  
降りらん(かも42) (211) (1=)

## へちまクラブだより (その2)

5日は、端午の節句そして立夏でした。へちまの種を土にあずけてひと安心のところですが、芽が出るまで、自然のサイクルにまかせ水やりはしません。芽のでる時を、のんびり気にせず待ちましょう。忘れたところに必ず芽が出ます。気長に待ってください。

わたしは、その1でお伝えしたように、10センチメートル間隔でばらばらとたぶん50粒くらい適当に、そして博物館からいただいた10粒を4月29日に蒔きました。およそ畳1畳の面積です。

雨が降ることを予測して水はやらなかったのですが、有り難いことに予測どおり午後から慈雨。安心しました。

畑の土を打っていると昆虫の3センチメートルぐらいの幼虫が3匹でてきました。「ごめんね」という感じで土の中に返していると夫が「ほかせ」というので「なんで」とたずねると「根を切ってまいよう」と教えてくれました。

土のなかで7年も過ごしこの夏やっとセミになろうとしている幼虫をほりだすのは、かわいそうに思いましたが、夫の教えたように道にほりだしました。

そのことが気にかかる平成13年のへちまの種蒔きでした。

とにかく、土が水と実をつくる第一歩をふみだしました。

高瀬さんからは、へちまの種の蒔き方の質問をいただきました。数人の方から、種を蒔きましたとご報告をいただきました。

そのなかからひとつ、ご紹介します。

表題【へちま委員長に ジェネラル】

投稿日【4/27】お名前【大津市町村 いちにあゆ】

へちま委員会委員長様、  
ひつとして、2年くらい前、「平成環境塾」の  
へちまおぼえまかなー。種子もったことある子。  
もしそのおぼえまかなー またお会いできたのね。  
その時にできたおぼえまかなーに持込して、美しおぼえま  
かなーの部(おぼえまかなー)。  
by 環境塾の元に出た親子(おぼえまかなーの部)。

いたに あゆ様

お便りほんとにうれしく読ませていただきました。ありがとうございました。

「環境塾」でお配りした種を育ててくださったのですね。そしておふろで楽しまれたのですね。あゆさんの楽しくあかるいおうちのご様子が目にうかびます。

「ことしものがんばるわあ〜。」のひとことにおばさんも勇気がわくのを感じます。おばさんもがんばります。またおあいしましょうね。

「リサイクル」の部でかつやくされていたあゆさんへ。

では、また次号でお会いしましょう。

楳本さつき

編集部からのおしらせ (芳賀裕樹)

へちまクラブでは、へちまを育てると同時に、昔ながらの洗い方の工夫についての情報も募集しています。こちらの方もよろしくお願ひします。



## 「フィールドレポータースタッフからの一言」

三寒四温と寒暖を繰り返して、いよいよフィールドへ飛び出す絶好の季節になりました。今年度もフィールドレポーターへの参加者が120名ほどに達していると聞きました。

最近では自然志向ブームのようで、琵琶湖博物館の交流、サービス関連行事で開催されている体験学習や観察会には、参加募集定員をオーバーして参加できない催しもあると言う事も耳にしています。

私達のフィールドレポーターは、あくまでも自発的な参加型の集団ですから、定員も、抽選もありません。スタッフといえども同じで来る人すべて歓迎しますのでどうぞ。

知りたいナー？、調べてみたいナー？、と思っている身近なことを、みんなで話し合い、テーマや調べる内容などを作り上げてフィールドレポーターの皆さんの積極的な参加行動に依って調査をして、交流会やフィールドレポーターだよりで、その結果を報告している訳です。

詳しくは、4月25日ごろ琵琶湖博物館フィールドレポーター担当桑原さんからの送付類

の中から「あなたは今日からフィールドレポーター」を読んでいただくと活動の全容がよく判ると思います。

フィールドレポータースタッフが書いた「フィールドレポータースタッフ」の欄を読んで、一度行って見ようかな？の淡い気持ちを実行に移してみませんか。

担当 武田、古谷

### 表題 【フィールドレポータースタッフに学ぶ】

投稿日 【010428】

【名前 古谷 善彦】

フィールドレポーター制度は、琵琶湖博物館が当地で開館されたとほぼ同時期に生まれて、今年度は5年目に入りました。

もうそんな年数が経ったのだろうか？と疑うくらいのスピードで今日を迎えていますが、実を言うと、自分自身フィールドレポーターはもとより、スタッフとしてどれだけ役に立ったかよりも、どれだけ好奇心を以って学ばせてもらったかと言う実績しかないのです。

それでも、スタッフの皆さんは誰とでも和気あい合いの情報交換など雰囲気がいいし、好きな事に積極的に拘わっていけば個人差、能力差などは問題外、それは自然に学ぶ懐の大きい思慮から生まれてくるのかも知れないなどと思ったりもします。

タンポポ、カマキリやどんぐりの種類や見分け方はもとより、たんぽの生き物どころか、たんぽを見ることなど想像もしなかったことを今、忙中閑に自転車で走り回ることもしばしば？（否、ときどきかな？これからはもっとたくさん見て歩きたい気持ちはある）です。

何でもそうであるように 出きる・出来ない、の選択よりも先ずやってみると言う前向きな姿勢が、やれると言う自信にも繋がるのではないかとつくづく思います。

これからも好奇心を旺盛にして、邪魔にならないようにスタッフとしても参加していきたいと思っています。スタッフ参加に迷っている方、私と一緒にスタッフしませんか。

フィールドレポーター

# 掲 示 板



2001年度 第2号 通巻第13号 (6月)

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。いよいよとうとう梅雨の季節となりました。みなさんはいかがお過ごしですか。とはいっても、今年の梅雨は陽性ということで、ちょっと降っては晴れるという状態で、意外と雨が少なく過ごしやすいですね。これから梅雨も本番になることと思いますが、健康に気をつけながらフィールドレポーターの活動をお楽しみください。



ところで、みなさんのところのヘチマはいかがですか。今年は、春先から雨が極端に少なかったせいか、ヘチマの発芽がずいぶん遅れていたようです。今回の掲示板にも、なかなか芽が出ないという投稿がありました。1ヶ月ほどかかって何とか発芽したようですが、ヘチマも生き物なので環境に大きく影響されるのでしょうか。ヘチマは、水をたくさん必要とするそうです。今のところ、この梅雨も思うように雨が降っていませんか、今後十分な(といっても災害が起きるようでは困りますが)雨が降ることを願いましょう。これから夏に向けて、立派なヘチマの実ができるよう見守ってください。

今年度のフィールドレポーターは、新しく参加していただいた方々も含めて、120名(家族)の方々が参加してくださっています。また、掲示板への投稿もたくさんいただいています。特に、以前の投稿への反応や情報提供などが増えてきています。掲示板は、フィールドレポーターのみなさん同士のコミュニケーションの場と位置づけて、古谷さんと武田さんにご尽力いただいて発行しております。これからも、身の回りで気づいたことや疑問に思ったことなど、積極的に投稿していただきますようお願いいたします。



そろそろ6月も半ばをすぎましたが、今年度の第1回フィールドレポーター調査「私の選んだ21世紀に残したい湖国滋賀(わが町)のいろいろ!!」の調査用紙の返送があまり多くありません。今回の調査は、これまでのものと異なりみなさんの思いを寄せていただくものなので、ちょっと書きにくいところもあるとは思いますが、今みなさんが感じておられることを寄せていただくと幸いです。21世紀最初の年のフィールドレポーターとして、わが町湖国にどのような思いをみなさんが持っておられるのかを記録しておくことも、将来のためには意味のあることではないかと思いますがいかがでしょうか。

フィールドレポーター7・8月の予定をお知らせします。

- ・7月7日(土)  
定例会：C展示フィールドレポーターコーナー展示替え 等  
於：琵琶湖博物館交流室 13:00～
- ・7月15日(日)  
定例会：第1回フィールドレポーター調査とりまとめ  
於：琵琶湖博物館交流室 14:00～
- ・8月4日(土)  
定例会：  
於：琵琶湖博物館交流室 14:00～
- ・8月12日(日)  
定例会：  
於：琵琶湖博物館交流室 14:00～

※予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。

## フィールドレポータースタッフからの一言

季節の変わり早いもので今年も、もう梅雨に入りました。フィールドレポーターの皆さんお元気でしょうか？。

今回もフィールドレポーターの皆さんから、たくさんの掲示板への投稿を寄せていただきました。新しくスタッフに加わってくださる方も徐々に増えてきましたが、琵琶湖博物館の新しい活動や学習会も増えてきましたので、スタッフの人たちもそれぞれに、皆さんと同じようにあちこちのグループに参加して食欲に知識を広めようと懸命の日々のようです。そんな現状ですから定例会に集まる人数が少ない時もありますので、まだまだたくさんの方がスタッフへ参加して下さることを願っています。

ところで、二年続いた「田んぼの生き物」調査は、もっと詳しく調査をしたいとの要望から発展的に「はしかけ」に移して今年もより中身の濃い調査が続けられているようですが皆さんの処では如何でしょうか。この時期になると田んぼのエビ類を見ないと収まらないと言う〈田んぼ中毒人〉が多いようです。私達もそうかも....。

そして、昨今は自然への志向が高まると共に環境を守ろう、大切にしたい次の世代へ引き継ごうと言う運動も増えました。自然を守っていくためには私達も田んぼの生き物や土など採取したものを、調査にそぐわない意図的に他の場所へ移動させる事のないよう自然を大切にしたいものです。

フィールドレポーター長め調査「へちまクラブ」の、へちまも芽が出てきたとの声も聞きますがどうでしょうか。へちまクラブの投稿記事はこの掲示板に掲載することになっていますので念のため。

ただいま、今年度フィールドレポーター第1回調査を実施中です。[21世紀に残したい滋賀のいろいろ]にどんな結果が出てくるのか楽しみです。早めの調査回答を待っています。

担当は 武田と古谷でした.....

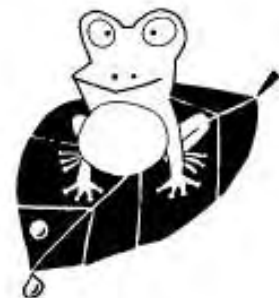




表 題 「ナマズの産卵」

投 稿 日 「010524」 名 前 「志賀町 尾形 勇」

去る 5月19日 夕「志賀町水環境を守る会（任意団体）」で 学習一環の行事として  
「ナマズの産卵を観察しよう」と題し、講師には琵琶湖博物館専門学芸員前畑 政善先生  
をお招きして 講義と実地観察会が行われました。

この会は 早くから案内されていたので みんな今日を待ちに待って 集まりました。  
前畑先生から ① 琵琶湖には ビワコオオナマズ、イワトコナマズ、ナマズ（普通の）  
三種類、世界には日本のナマズに近縁な仲間が18種類いる。 ② 世界ではなんと  
2,400種もいる、しかも最大のものは ヨーロッパ ナマズで最大5mにもなるもの  
がある（ダニューブ川などに棲む、水中で動くものなら何でも餌と思ひ人でも喰うこと  
がある。）

③またナマズの習性として夜行性、肉食である、ここでの ナマズは産卵のあと尾鰭で  
その辺一体を 掻きまぜて卵を広く散らかしてしまう。 外敵からの犠牲をミニマイズ  
する種族保存の知恵の手段かと言われる、

④ 地震予知 について ナマズには特殊の器官と体の構造から予知出来るようになって  
いる。現に前畑先生は 昭和54年 水槽で飼っていたナマズが飛び出しその翌朝5時頃  
地震があった 貴重な経験をされている。

（ナマズの敏感な反応後15時間以内に地震計に記録される地震は80%という高率）。  
上記のほか 中国に行かれて 洞庭湖のナマズも琵琶湖と同じ産卵行動をする（産卵後）  
のを見てこられたこと、ナマズには鼻（ある）耳（ある内耳のみ）鱗（ない）などなど  
初めて知る 思いがけない新知識をいろいろ教えて頂いた。この後先生ご持参のナマズの  
産卵の様子を収録された貴重なビデオを見せてもらった。ただ 当日は 天気が良くて  
夜の田んぼの観察では ナマズの溯上は見られなかった。しかし孵化したばかりの  
子ナマズは見つかり ヒゲが生えているのを見て オタマジャクシとの違いを知った。  
先生 が配布された 講義用のレジメは 今後も何かと貴重な参考資料となります。

さて 実は その後 3日目 待望の雨が降りました。先生が帰りがけに言いのこされた  
「雨の晩は 産卵が見られる チャンスだから」と 夜の訪れを待ち急ぎ先日の田んぼ  
に行き はじめは 先ず子ナマズを見つけること重点に五／六枚の田んぼをさがしてい  
たが なかなか見つからず、車を置いた空地の方へと戻り掛けたその時 道の右端を  
流れる用水路の丁度民家の前の当たりの流れでバシャ バシャ と水をかき回すような  
音が暗い中から聞こえた。なんだろう！ もしかして と 手もとのライトで 溝の方を  
照らしたとき 溝の内壁底の方にピタッ と止まった生きもの 50～60 cm であろうかと  
思われる まぎれもない ナマズ だ！ まさしく 話の通りのナマズの産卵の溯上だ  
ドラマは待っていました、感激の一時でした、なおも観察 ライトを照らしている  
間はナマズは早い流れにも耐えて身をビタリと壁にくっつけてピクとも動かなかった。  
早く灯を消してやろう . . . そっと そこを離れた。 いい体験をしたことです。





表 題 「ムクロジの樹があります。」  
 投 稿 日 「010515」 名 前 「尾形 勇」 「志賀町

2001年度掲示版第一号で レポーター、スタッフの中後さんの記事を読みました。  
 ムクロジの樹をたずねて居られるようで、偶然の事ながら 私の散歩コースで  
 住いに程近いところに以前から珍しい樹だと思って見ていた木が同名の木でした。  
 しかも県下最大の樹と案内版 に出ています。

場所は 志賀町小野（区）にある小野神社 境内です。

小野神社はご承知かと思いますが。平安の昔 宮廷に使えた 参議小野篁

（小倉百人一首にも下記歌が

一わだの原 八十島かけて漕ぎ出でぬと 人には告げよ 海女のつり舟一

選出されている、すぐれた 歌人でもあります。

を祭ってある ふるいお社で なお本殿は重要文化財に指定されています。

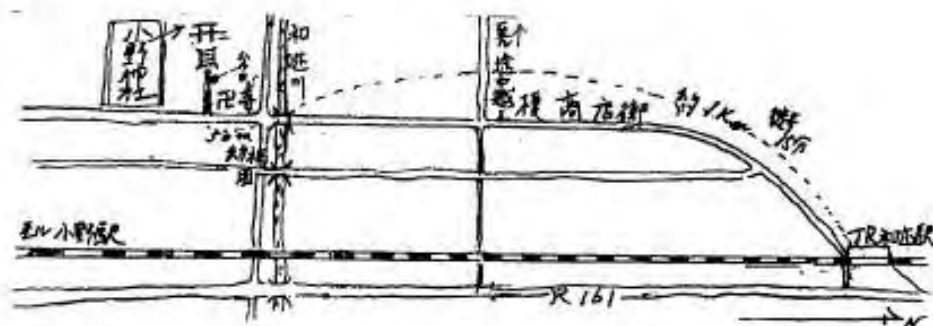
またこの地区は小野一族が住んだところと言い伝えられ 隣接には 小野道風神社も  
 あります。。

樹の横に立っている 案内板には次の様に記されています。

「ムクロジ」

「茨城県、新潟県から四国、九州、沖縄にわたり自生する落葉高木、  
 庭園木として植栽されるが特に社寺によく植えられる。種子は 数珠や  
 羽子などに使われる。このムクロジは 胸高周囲4m19cmあり  
 県下最大の大樹である。」 と

最寄駅（JR和遊駅）からの道順略図（下記）境内のムクロジの樹の写真と同封し  
 ます。ご参考まで。



びわ湖

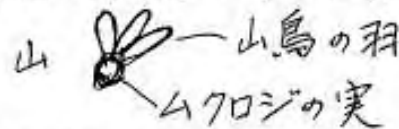




表 題【ムクロジを見てきました。】

投稿日【010603】お名前【守山 市町村 高田 節子】

掲示板1号の「この実なんの実きになる実」を読んで、6、7年前に守山図書館で開かれていた講座で、羽根つきの意味を聞いたのを思い出しました。お正月に羽根つきをするのは、海の神と山の神を招くためなのだということです。つまり、羽子板は海を表わし、羽根は山を表わしているのだそうです。



そして、そのときムクロジのある場所を聞いていたのですが、その村になっていました。6月2日 その場所 大林町の八幡神社へ行ってきました。博物館で見た図鑑のとおりムクロジの木がありました。花の時期はまだだったのか、上の方の様子が変わらず花は見れませんでした。とても大きな木でした。神木はサカキですと教えていただいた木を見ると、これも大きくどれど 氷も大木でびっくりして帰ってきました。

表 題【トングリの花】

投稿日【010511】お名前【草津 市町村 中後 佐知子】

トングリの花観察ツアーは、大変参考になりました。多くの種類が見られるのは残念ですが、栗が見られるので入れて送ります。

3種類の子玉をいただきました。コナラはまだ葉が未だつたところで花はまだ見られません。又、花が咲くまで追いかけていきたいと思います。



5/11 91



5/29



5/9 マラバエイ 矢倉小



5/9

雄花のフシが堅い  
雌花の合が5本の  
今年伸びた3本の枝の  
一番長い枝の先端の1本の  
雌花か?

マラバエイ

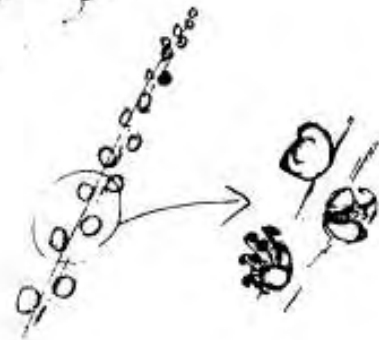
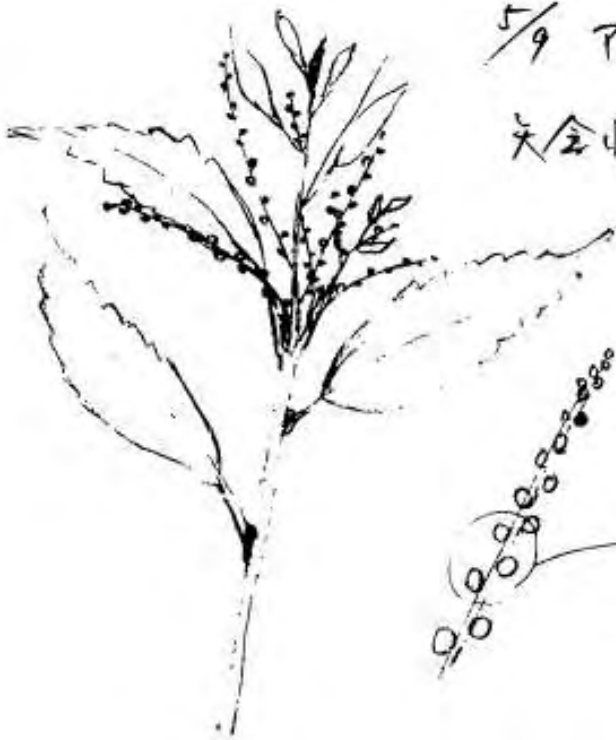
矢倉小



5/9 アラカニ

矢張り

雄花はすっかり落す  
茶色(存)ていふ



5/9

若宮神社のミイ

先端の葉のヒは3から2枚の

1の下葉の根元より1枚 先端より2〜3枚 新の枝がある

表題【テレビにでます】

投稿日【7/3 6/1】お名前【大津市町村いたにあけ】

どんどりしらべのみなさんわたしはテレビにでます。びわこを大事にしたいという思い

エコライフ啓発番組 放送スケジュール

(6月分)

びわこ放送  
BBC

- ①6/11(月)午後10:25~10:29
- ②6/15(金)午後 9:55~ 9:59
- ③6/18(月)午後 6:55~ 6:59
- ④6/22(金)午後10:25~10:29
- ⑤6/29(金)午後 7:55~ 7:59

わたしと妹とがみんが出ます。おこね!!

5回来  
同じテーマ  
が流れる







表 題【古屋のヤマジノ木トギス 以後】

投稿日【01.06.04】お名前【草津市町村 耕甫】

朽木村古屋の林道(保右林道とか)で見たヤマジノ木トギスについて、青木繁先生の見解では、"ヤマジノ木トギス"で、油点の変化は多いところである。全体的には少く、けいれい液質果。特に朽木、比良山地は多いようである。尚、引き続き観察したいと思っております。か。ゆに観察に行、た所の折(?)発見が3つあります。

- ① 山側の斜面、木のそばに木むれ陽程度の場所にササユリの株を6-7本見つけました。小さいものもみもありました。2? 1-2回向う方に開花すると思われず。
- ② 林道入口ふもとでモリアオガエルの卵を4こ見つけ、感激しました。更に足元、道が通るためにモリアオガエルのメスが坐り込んで(?)いました。やせこけて、へたば、ていふふうでした。
- ③ 上流の沢におりて水玉が打て、パンを食べて、子と水中で"ネズミ"がヒューヒューと石づたいに走り抜け大石の下へ潜り込んで消えました。

水中で銀白色の毛皮がきれいに光り赤めのシツカが長く印象的でした。ネズミに追われてカジカ(魚でもヨ)が石の下から逃げ出し、川の途中でカトンとしていました。[ヤマジノ木トギス-06-03]



表 題【キクザキイチゲ】

投稿日【01.06.04】お名前【草津 田町村 勇芽】

去り4月下旬、即池川(衆知川上流)に行、在所。一ツの岩筋  
で、点在していたのが、このキクザキイチゲで、花びら(?)が  
多く、まぶしい純白と濃緑の葉が印象的でした  
おもしろいのは、同時期(1-2週間前)即池川の三ヶ所の  
岩に入、たので、植物が片寄、ていたことでも  
一ツの岩は二輪草もキクザキイチゲもなく、ワサビの群落(ふん  
一ツの岩は二輪草だらけ、一輪草も1ヶ所、ワサビはなし  
一ツの岩はキクザキイチゲだらけ、二輪草なし、ワサビ 点在程度  
おもしろい現象だと思、ました



キクザキイチゲ

表題【ヤマジノ木トギス(と思われる)の油点について】

投稿日【01.05.15】お名前【草津(市)町村 勇尊】

朽木村古尾地区(ヤマジノ木トギスNo. 1335-0604)。地えで保護林道と叫ばれている地域で、同科トギス類の油点の変わった木トギスを見つけた4枚葉、50cmの範囲内で見つけたもので、林道の左右は植林杉林にあり、南向山側斜面林道沿いで、日当りは、半日か午程度で、周囲はトギス類、他の強い植物は少ない、トギス類、一般に見られるヤマジノ木トギスより、葉の色は明子色で、油点も殆どない株は、他にかなり数見られ、通常油点の多い株と混在している(写真①)にあるように、葉の中央がべたり油膜状に付着している株はこの2株だ、たゞ思えば、地域の方の話では、夏に葉刈りをするときは、かなり花、結実の時期で見たり、花付きの様子、結実したときの採取等していたり、何かどうしてらういふのか? 単なる油点の変化だけなのか... 花も少しはちがうのか? 興味津々です (写真撮影 01.05.05)

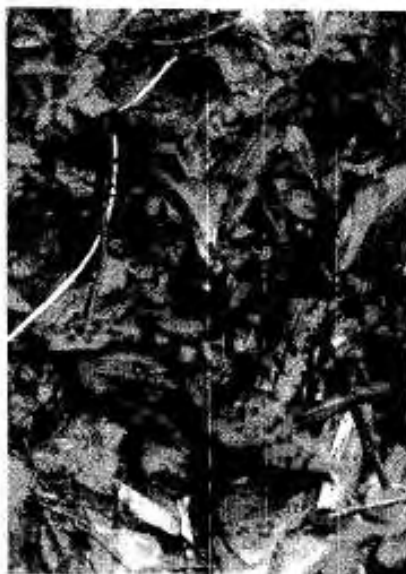




表 題【朽木村 古屋 復り。(ヤマジノ木トギス 493)】

投稿日【010614】お名前【草津 田村 壽茸】

油点の变化した木トギスは「ヤマジノ木トギス」だ。たことは前回報告致しました。その後古屋に長工さんに依頼して、赤い印をつけた株数本だけでも、草刈りから守っていただけのことになりました。今日1m程に育っていました。花芽、枝わかれは子だ「まだ」です。として新たに発見したササユリも、観察、種採取のため残してあっただけのことになりました。ちょうど花のさかりで、清らかな美しい花にうっとりしていました。開花した株4株(うち1つは花がとらえていました)未成熟の葉の枝の株3株でした。長工さんに5枚は、昔はも、とたく工ん味いたこと。秋に種が成熟したら、ふよんに種をまきたいと思っております。花の味くまで6-7年のかかりは知っていました。種をまくらについてふよんの環境等、注意点、留意点ありましたら教えて下さい

尚、ヤマジノ木トギスも忘れてはいけません種に於けるふよんにまきたいと思っております



朽木村 古屋 保谷林道

ササユリ



表題【今年ほかう梅雨？】

投稿日【0/06/14】お名前【草津市町村 寿芽】

ヤマジノ木トギスの観察に行った時、朽木村、百屋梅木線の能家ふもとで、数ヶ所、モリアオガエルの卵を見つけました。但し、写真のように、地面の水たまりふもとに直接産みつけられていたようで、他にもふもとありましたが、どちらかという、地面に近く、木の根というより、低いイドリノ根についている方が多く、道路際コンクリート壁のコケにまでついていました。水たまりまで、高さ10cmほどです。それにしては、地面にまでとは、少し産み急いだのか、晴れ続きで、雨の蒸気配を感じなかったのか。別の場所ではアスファルトの切れめ、車道いつでも通りやすい所にもありましたので、もしかかえこみ、少し離れた水たまりの草むらへ移りました。モリアオガエル手帳ほかう梅雨と読みましたか……。



朽木村 能家地内

モリアオガエルの卵

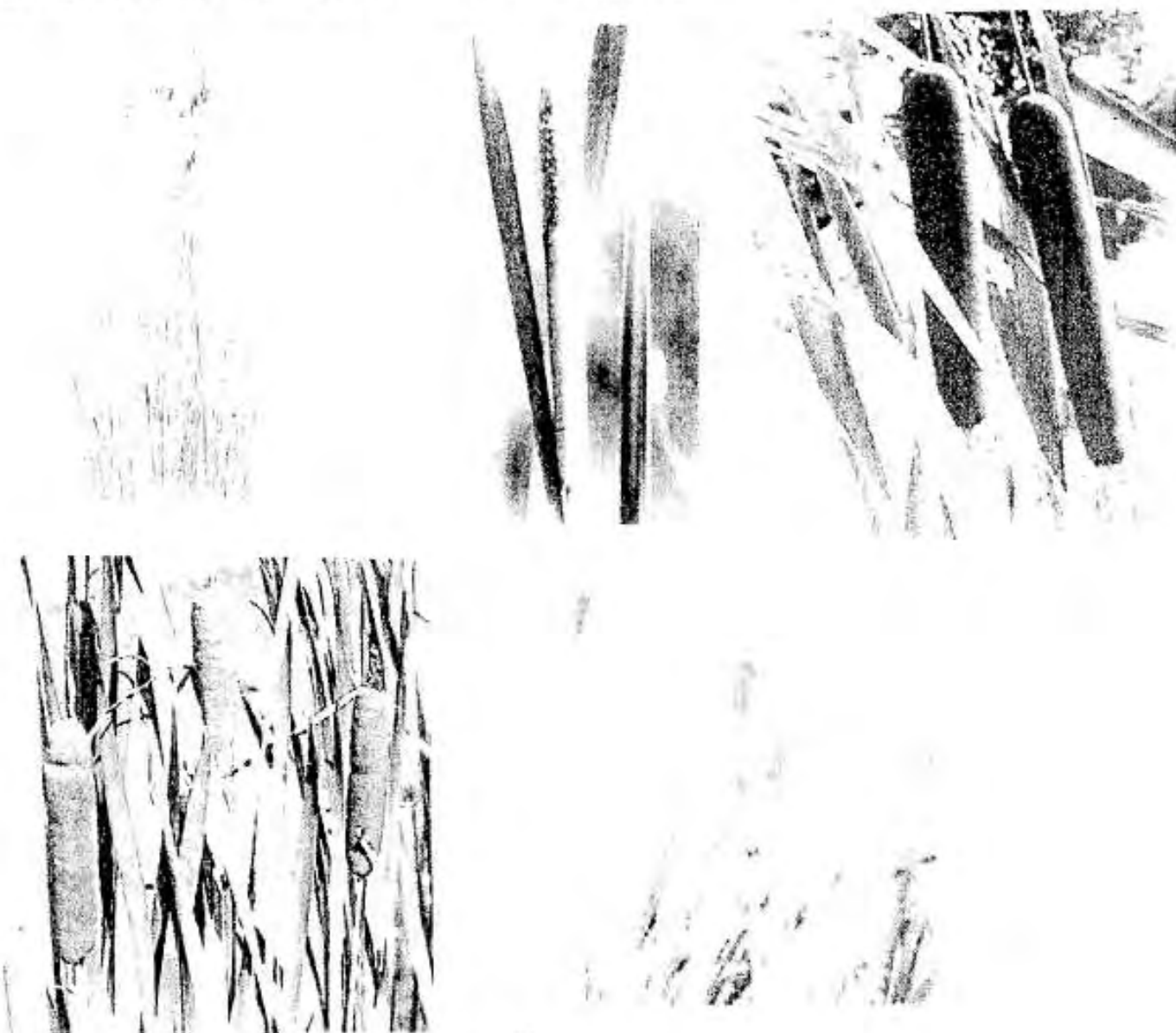
(この水たまりには他に5個あった)



1. 先日、琵琶湖団体20周年記念の集いの飲み会に出席し、思いでの品として持ち寄られたキャンペーン用の草花の種子(マリーゴールド・フレンチとコスモス)を持ち帰りました。なにしろ20年以上前のものであり、ハズのように特別に強い種類でもなく、テスクの引き出しに忘れられていたもので、ほんの少量なので99.99%発芽は無理かと思いませんか、ダメモトで発芽・栽培にチャレンジしてみるつもりです。  
つきましては、発芽に関して、有利に働くと思われる条件をご存じでしたら、どのようなことでも結構ですからお教え下さい。
2. 2月2日より我が家の庭に、ものすごく音痴なウグイスが訪れ、ジャー、ジジ、ジュとしか聞こえない声で、朝の6:30ごろから10分ほどさえずって行きます。(始めからササナキは聞かれませんでした。)このごろは少し上手くなりましたが、肺活量が不足のようで、ひどく短く声量も不足のです。この辺りでは、よくモズがセグロセキレイのまねをしますので、初めは疑ったのですが、メジロよりやや緑褐色の姿を見かけました。
3. 2月21日、彦根市金田町(5236-6155)の畦道の5m程の間にアオサギ19羽、コサギ17羽が押し合うように集まっていました。陰になる藪がありましたので、実数はもっと多かったと思います。今までにアオサギの5羽以上の群れを見かけたことは、ほとんど有りません。
4. このあたり一体の畦道に、すごい密度でモグラの穴やモグラ塚を見かけます。水田の後作に麦を作付けした畑に接した反対側がコンクリートの水路で退路を断たれたところに多いようです。  
\* モグラは水路(泳いでいる写真は見ますが、側壁が垂直に近いので?)や舗装道路は越えられるのでしょうか。棲息域が寸断されてしまわないのでしょうか。
5. 愛知川の河原(5236-6143)の雑草のロゼットはなかなか見事です。水辺に近い砂にはコマツヨイグサ、少し高い芝生状の場所にはタンポポがコンパスで描いたような真円を敷き詰めたように覆っています。タンポポにはかなり多数の花と綿帽子が見られます。(すぐ近くの水田の畦(5236-6145))には、毎年沢山の在来種が咲きますが、今は全く花は見られません。)総包片は反り返ってはいないので、在来種のように思われます。  
\* 子供向けの本などで、外来種のタンポポが在来種を「取って食う。」か「押しつける。」と取れる記載が多くみられますが、在来種の衰退は、腐植質に富む表土の攪乱や除去、土壌の乾燥化、生態の相違などが主な原因ではないかと思うのです、確証のない無責任な訂正や発言も出来ませんので、正確な知識や情報によるサポートをお願い出来ないでしょうか。
6. 昨年の暮れにカナダのイエローナイフから持ち帰り、鹿沼土に挿し木したおいた木の枝の芽が、わずかに膨らみだしたように見受けられます。発根までには、まだまだ難関があるとは思いますが。  
昨年から越年栽培を試していた「福」は今年の一月中旬に枯れてしまいました。  
(年末に6日程家をあげ、その間、保温と照明を切りました。)足掛け2世紀は生き続けましたか、丸一年は生きられませんでした。

前号の掲示板（本年度第1号）で、甲西町のがまじん（ペンネーム）さんが蒲に一目ぼれのよし。優しく読ませてもらいました。かく言う私もカマキリに一目ぼれして一年半ほど経過し、カマキリの産卵調査、越冬飼育、そして目下、卵のうのふ化状況調査にてんてこ舞いしています。運届抜きで一目ぼれしたものを夢を持って育てていく楽しさは何とも言えませんね。がまじんさんが蒲の県内分布まで調べようとの意気込み、一人でこつこつとやるもよし、グループでやるもよしです。今回、フィールドレポーターに応募されたよし。グループで進める一つのチャンスだと思います。

私が知っている蒲の成育地の一つは、長浜市加納町の田んぼの中（長浜ICの東北側すぐ）にある白山神社（伊吹山を背景に、長い参道の左側は梅の木の列、右側は桜の木の列が見事）のそばを流れる約3メートル幅の水路です。数年前、この近くでアルバイトをしていた時見つけたもので、多くはありませんが自生しています。もう一つは今年の田んぼのエビ類調査をしているとき見つけたものですが、大津市坂本の北部、西教寺横から日吉台、木の岡の南側を通る足洗川の、JR湖西線東側すぐで、数年前に河川改修で造られた日吉大社から流れる大宮川放水路（未完）との合流点付近です。ご参考まで。



表題【蒲を愛するがまじんさんへ】

投稿日【010523】お名前【大津市町村伊東貴美子】

私も蒲は大好きです。私の家の休耕田に、姫がまが壺一枚  
ぐらいの面積で生えています。もっと広い場所で作りたいのですが  
これ以上土地を取られると他の作物に影響しますので広がらない  
よう根をカットしています。

10年程前に、近くの休耕田に自生しているのを見て、大國生命白兔  
教料書を思い出し、他にない何かを感じ怒しくなりました。ある  
種苗会社から姫がまの苗を取り寄せました。以後見るだけではな  
く、お生花としても愛用しています。今年がまだ穂は出ていませんが  
湿地で元気に育っています。

ちなみに近所の大がまの生えている所には建物が建ち跡形がなく  
りました。

表題【へちまの芽が出ません】

投稿日【5月16日】お名前【彦根市町村 松本睦美】  
990516

へちまの種10粒、4月28日午後  
ポットに夕キイの培土を入れ  
播種しました。缶水と毎日  
してあげますが芽が出ません  
再度種を頂きたいのですが  
如何でしょうか。



表 題【ヘチマのたね】

投稿日【010515】お名前【浅井 市町村北島由紀子】

ヘチマのたねが送られて来て「ふん」が変な感じ  
でした。育てみよ〜かな?」<sup>+</sup>と<sup>+</sup>思って「たねを  
まいた。今 毎日 水をあげている。  
どんな目?」を出あのか 楽しみです。  
あた 花見があいほ」レポートします。



表 題【ヘチマを 植えたよ】

投稿日【010516】お名前【甲西 市町村<sup>ハンネム</sup>北山ママ】

中塚 智子

- ・ 4月29日に 卵を うえました。  
まだ まだ めは、出てません。早く大きくなって、めが  
みたいです。
- ・ 以前、レポートの報告を 読みましたか 滋賀にきてから  
「おなか」(鳥) 私も見ません。「おなか」は ~~(鳥)~~ この周辺には  
いないのでしょうか

表題 【掲示板ありがとうございます】

投稿日 【2001 / 05 / 19】

【東浅井郡びわ町 梶本さつき】

掲示板12号 ありがとうございます。

もりだくさんの話題で、大変勉強させていただきました。

特に、どんぐりについては「見ていたけどわからなかった。」には同感です。あまりにも身近にたくさんあり、驚きでした。

.....

家庭での納豆製造について

わたくし流の作り方

やわらかく煮た大豆を（3合ほど）タッパーや、弁当箱などに入れ納豆菌（わら・市販の納豆）を大豆の上にのせ、ふたをして新聞紙でつつみ、ひと晩抱いて寝ます。（仕込みは、夕食の後）

朝、納豆のできあがり。朝食にしっかり間に合います。

食べ終わるまで、冷蔵庫で保存します。

大豆の煮汁の残りは、おみそ汁に使います。決してすてないで！

でも、男性が抱いて寝た納豆なんて無気味ですね。

お母さんの方が、ふっくらしていておいしそうに感じます。

簡単です。お試し下さい。

.....

へちまは、どんどん芽がでますが、雨がふらないので成長がおくれています。

でも、自然に任せて観察だけに終わっています。

1番最初に芽が出たへちまは、本葉が、2枚出て順調に成長しています。

みなさんは、どんな調子でしょうね。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

表題 【へちまの葉が出ました】

投稿日 【010610】

名前 【草津市 古谷 善彦】

5月10日にペットボトルを半分に切って、その下半分の中に上半分の飲み口を下向けに入れ土を入れて1ボトルに種を一粒ずつ植え水をたっぷりとやり上から少し初殻を施しました。

5月26日種を植えてから半月で1つだけ双葉が出ました。28日2つ、30日1つの合計4つをちょっと早いかな？とは思いながらも梅雨入り日の6月6日夕方雨のやみ間に定植し、6月9日1本にこずるが出てきました。残りもぼつぼつ葉が出てきています。

どんな大きさか、どれだけの数が収穫できるのか楽しみです。

### へちまクラブだより (その3)

相本 さつき

紫陽花の季節になりました。

へちまの定植の時期でもあります。早く発芽した苗はこずるがでている苗もありますね。おそい発芽の苗は、本葉が、3～4枚かもしれません。

わたしは、6月5日に本葉3～4枚の苗を10本定植しました。

畑の上を適当に耕し30cmぐらいの間隔で植え、水をたっぷりやっておきました。博物館からいただいた種のうち、2本成功したのでその苗も別の場所に定植しました(博物館の苗は、梅の木につたわせようと思っています。)

皆さんのへちまは無事に芽がでたでしょうか。元気に育っていますか。はじめて育てる人は、1～2本育ててみてはどうでしょうか。もし、苗がほしい人がおられましたら、お知らせ下さい。なんとかしてお届けいたします。

さて、定植した苗が生えついたら(定植して10日ほど)野菜用の肥料を施してください。(ひとにぎりの肥料を3株ぐらいに施す。)苗から10cmくらい離れたところに円を画くようにバラバラと施します。その後半月か20日あけて2回施せば充分です。施肥は、計3回です。

つるが幼くて支柱に巻き付けないときは、支柱にひもでくくってやります。すると間もなくつるの先に「目」がついているように支柱になる方向にグングン伸びていきます。

では、つるが伸び、真黄のへちまの花が咲くころ次号でお会いしましょう。

### 編集部からのおしらせ (芳賀裕樹)

何人かの方から「まだ芽が出ない」との連絡を頂きました。電話で確認した方は芽が出たとのこと、安心しましたが、皆さんはいかがだったのでしょうか。

今年は全般に芽の出るのが遅かったようで、フィールドレポーター・スタッフの定例会でも「1ヶ月近くかかった」という話が出ていたそうです(最近出席できていません ^\_^)。やはり5月に雨が少なかったのが原因でしょうか。

私は去年の失敗にめげず、研究室の窓の外に置いたプランターで今年も育てています。そろそろ30cmほどの高さに育ってきました。去年の経験から、育てる本数は少ない目(2本程度)に、背も余り高くないようにしようと思っています。

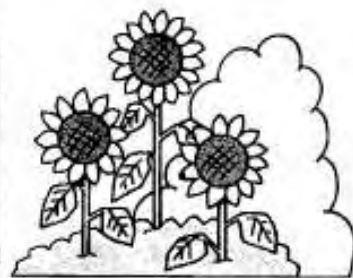
へちまは育ち始めるとあっという間に大きくなります。1日で数cmは伸びていくような感じですから定植したら支柱は早めに用意してあげてください。



さて、夏のへちまクラブ交流会「へちまを食べよう」ですが、こちらは実がなり始めてから行いますので、8月半ば過ぎごろになると思います。その前に、有志で長浜にある「めんそーれ」という沖縄料理店(グライガーさん推薦)にナニベラー・チャンプルーを食べに行こうと思います。日程などはまた次号でお知らせしますが、是非行きたいという方はあらかじめご都合をお知らせ下さい。

フィールドレポーター

# 掲 示 板



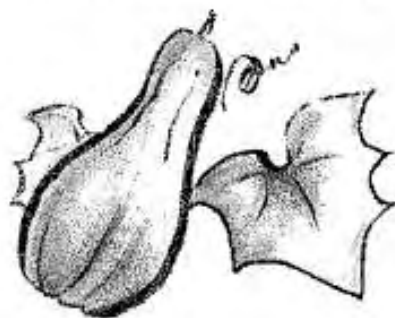
2001年度 第3号 通巻第14号 (8月)

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。

毎日暑いですね。‘猛暑’という言葉はよく聞きますが、近年は‘酷暑’という言葉が使われることも多いようです。近年、特に暑さが厳しくなってきたということでしょうか。本来であれば8月はじめからお盆くらいまでが一番暑い頃だと思うのですが、もうすでに暑さはいんざりといった感じですね。熱中症の患者も多くでているようです。外や暑いところで何かする際には十分気をつけてください。



ところで、みなさんのおうちのへちまはもう花を咲かせているのでしょうか。今号の中に、今津の早田さんからの投稿がありますが、早田さんのおうちではすでに立派なへちまがなっているようです。早田さんは、今年度からフィールドレポーターに参加された方で、へちまクラブからの配布には間に合わなかったのですが、ご自分で育てておられたようです。やはりいろいろとノウハウがあるようで、たかがへちまといえどもなかなか育てるのは難しいものだと実感しました。



実は、私事で恐縮なのですが、7月の終わりに早めの夏休みをいただいて、家族共々沖縄の方へ行って来ました。その際、ナベラーチャンプルーとナベラーを薄味に煮たものを食べてきました。ナベラーとは、沖縄の方言でへちまのことです。初めての体験でしたが、結構個性的な味がするものだと感心してきました。9月2日(日)には、夏のへちま交流会を開催する予定です。その際には、みなさんのおうちでできたへちまを持ち寄っていただいて、いろいろ料理をして食べてみたいと思いますので乞うご期待。

ところで、みなさんは琵琶湖博物館のC展示室にフィールドレポーターのコーナーがあるのをご存知でしょうか。今年に入ってから、このコーナーの展示替えを行おうと津田さんを中心に、スタッフのみなさんに奮闘していただき、いよいよ展示替えができるころまでこぎ着けてきました。これからも、できるだけ展示替えをしてゆけたらと思います。多くの方にご協力いただければ、いっそうよい展示になってゆくと思いますので、よろしくお祈りします。また、博物館へお越しの際には、是非見学してください。

フィールドレポーター8・9月の予定をお知らせします。

- ・8月 19日(日)  
定例会：フィールドレポーター交流会準備 等  
於：琵琶湖博物館交流室 13:00～
- ・9月 1日(土)  
定例会：フィールドレポーター交流会準備 等  
於：琵琶湖博物館交流室 14:00～
- ・9月 2日(日)  
フィールドレポーター交流会(夏のへちま交流会)  
於：琵琶湖博物館生活実験工房 10:00～
- ・9月 16日(土)  
定例会：次回フィールドレポーター調査準備 等  
於：琵琶湖博物館交流室 14:00～

\*予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。

「近年、鳥の嗅覚が非常に鋭いことが使用名されアメリカで発表された。」と言う人があり、又「ニュージーランドのキューイが土中の餌を地面に突き刺した嘴から嗅覚出探す。」という説明のテレビ番組がありました。私にはどうも信じられません。

これについてお教え頂きたいのですが、公共工事の丸投げのように何の努力もせずオンブにダッコでなく、素人なりに考えてみました。考え方についてもご指導ください。

脊椎動物について、手持ちのほんの少しの情報をつなぎあわせて、推論を進めてみます。

- \* 魚では、サケ類の回遊の研究から、同じ様に水に溶けた化学物質でも、鼻で感じる匂い物質と、口で感じる味は別な物質であると言われる。味についてはウミヒゴイのように体の外の触覚にも感覚器のあるものもある。
- \* 爬虫類はヘビやトカゲでは舌で探る様に空気中の化学物質（匂い？粉塵の味？）を感じるものが多い。
- \* 哺乳類は、犬にしても人にしても、鼻腔内に粘膜のひだが面積をかさいでいる。どうも嗅覚器官には、粘膜や肉質の、流体に溶けた物質との接触確立を高める為の場所が必要に思える。
- \* 鳥の骨格を見ると、鼻の穴は嘴を貫通する短い孔にすぎず、感覚細胞の置き場や表面積をかせぐ粘膜が見られない。
- \* ダーウィンが腐肉鳥に紙で覆った、人には耐えられないほど腐敗臭のひどい肉を与えたが、全く反応せず、紙の間からチラリと見えた途端に飛びかかったことが記録されている。（航海記）

以上より、普通の鳥は従来の<sup>説</sup>の通り嗅覚は（？殆ど）ない。

キューイについては、嘴が長く変な位置に鼻の穴があるので、あるいは例外中の例外なのか

毎度へんなことが気になり、その度にお手数をお掛けし申し訳ありません。





## フィールドレポータースタッフからの一言

暑中お見舞い申し上げます

雨の降らない梅雨の時期からの暑さが延々と続いています、フィールドレポーターの皆さん暑さに負けずお過ごしでしょうか。

この時期になると、滋賀県は一気に盛り上がりますね！。それは琵琶湖があるからでしょうか？、比良、鈴鹿山系をはじめ森林、里山或いは池などの自然が多いからでしょうか？、日本人には心安らく田園風景がたくさん見られるからでしょうか？、歴史的な文化遺産が多いからでしょうか？。考えてみるといろいろと贅沢なほど沢山ありますね。

フィールドレポーター調査では「私の選んだ 21 世紀に残したい湖国滋賀のいろいろ」を今年度の第 1 回テーマとして、先にフィールドレポーターの皆さんに調査表を郵送しましたが、一応 6 月末を以って締め切らせて頂きました。その時点で半数近い件数の回答を寄せていただきました。ありがとうございました。

かしこまって考えると案外難しいテーマだったかも知れませんが、回答を寄せていただいた方も、そうでない方もこれを機会に今一度意識して滋賀の良さを見直してみるきっかけになればこのテーマを選択した効果はあったと思いますし、これからこの回答結果を、1 つの成果として何らかのことに有効に反映させる事ができれば皆様に納得していただけるのではないかと思います。

ただいま、スタッフが急いで纏め作業をしておりますので、今しばらくお待ちを頂きますようお願いいたします。

又、この調査の中の「私のメッセージ」では自然と環境について沢山の方が危機感と関心をお持ちですが、これは言うまでもなく直面しているグローバルな人類の最大課題であり「私のメッセージ」の戻したい、残したい、残念、悲しいと言った文字に対しては、今私たち一人ひとりの良識ある行動、小さくても良いやさしい心遣いの結果が次の世代に対して改善の努力をしたかどうかの答えとなることでしょう。

取り返しのつかない地球にならないよう、みんなで努力しようではありませんか。

フィールドレポーター長めの調査「へちまクラブ」のへちまの生育状況はいかがでしょう。水遣りが大変でしょうがもうひと頑張りです。

C 展示室は「湖の環境と人びとの暮らし」がテーマの展示場ですがこの中央付近に私たちのフィールドレポーターコーナーが存在しているのをご存知でしょうか。フィールドレポーター調査などが展示されています。昨年からの展示のリニューアルを担当の桑原さんをお願いしておりましたがOKが出ましたので、津田さん、前田さんが中心となっていただきますスタッフが新しい展示物を作成中です。ご期待ください。

担当は、武田、古谷でした

昨年秋から今年の冬にかけて延べ8匹の雌カマキリを飼育し、飼育ケース内で10個の卵のうちの産卵に成功しましたが、そのうちの9個と野外採取の卵のうち（自然産卵）5個を加えて、ふ化状況の観察と幼虫の飼育を計画しました。ふ化はまだだと思っていたところ5月14日にすでにふ化が始まっていたことが分かり、高温の影響かなと思いつつ（あるカマキリの卵のうは25℃の定温では28日間でふ化すること）、写真1.のように昆虫飼育ケースに糸とつま楊枝でぶら下げてふ化の様子を観察しました。

産まれた無数の一齢幼虫は、卵のうを採取した場所やわが家の庭、餌のありそうな草地に放してやり、残りの一部について飼育を始めたところです。これらについて取りあえず概略をまとめてみました。

### 1. ふ化について

- ①飼育ケース内で産卵したオオカマキリの卵のうは、7個中3個が5月14日から5月27日の間にふ化を完了した。種類の違うコカマキリの卵のうは、1匹が産んだ2個が5月18日と22日にふ化し、種類による産卵日の差はないようである。
- ②オオカマキリの飼育産卵・卵のうの産卵前重さは、ふ化したものが平均865mg（558, 842, 1196）ふ化しなかったものが平均603mg（534, 559, 617, 703）で、ふ化しなかった卵のうは小さいものであった。ふ化しなかった卵のうは、切断調査の結果、乾燥した卵黄のままであったが、受精しなかったので卵黄のままであったのか、卵のうが小さいために早い段階で乾燥してしまったのかは分からない。
- ③自然産卵の卵のうは5個全部が5月14～23日にふ化し、その産卵前重さは平均1940mgであった。飼育産卵のものは自然産卵のもの半以下（45%）の重さであり、小型である。その理由として飼育ケース環境と晩秋、冬期の産卵による小型化と、飼育前の自然産卵に追加しての産卵、即ち多産による小型化が考えられるが、後者が主因のように思われる。  
同じカマキリが産んだ3個の自然産卵・卵のうでも、重さ順で 1.00⇒0.90⇒0.84という小型化が認められるが、飼育産卵では1.00⇒0.70⇒0.52（最終産卵日は12月26日）という高い比率の小型化になっている。
- ④卵のうの重さを測定した目的の一つに、一つの卵のうに含まれる卵の数すなわち、幼虫の数の推定にあつたのでその結果をまとめると次のとおりである。  
自然産卵・卵のう平均重さ = 1940mg 平均卵数 =  $1940/8.8 = 221$ 個 (max=254個)  
飼育産卵・卵のう平均重さ = 865mg 平均卵数 =  $865/8.8 = 98$ 個 (max=136個)  
\*ふ化した幼虫の数を調べるのは大変なので一計数結果（計測した幼虫の数は211匹、その卵のう重さは1852mg、）から「8.8mg/個」として計算した。
- ⑤1月19日に産卵した越冬オオカマキリの卵のうは5月14日にふ化を完了し、年越しの産卵が受精卵であることを確認できた。推定ふ化数はさすがに最小で63匹（558/8.8）であった。  
また、産卵月日の早い遅いと、ふ化の早い遅いの関係は認められなかった。
- ⑥写真2.のようにふ化孔を通して頭を出した前幼虫（手足を折りたたみ薄い皮膜で覆われている）は、体をひねってあつという間に（10～20秒位）全身が出てくるが

それからふ化糸（前幼虫の尾部に格納されているくも糸）を伸ばしてぶら下がり、薄い皮膜の脱皮作業を始めるのは超スローモーである。

⑦写真3. は、同じカマキリの自然産卵・卵のうのふ化後の様子であるが、右は、ほぼ100%脱皮に成功して1齡幼虫になり、多数の脱皮した薄い皮膜の抜け殻がふ化糸の先に残っているものである。ただし2匹だけは後足の先が抜け殻から抜けきれず、移動の自由を奪われて死んでしまった。拡大鏡下、烏の羽などで分離を図ったが、脚が細いので手術は失敗であった。後ろ足が抜け殻から抜けずに死ぬケースはかなり見られた。

写真の左は、一斉に飛び出してきた前幼虫が折り重なったためであろうか、ふ化糸でぶら下がったものの、重圧からか、抜け殻から抜けきれず、多数が死んでしまったものである。無事に1齡幼虫になったものが約80匹以上、死んだものが52匹40%（以下）であった。つま楊枝を使ってぶら下げた卵のう（写真1.）のふ化孔の面が上向きで、ふ化糸ですぐにぶら下がることができなかつたということも一因と考えられる。産卵時の小枝や茎の傾斜度の選択、カマキリの体位の選択、したがって産卵された卵のうの向きは、ふ化時の危険性を十分織り込んで選択しているのであろう。

⑧ふ化はいずれも朝から始まって昼頃には完了したが、一斉に全部ふ化するもの以外に少しずつ2日、あるいは3日にわたってふ化するものがあった。一つの卵のう内で卵のふ化速度に差がある場合とない場合があるのだろうか？

⑨室内ではあるが雨天のふ化も認められ（5/22, 23）天候（湿度）とふ化とは無関係のようではあるが、屋外、自然で雨の中でのふ化はどうであろうか。雨でぬれる条件でのふ化は、幼虫が小さいだけに水滴の力、水の表面張力の影響が大きく、ふ化は失敗に終わると思われる。降雨の判断とふ化行動の一時停止が出来るのであろうか？

## 2. ふ化後の飼育について

①1齡幼虫は、一つのケース内で複数匹を飼育したが共食いはしなかつた。二匹がぶつかり互いに手足を振り回し、鎌を振り上げる餌としての捕獲行動はしなかつた。

②2齡幼虫までの餌はアブラムシ、アリマキを与えた。写真4. はコカマキリが油虫を食べている様子である。コカマキリは成虫と違って体全体が黒色、脚は黒白のまだら模様というアリの擬態をして天敵に対処している。またしっぽを上を反り上げているがオオカマキリは直線の棒状しっぽであり、またオオカマキリの体色は緑の保護色である。

③1齡幼虫は手足が非常に細いので、飼育ケース内に好きな水をやり過ぎると、水の表面張力から足を抜き出すことができず、弱って死に至るものが多かった。

④ふ化後体長9mmの1齡幼虫は、脱皮によって大きくなるがその様子は次のとうり。

脱皮回数	1 齡幼虫	2 齡幼虫	3 齡幼虫	4 齡幼虫	* 6～7 齡で羽化、成虫になる * ふ化後の経過日数 * 胴体・頭部の全長
脱皮時期	---	2 週間	4 週間	7.5 週	
体長 mm	9	14	21	32	

⑤琵琶湖博物館の守衛所裏の百合群落で7月7日にオオカマキリを採取したが、その体長は、余ほど早くふ化したか、環境が合っているのか、早くも50mmに達して成虫のように見えたが、羽の翅芽はまだ見えないので羽化はまだ先であろう。

# 写真 カマキリのふ化の様子と飼育・成長状況

05160006.JPG



写真1. 卵のうの保持状況

オオカマキリ: 12コ コカマキリ: 2コ

05270002.JPG

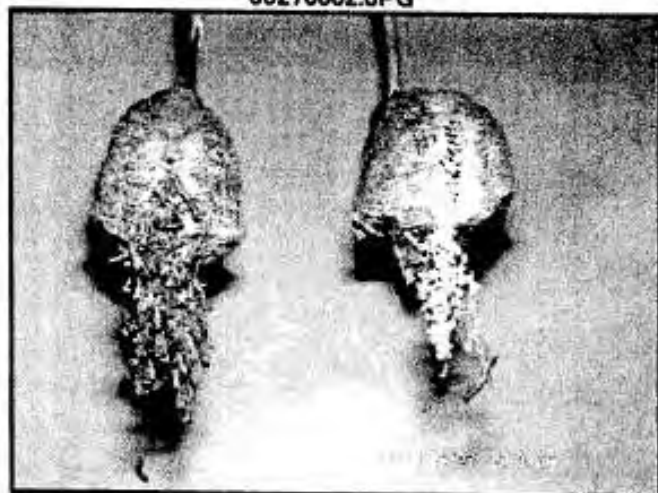


写真3. <sup>E1</sup>ふ化が終わった後の卵のう <sup>E2</sup>

左: 脱皮不良の卵のう 右: 脱皮良好

05140009.JPG

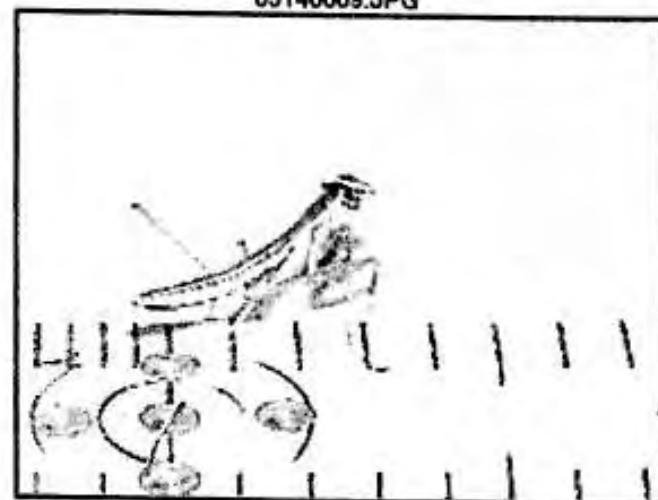


写真5. オオカマキリの1齢幼虫(雄)

体長: 約9mm

05190010.AVI



写真2. 卵のうから幼虫が出てくる様子

05180005.JPG



写真4. 油虫を食べるコカマキリの

1齢幼虫

06140002.JPG



写真6. オオカマキリの3齢幼虫(雌)

体長: 約20mm



投稿日【010615】お名前【草津 市町村 小林光子】

6月2日夜 9時頃 今年初めての螢と見ました。前日の雨が上がり いいお天気になったからでしょうか。まだ弱々しい光ながら 郡上川そいのいつもの地点で 数匹づつ 見つけました。例年より 早い気がします。川そいは住宅地になり 草津川の伏流水も少なくなっているようで 水の汚れが気になるようです。

6月11日夜 9時頃 きょうかー一番多かったように思います。こはげんホテルばかりです。夜11時頃迄、三三五五人まがりに来ていました。関心を持つ人が増えてきたようでうれしい。

6月13日、土手の草刈りがされている所があまり残念。ホテルほとろしに  
6月14日 雨が降りて水の量が急に増し心配。9時頃 ほとんど見られず。

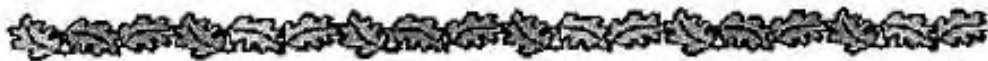


表 題【 梅雨時のダニ退治法情報 】

投稿日【010620】お名前【安土市町村 中村かをる】

梅雨になると決まってダニに悩まされているのが、6月20日テレビでダニの退治方をやっていた。方法は簡単で、消毒用アルコールにレモンの皮を小さく切った15分間漬け込んだものを霧吹きでシャワー・ふき、タタミなどダニのいそうな所に霧吹きするだけでいい。分量は消毒用アルコール200ccにレモンの皮1個分を細い長方形に切り15分間漬け込んだ方がいいそう。最初は3日間続け、後は週2回程度でダニはいなくなるそう。実験をやったので本当だと思います。1度作ると冷蔵庫で2週間分は保存できるそう。お悩みの方は1度作って試してみればどうですか。私もさっそく作ってみました。これで今年の梅雨は悩まされず

に済みそうです。臭も良いのでいいですね。何より簡単にしかも手作り出来るのが一番です。



表題「じゃがいもにトマトがなった」

投稿日「010610」

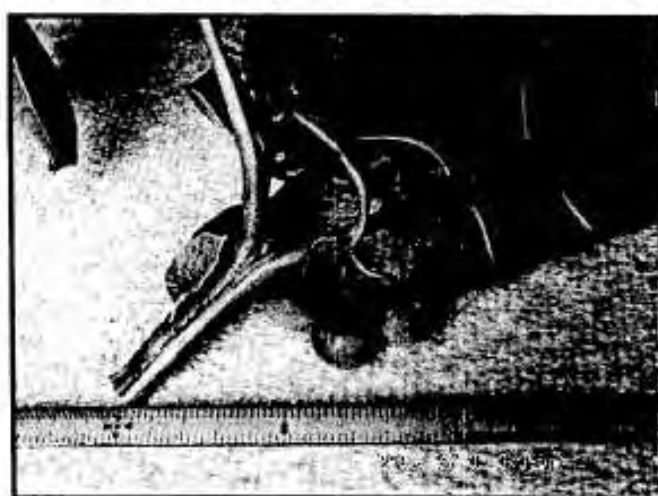
名前「大津市 有田 重彦」

貸農園の春じゃがが収穫期になってきましたが、隣の畑のじゃがいもに、下の写真に見られるような直径2センチほどの青いトマト状の実が見つかりました。じゃがいもの紫色の花は、いもが大きくなれないからと、球根を採るチューリップの花と同じ考えで摘んでしまうのですが、この花は下の方に隠れていて生きのびた結果、結実したのでしょうか。

それにしてもトマトそっくりの実がなるとは驚きですが、じゃがいも、トマト、ともにナス科の植物と聞けば納得です。次の秋じゃがでは、一株だけ花を摘まずにおいて、結実状況や、熟してくると赤くなるのか、その場合はトマトの味がするのかじゃがいもの味がするのか、いもの収量はどの位減るのか等の観察をしてみようと思っています。

なお、農園友達は、今回は肥料が多過ぎたのでその影響かもしれない、この実は赤くならないらしいと言っていました。ザ博物館の布谷さんにお聞きしたところ、根はじゃがいも、実はトマトの一石二鳥を狙ったものがあるらしいとのこと。

色のついでに、皆さんはじゃがいもの花は何色と思いますか？先日、雑談の中で白と紫の両説があったのですが、今日菜園で確認したところ、白と紫、その中間（薄紫と白紫の混在の二種）があることが百坪足らずの菜園のじゃがいもで確認されましたが（三人が別々に栽培）主流は紫系でした。

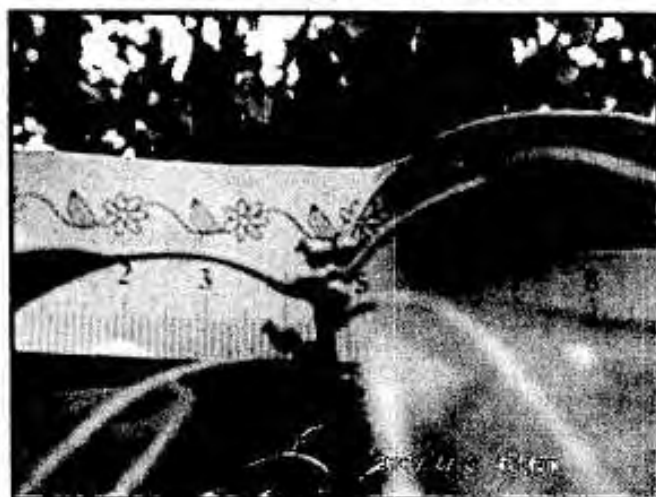


表題「マテバシイの花満開」

投稿日「010610」

名前「大津市 有田 重彦」

我家の近くには公園に3本、湖西バイパスの緩衝林に3本のマテバシイがあり、昨秋のドングリ調査の時はバケツ2杯余の実を拾い集めました。5月から6月にかけて写真左のように雄花序が満開になっています。一方、4月に花が咲いていたアラカシは、すでに2～3ミリの大きさに育ったドングリが可愛い姿を写真右のように覗かせています。



表題「背泳ぎと背歩き」  
投稿日「010610」

名前「大津市 有田 重彦」

青々と分けつした稲株の間を今を盛りと田んぼの生き物「ホウネンエビ」が泳ぎ回っていますが、その泳法が完全な背泳ぎタイプであることは、フィールドレポーターの皆さんは御存知のことと思います（写真参照／琵琶湖博物館の写真引用）。他の水中生物で背泳ぎができるのは、太り過ぎた金魚が鉢のなかでひっくり返っている時位でしょうか。かれいや鮒は背泳ぎとの中間の90度体位というところでしょう。人間も背泳ぎの名手ですが、これは水泳の時だけでありまた別格というものです。

ところで、目を陸上に転じてみると背泳ぎは背歩きとなりますが、通称「根切り虫」の一つである「ハナムグリ」（コガネムシ科）の幼虫が背歩きの名手であることを今年始めに見つけました（越冬飼育カマキリの餌として根切り虫を集めていた時）。下の写真はその様子ですが、土の中から掘り出されて死んだ振りして丸くなっていたのが、暫くすると急に地面に背中を付け、体節の伸縮でかなりのスピードで、歩くのではなく移動し始めます。六本ある脚は上を向いたまま空を切っていますが、それは歩くためではなく地中で穴を掘って進むための道具なのでしょう。

ミミズも体節の伸縮で移動しますがこれは背歩きではなく、まともな向きであり、歩きです。また尺取虫は体節の伸縮というよりは、体節の屈曲運動が移動のメカニズムと言えますが、この場合は脚が重要な補助道具となっています。

一方、沢山の羽毛が付いたような長さ2ミリ前後の足を、上を向いた腹側に、大雑把な推定で20本ほど持っているホウネンエビの泳ぎのメカニズムは、この足をポートのオールのように前後に高速で漕いで戻す動作ですが、この足（オール）は、あたかも微生物の繊毛のようにしなやかにしなやがっているのが特徴です。

背泳ぎと背歩きの比較から、その移動のメカニズムになってきましたので、ついでにおまけを一つ。梅雨が始まり、鉢の底などからナメクジが這い出してきていますが、透明のプラ容器の上を這っているのがいたので裏面から見ると、多分「足」ということになるのでしょうか、胴体と容器の接触面をなんら動かすことなく坂を這るように滑らかに移動しています。カタツムリや貝類も同じような移動と思われそうですが、そのメカニズムというか移動の力は一休何でしょうか。タコは、たこ壺から取り出されると板の上をやはり這るように移動しますが、この場合は丸い吸盤同志の相対的な動きが移動のメカニズムであろうと想像できますが、ナメクジの足の接触面は何も動かない何もない均一状態であり、まったく分かりません。CCDカメラを使った手製のマクロ装置で約50倍に拡大して観察しても全く同じでした。どういう観察をやれば移動のメカニズムが分かるのでしょうか。

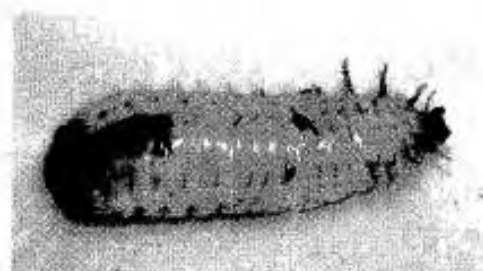


表 題【 (続) 例えげ・スズメやヒバリのいなくなき！ 】

投稿日【 010623 】 お名前【 能登川市 村 石井秀寛 】

除草剤の使用について 向題を提起しましたが、製造メーカー等に見解を聞き  
ました。三社から返事がありました。内容については、担当の桑原さんに送ってお  
きます。興味をおもすの方は、そちらへ、ご連絡して下さい。

9 田舎にどんな生き物がいるか？ 私のデータを記します。

これは自宅に隣接している田舎について、農家に頼んで「除草剤は使わないで  
欲しい。その代り、草刈りをすきから」と約束、今年で4年目に及びます。5月30日  
今年2回目の草刈りを金鎌で行いました。(約60m)。植物については番附(多種)  
。カタハビ(トカゲ)、。トノサマカエル、。アマガエル、。キリギリス(成虫と若虫)  
。コオロギ類、。甲虫類(名不明)、。青虫類(名不明)、。カタツムリ、。コナメクシ、  
。ダンゴムシ(無数に)、。微小な生物(ゲジゲジの子等)、。オケラのミミズ、  
。土中にいるものは不明(ゴケネの幼虫などかいると思う)。(雑草土堆積)。

カエルがいることは、今、田んぼの中はオタマシヤクシでいっぱい。コチドリ、サギ類、  
ケリ、カラス、ムクドリなどが餌をとり、子育てを行っている。(子生えが上陸してくるようになりつつ)  
これに比べ、除草剤を使っている田舎は、地肌がおき出しで、生物はいない！





布谷さんの、問題提起「牛乳ビンと紙パックの比較」に勇気づけられ、ケナフの栽培についてそろそろ本音を白状しようかと思えます。

2年間ほど県のイベントである「夢発見・エコ委員会」なるものに加わったことがありますが、低次元の話ばかりで失望とウンザリの「なみださしぐみかへりきぬ」の連続でした。冷静に考えれば誰にでも否定的な結論に至る、量的観念、システム、ハードウェア抜き、歯止めなしの、ムードに酔ったような自己満足的なものがやたらに多いのですが、否定したり、正論（と私の思うこと）を述べられる雰囲気になく、観客も発表者の言い分に疑問や矛盾を感じず、アンケート等にも肯定的なのです。

ここまでを読まれて、私のことを「イヤミなオッサンだなあ。」と思われた方、それは正解です、何を隠そう、私こそ元祖・正統派の「イヤミなオッサン」なのです。

<例>

- \* 心地良い汗をかいて地域の不法投棄されたゴミを拾い、清潔な環境をつくりました。来月もまた頑張らしましょう。

（まぎれもない犯罪である、不法投棄をする為の空き地を汗水たらしてエンドレスに確保してやっている。組織的見張りや防犯ビデオカメラの設置等で、証拠をとらえて手まめに告訴でもしないかぎり永遠に「また頑張らしましょう」世間のモラルレベルが向上しない限り、空き缶のポイ捨ては止まらない。）

- \* 小さな電動ポンプで風呂の残り湯を、洗濯水や庭水として使っています。水道料金が低減でき、水資源の負荷をへらし環境改善になります。

（ポンプの製造や物流、宣伝にかかる環境への負荷、水質から見た市場価値としてはほとんど只の「風呂の残り湯」を「使用価値」から、家の中をホースで引き回す不便やポンプの電気代や耐用年数から見た残り湯にかかる単価、水漏れによる家屋の劣化等は意識の中にない。但し、「飲料水レベルの水質の水をトイレのフラッシュウォーターや洗車に使うって良いのか。」については考える必要がある。降水や風呂の残り湯を水頭（ヘッド）と配管で利用出来るハードウェアを考えるべきではないか。）

- \*\* 「水と安全は只と思うな」という言葉は大嘘だと思います。人の物欲、権力欲の及ばない自然界の水の多くは飲料に耐え、欲につられて人が争い、安全を軽視した無謀な作業、必要以上の物流スピードの追求等が危険を作り出しているように思います。
- \* 牛乳パックで紙を漉きました。「はがき」が沢山できましたので、絵手紙にして出しましょう。（どうしても良いことですが、「はがき」を頂いた人は返事を出さないとまずいのでしょうか、なぜ突然「お便り」が増えたことを不審に思わないのでしょうか）一日の牛乳のパックでの販売量の1%を「はがき」にするには、延べ何人の人手が要するのでしょうか。どれだけの水道水を要するのでしょうか。苛性ソーダは・・・）
- \*\* このような、ほとんど同じ目的と行動や作業をする団体が、横の連絡もなく何組も存在し、消えたと思うと、翌年は別のグループが発足し、振りだしから始めることの繰り返しなのです。正当に評価し、理論的相談相手・指導者となる人がいないのです。

本題のケナフの件ですが、私は今、不本意ですがケナフの種子の配布に加担していますし、本掲示板にも何度か投稿もしております。

しかし本音はケナフ栽培は環境に負荷をあたえるだけであり、私がバスツアーのガイドよろしく旗を振りながら誘導し、「ここから先は袋小路です、さあ皆さん戻りましょう。」とケナフフリーク全員が理解したうえで、栽培から足を洗う道を探しているのです。

私が掲示板の中で「工業製品化されている物」について質問しているのは、多分「スパイス程度の少量を原料に加えただけで、環境にやさしいイメージ造りに利用され、消費者が躍らされているのだろう。」と思い、衆目の集まる場で確認したかったのです。

この時期に本音をはくことは「因幡の白兎・・・皮を剥かれて赤裸」の恐れが有り勇気が要るのですが。

幸いにも私には、二人称で「オマエ馬鹿なことはイイカゲンで止せよ。」と言ってくれる仲間に囲まれておりますが、ケナフ支持者が、二人称で「アイツは××」と言われる前に、理詰めの「誰でも認められる常識」が必要ではないでしょうか。

おかしな事に、ケナフについては、のっけから何の説明も無いままに「環境に優しい物」として話しがスタートしているのです。

#### 1. ケナフは二酸化炭素を吸収する。

なるほど、葉緑素を持っていますから、森林・雑草・農作物等と同様に二酸化炭素を吸収します。しかしそれを固定しているのは、燃焼も生分解起こらない間の短期間だけです。建築に使用した木材なら、その建築が存在する限り二酸化炭素を固定し続けます。

これが「環境にやさしいイメージ」で消費者を欺くためでなく有効な資源としてある程度の量が扱われたことが有るのでしょうか。

#### 2. 再生可能な資源である。

資源と言うからには、化石資源や木材資源に置き換わり、その消費を低減出来なければ、資源の浪費を拡大する事になります。日本には世界に誇れるコウゾ、ミツマタ、ガンピ等があり、又、利用されずに野性化状態で厄介者扱いされているクズなども優れた繊維用植物です、更にケナフを加える必要があるのでしょうか。

植物を構成している材料の大部分であるセルロース、澱粉、糖分はβ-セルビオースのそっくりさんで、C（炭素）H（水素）O（酸素）の組み合わせは殆どかわらぬ 6 : 10 : 5 です。

\* 二酸化炭素を吸収（固定）するとは、

$6\text{CO}_2 + 5\text{H}_2\text{O} \rightarrow \text{C}_6\text{H}_{10}\text{O}_5 + 6\text{O}_2$  発芽し成長する時、二酸化炭素と水とを取り込み植物の体が出来、大気中に酸素を放出する。

だが、吸収した二酸化炭素はその後どうなるのでしょうか。

\* 植物の体が燃えたり、腐ったり（生分解、無機化、土に還る。）すると、

$\text{C}_6\text{H}_{10}\text{O}_5 + 6\text{O}_2 \rightarrow 6\text{CO}_2 + 5\text{H}_2\text{O}$  上の式の全く逆です。（上の式の→を逆向きの←に替えても同じ意味です。）二酸化炭素と水とはそっくり同じ量が、元どおり環境へ戻って行き「元の木阿弥」です。



ここで大ざっぱに量的な考え方を試してみましょう。

ケナフを種（重量はゼロとして）から育てて 1 ton の収穫があったとしましょう。これを乾燥すると（天日乾燥後、105 ℃ で重さが変化しなくなるまで加熱）残りは 20 % の 200 g 程度になると思います。

$C_8H_{10}O_5$  を元素毎の重量比にしますと、 $C : H : O = 72 : 10 : 80$  となり、それぞれは約 44.4 % 6.2 % 49.4 % にあたります。

1 ton の年一回の収穫が約 200 g の乾燥ケナフとなり、その 44.4 % の 88.8 g の炭素を大気中から取り込んだこととなります。これを Mol に直すと 1/12 の 7.4 Mol となり、0 ℃ 1 気圧の二酸化炭素の体積に換算しますと、 $7.4 \times 22.4 \text{ l} = 165.8 \text{ l}$  に相当します。

大気中の二酸化炭素は約 0.3 % 程度ですから、165.8 l は  $0.1658 \times 100 / 0.3 \text{ m}^3$  つまり約 55.3 m<sup>3</sup> の大気中の二酸化炭素の総量に相当します。これは一辺が 3.8 m よりわずかに大きい立方体の体積であり、これが、この大気中の二酸化炭素全量を一年がかりで吸収した量になります。その上、燃えたり、腐ったりせず、製品として残る分は、そのまた数%ではないでしょうか。水や苛性ソーダ（水酸化ナトリウム）を使えば更に環境への負荷は大きくなります。無料配布の種子をもらうために約 1 ton の鉄の箱を運転すれば、その排気ガスだけでチャラになりはしませんか。

とはいえ、現在ケナフへケナフへと歩きだしているおびただし人前で私が「ケナフは止めましょう。」と言えば間違いなくケナフ群団に踏み潰されるでしょう。

そこで今年「ケナフの栽培」を手掛けられている方をお願いします。量的な記録を残して下さい。又、「ケナフ」の繊維を採った残材の有効利用の道を考えてください。

もし来年も続けるつもりでしたら少々の方向転換、ケナフ栽培の楽しみに「モミジアオイ」の栽培と、「ケナフ」との繊維植物としての優劣の比較を加えて頂けないでしょうか。「モミジアオイ」は明治時代に園芸植物として移入され、野性化することもブームとなることもなく、ほとんど忘れられている植物です。

ケナフとは近縁ですが、赤い花が鑑賞にたえ、冬は地上部が枯死し庭園管理として刈り取られるべき多年生低木で、毎年種子を蒔かずに、翌年は更に株立ちがふえ、年毎に増産となる植物です。

これを自動車道路や都市公園の植栽にすれば、特に予算を発生させずに、通常の庭園管理作業と人件費で、決まった時期にまとまった量が確保され、製品化出来るルートがあれば、少なくとも廃棄物処理に要する費用は低減されるはずです。（これも B 級の案であり、私自身はもっと意味のあるものに出会えればと思っているのですが。）

今年「モミジアオイ」の苗を手に入れ、栽培を始めました。入手の手配にはかなり苦労し、種子では購入できず、手元不如意の為 6 株だけの購入と栽培となりました。出来るだけ多くの種子を来年以降の為に収穫しようと頑張っています。その節は宜しくご協力をお願い致します。

皆さんの知恵と努力を結集して、そろそろムード造りと自己満足の環境改善活動から、一步先へ進みましょう。

近所の家の生け垣に、面白い蜂の巣があるとのことで撮ったのが下の写真1. です。細首のちょうし（銚子）または一輪挿しの花びんを逆さにした恰好で、何焼きか知りませんが模様も付いていてなかなかのものです。胴の径は5センチ、全長は13センチほどで、ちょうど一合というところでしょうか。がさがさとだいぶ動かしたのですが、中身はからっぽのようでした。

昆虫専門の学芸員、八尋さんに同定してもらった結果は、コガタスズメバチとのことで昆虫綱膜翅目スズメバチ科の怖いスズメバチではなく、4つあるスズメバチ亜科の一つに属する蜂でした。

この巣は、越冬後の小型スズメバチの女王蜂が単独で作るもので、女王巣といわれ、出入口（巣門）が下方に伸びていますが、その中には写真2. のように働き蜂の巣があり、それらが羽化すると細長い先端部をかじり取って球状の巣となり、巣門は真下から側面に移るそうです。見つかった巣は、まだ働き蜂が羽化していないのでしょうか。

この巣があることを教えてくれた人は、トックリバチと言ってましたが、その巣は写真3. のように横向きの壺型になっています。この蜂はドロバチ科でミカドトックリバチとも呼ばれます。

07010002.JPG



写真1



写真3

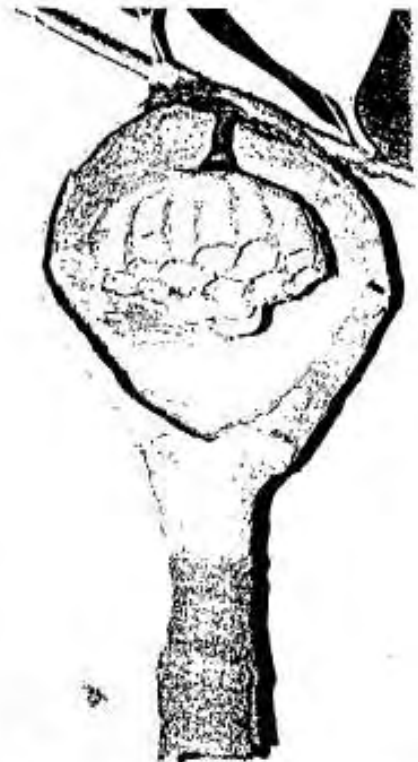


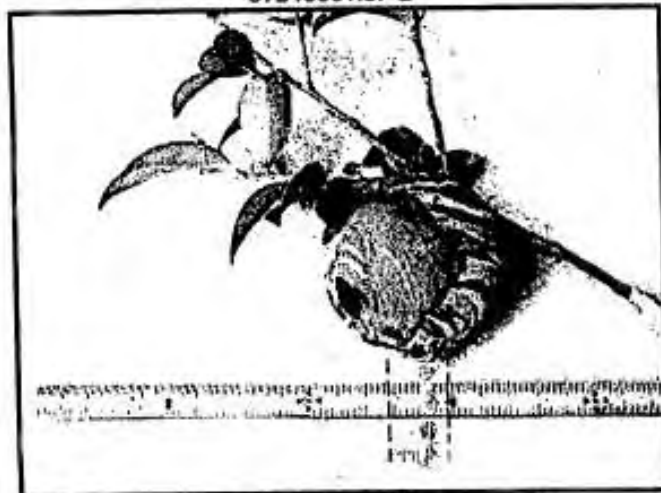
写真2. 中に働きバチの巣がある

逆さ桃子みたいなコガタスズメバチの巣を見つけてから一月も経たないうちに、50メートルも離れていない集会所の植木の中に同じ蜂の巣を見つけました。体長3センチくらいの小さいスズメバチを殺虫剤で追い払った後、枝ごと切り取って写真を撮りました。

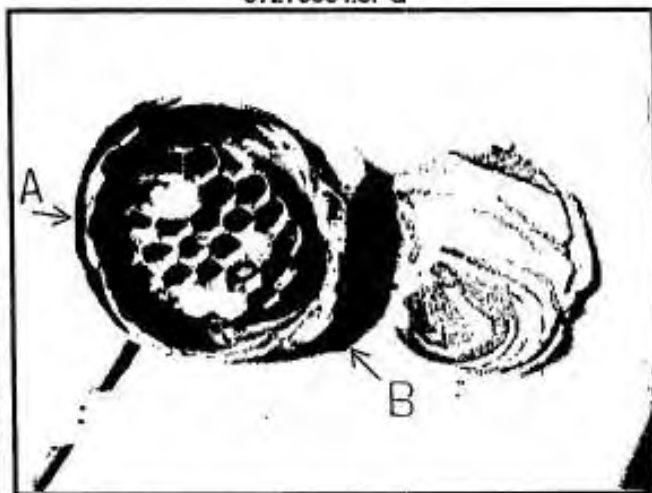
この巣は前報に示したとうり、真下にあった細首部分をふ化した働きバチがかじり取って（写真1.の点線）球形にしたものです。真下から見た写真2.でも分かるように巣門は真下から横の位置に移っており、真下にあった元の巣門は完全に塗り潰されています。この新しい巣門に細首の通路がなくなった理由は、働きバチが多数ふ化しているので、女王蜂一匹のときと違って外敵への防御が楽になったこと、多数の蜂の出入りに邪魔なことそれに気温上昇の三つが理由かと考えられます。

また、女王蜂が作った元の球体の上に、かなりの広さで新しい球面体が二か所張りついています（写真2.のAとB）、写真3.のように一方（A）は新旧の二重構造となっており、他方（B）は元の部分がなくなった一重構造となっています。後者は、細首部をかじり取った時に余分に壊れてしまい、補修した結果であろうと推察されますが、前者の二重構造部分は、この部分が南に面しているので夏の日光に対する断熱効果を狙ったともいえますが、巣は結構、木の葉の中に隠れているので何ともいえません。

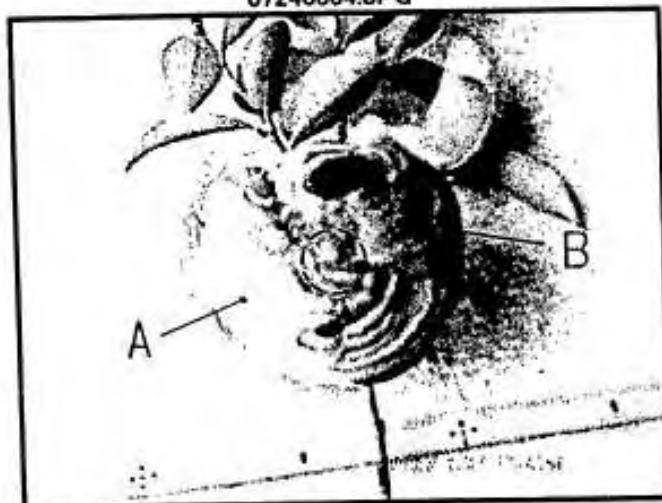
07240001.JPG



07270004.JPG



07240004.JPG



- 左上：写真1. 巣を横から見る。
- 左下：写真2. 巣を真下から見る。
- 右上：写真3. 巣をほぼ半分の位置から水平に切った状況。
- A：二重構造の部分
- B：新しく作った球体だけの一重構造部

表 題 【きになる実のその後】

投稿日 【010802】 名 前 【草津市 中後 佐知子】

尾形さん、高田さん、中川さん情報いただき有難うございました。私も5月の終わりに、高島町の日吉神社と志賀町の小野篁神社を見に行ってきました。

日吉神社のムクロジは、新緑の間に古い実を付け下にも沢山落ちていました。小野篁神社のは、写真の横の車と比べると分るように大きな木で、県の天然記念樹に指定されているようです。花が咲いているのですが、何しろ高い木で観察することが出来ませんでした。下の葉を1枚もらって押し葉にしましたが、写真のように葉も大きいものです。

6月9日に、福井の一条谷朝倉遺跡を尋ねた時、実を見ました。葉と同じ黄緑色の1.5cm位の実が鈴なりになっていました。傾斜地に横に枝を張っていて、手に取って見ることができました。

県内にも大きな実を付けているかな？。花を見てから2カ月たっているのだから…。

7月30日、レポートを書いている気になったので、一番近い守山市の八幡神社を探して見えました。木は有りましたが、実は成っていませんでした。境内に居られたお年寄りに聞きましたら、「子供の頃は羽を植えて遊んだものだ。今年は実が付いてないなあ」と不思議そうに見て居られました。これはどういうことなのでしょう。他のも見比べてみたいと思いました。



高島町日吉神社のムクロジ



志賀町小野篁神社のムクロジ



ムクロジの葉

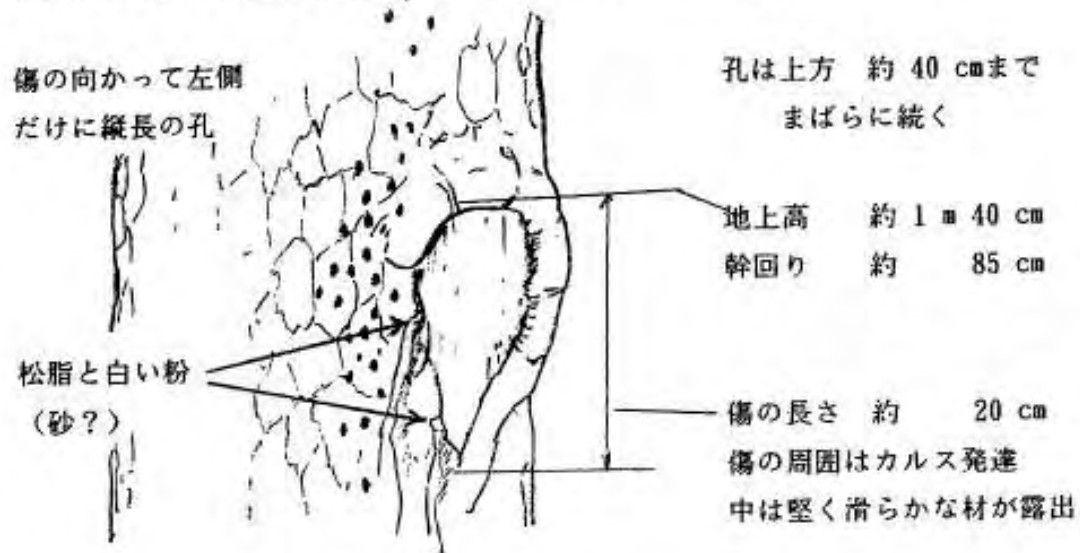


表題 [変な物の話]

投稿日 [010228]

名前 [加固 啓英]

その1 2月27日荒神山の頂上近く(5236-6175)のアカマツに、多数の孔があるのに気が付きました。これは何者の仕業なのでしょう。マツの樹は健康そうに見え、昆虫等も見かけませんでした。この辺りでは、良くカラの類と共にコゲラを見かけます。孔の開いた樹皮を同封します。孔はかなり深くまで達しているようです。



その2 愛知川右岸の葉枝見橋下流(5236-6143)の堤防の立ち木に、多数のヤドリギを見かけます。「ウザッタイ」とはこんな状態でしょうか、多いところでは一本の立ち木に40個以上も、造り酒屋の店の軒の杉玉のような真球に近い緑褐色の固まりとなって付いています。雌雄異株とのことで、よく見ましたが実のあるものと、無いものは有りましたが、高い所なので差異は解りませんでした。

風で落ちた枝や実を拾いましたが、種がコンクリートにめり込む様に、チスイビルが吸い付いた様に、根(?)でしがみついているのには驚かされました。

ここで数年前にキレンジャクが群れていたのは見たことが有ります。

(拾った物は同封します。)

- 質問 1 真球に近いと言うことは、上下左右前後にほぼ等速で成長し、ほぼ同時に枝分かれしているのでしょうか、構造材料費対受光面積を考えると不経済では無いのでしょうか。
- 質問 2 葉緑素の無いギンリョウソウなどと異なり緑色(多分葉緑素)をしていても同化の原料の無機塩類、アンモニア体窒素、水分以外の寄生主が生産した有機物も取り込むのでしょうか。
- 質問 3 ヤドリギの種子はヤドリギの枝にも粘り着くようですが、ヤドリギにヤドリギが寄生することは無いのでしょうか。発根を阻害するような仕組みがあるのでしょうか。

犬と連れ立って屋外を歩き回ると毎回、変な疑問を持ち帰ります。この話を周囲の人にすると「お前は馬鹿だ」という当を得た評価が返って来るのは解りきっていますので、そちらへ話を振ります。もし本業の邪魔にならず、面白いと思われましたら取り上げて、お教え下さい。



題 名 [調べてみませんか、湖畔のアカマツのランキング]

投稿日 [010413]

名前 [彦根市 加園 啓英]

彦根の自宅から琵琶湖博物館までは、いつも湖岸道路を通りますし、ここ6年ほど年に一回程度は北湖一周のサイクリングを続けております。琵琶湖湖畔といえば、アカマツの美林ですがそれほど目だった巨木は目につきません。そこで、フィールドレポーターの皆様が身近な所や、琵琶湖へ出向いた時などに、周辺で目だって太そうなアカマツの幹の胸高の周囲を計って地番とマップコードで位置も記録し、結果を集計すると21世紀初年の琵琶湖の松原の現地調査の記録として残せるわけです。

これをやってみませんか。もしこれを実行するなら「クチサキ男の大方曾太郎先生」の私なく、どなたか緻密な頭脳の持ち主にコーディネートして頂きたいのです。

その時、面積あたりの本数や幼木・若木の発生・発育状況、周囲の環境、(私の個人的に気になっている事で、済みませんが、)税金を投入して作られ、>放置され、利用されていないベンチや東屋等の公園の様な設備の数と状況も知りたいのです。

別件ですが、大気中のダイオキシン類濃度とクロマツの葉のダイオキシン類の分析値が高い相関を示すことが知られています。そこで、滋賀県内のクロマツのある位置を把握しておきたいのです。(現在は「臭い物には蓋」で誰も問題視していませんが、いつかは役に立つと思いますので、)出来ましたら協力をお願いします。

記録しておきたいのは、所在位置(マップコード)所有する企業や官庁名、(個人名はどう扱うべきか?)の住所です。

\*\*\*\* 私事では御座いますが、この度「栗東自然観察の森」へ就職しワカバマークの「自然観察指導員」になりました。学芸員の皆様、フィールドレポーター及びスタッフの皆様、火曜日・金曜日以外が出勤日ですので、なかなか博物館へ足を運べなくなりました。長い間有り難う御座いました、今後ともわけのわからんことでお手間をとらせるとは思いますが、宜しくご指導をお願いいたします。尚、「栗東自然観察の森」は利用者数の確保・増加が望まれて居りますのでお子様、お孫さまお連れのうち、お気軽にお越し下さい。(入場無料です。)

\*\*\*\*\* この「掲示板」を投稿したら、愛犬トラと共に「龍ヶ岳」に分け入り、学芸員の八尋さん直伝のオサムシのトラップを仕掛けてきます。気分は極北の狩人です。(犬一頭 → イヌイット・・・また馬鹿なことを云ってしまった。)

(掲示内容ではありません、) 以上が、收拾が付かなくなる様でしたら掲載しないで下さい。上記に関係のあるテーマを担当/研究されているか興味のある学芸員の方は居られるのでしょうか。変に素人が動き回って邪魔をしても申し訳ありませんし、出来る事があれば協力させて頂きますので。

標 題 「 困った 店子 」

投 稿 日 2001. 08 01 守山市 びわこーおおなまけ

我が家の玄関の庇の下に、若いツバメのカップルが巣作りを始めたのは、もう大方のツバメが巣作りも終わり、そろそろ卵を抱きはじめようとする五月なかばである。

巢の材料の土や、ワラくずなどを二羽が運んで来るのだが、どうもとろくさいのだ土台になる一番下の部分ができたが、そこから上に半円錐形にひろげていくのに途中でサボッてなかなかすすまない。

カップルの姿をまったく見ない日もありどうしたのか心配していると、ひょっこり現れ2～3日続くのだが、また4～5日姿を見せなくなるのだ。この若いカップルほんまにやる気あるんかいな？、若いのでまだ遊びの方が面白うて巣作りみたいなしんきくさい仕事、嫌なんと違うか？それよりてっとり早い建て売りを探し回っているんやと、皮肉ってたが、7月の初めにどうやら出来上がったようで、メスと思われるのがしっぽだけ見せて巢の中にあることがある。

我が家では初めてのツバメの産卵、孵化、そして巣立ちが見られるぞ、ムカデ、蜂、亀に、狸、猫だけやないで、ツバメもいるんやでと大家としての愉しみが増えた思いであった。

ところが7月の中頃になって、どうも様子がおかしい、巢の中にはどちらか片方が居なければいけないはずなのに、そんな様子は見られず、庇のあたりや電線にもそれらしい姿は見かけない。またいつもの遊び癖？がでたのか？そのうちに帰って来るだろうが、卵はどうなんやろう？、大丈夫かいな？、巢を覗くと親が卵を抱かなくなると聞いていたので、気にはなったがそのままにして若いカップルの帰りを待っていた。

そして先週、7月23日の朝、玄関え出た私に驚きばたばた羽音を残して飛びさって行く鳥は、なんとスズメではないか。いつの間に店子がかわったんや、大家の許しもなしにけしからん！と憤慨、そしてせっかく造りながら売りとばして出て行ったまえの店子に呆れ、近頃の若いもんはと嘆いている。



表 題【ムクロジを見ました】

投稿日【010623】お名前【草津 町村 CONY】

栗原町上砥山の日吉神社の境台にも、大きなムクロジの木がありました。何年前か前に、子供の夏休みの自由研究で、洗剤の代わりに使えるものを探していたところ、昔ムクロジの果皮を洗濯の助剤として用いていたという話を聞き、訪ねてみたのです。確かに果皮は少し泡立ち、実験用の布の汚れも落ちていたようでした。さらに「サイカチ」という木の実はも同様の作用があると聞いたので、尋ねてみたところ、長浜のサイカチ浜に、その名の通り、サイカチの並木(?)があるということでした。残念ながら今だに訪ねてはいないのですが、サイカチの木、その実はいったいどんなだろうと、今でも私にとっての宿題になっています。今度博物館へ行ったら、調べてみなくては…

★ スタッフの皆様、いつも御苦勞様です。  
忙しくてなかなか協力できませんが、送って下さる資料や掲示板、いつも楽しみにしています。  
ありがとうございます♡

フィールドレポータースタッフから

「フィールドレポーター掲示板」に多くの投稿を頂きありがとうございます。

県内各地から、いろいろと寄せていただいた情報を、それを生の情報としてフィールドレポーターの皆さんに発信して共有できると同時に、スタッフのメンバーそれぞれが新しい知識を得る1つの手段ともなっています。

発行を重ねる毎に、新しい投稿者が増えてきたことは心強く、受身で読んでいただくに留まらず、「掲示板」への投稿がスタッフ参加への踏み台でもあります。

これからも、フィールドレポーターの皆さんから積極的な情報を寄せていただいて、貪欲にステップバイステップで価値ある「掲示板」をお届けしたいと思っていますので今後とも宜しく願いいたします。

編集方法などについても、御意見がありましたらお知らせください。

## へちまクラブだより（その4）

梶本 さつき

きびしい土用照りが続く毎日です。みなさんのへちまは元気ですか？7月16日に初めの雄花が一輪咲き、感激の朝でした。

その後、毎日黄色い花が賑やかに咲き、8月3日現在、梅の木もへちまの花盛りです。

雄花が一輪咲くと、つるのあちこちに、マッチ棒のような可愛いへちまの赤ちゃんが生まれています。

その赤ちゃんへちまも、7月の末には食べごろに成長し「採って食べようか。」と思案しましたが、8月5日に「めんそーれ」へ持って行くことにしました。みなさんと勉強してから料理しようと思っています。

へちま棚の陰では、トンボが楽しそうに遊んでいます。大好きな夏の風景です。

つるが細くてもそれなりのへちまができます。個性を大切に育てましょう。

3度目の施肥も忘れないでくださいね。いまが適期です。

では、次回を楽しみに。

葉っぱをかじったのは誰？+編集部より

芳賀裕樹

私は研究室の前のテラス（2F）と生活実験工房の畑のはずれにそれぞれ3本づつへちまを植えています。プランターで育てているテラスのへちまに、葉っぱをかじる不届きものがあらわれました（写真）。かじり方からして、なにかのイモムシだと思うのですが、昼見ても夜見ても正体をあらわしません。そのくせ、かじられた跡は確実に増えていきます。いったいなにものなのでしょう？どなたかご存じの方、または同じ被害に悩んでいる方がいらっしゃいましたらへちまクラブ宛にお便りをお願いします。

また、みなさんのこだわり（育て方の秘技など）やへちまを通じた発見（近所の人と会話がはずんだ、など）がありましたら、こちらでもレポートをお願いします。





表題【へちま 植え変えました and へちま化粧水の作りかた】

投稿日【010620】お名前【岸土市町村中村かをる】

へちまの種10粒で、8粒から双葉か出てきましたか。ナメクシやダンゴ虫に邪魔され本葉か含へら木るなどしてなかなか植え変える事かできてませんでしたがやっと植え変える所までできました。今は周国に石灰を撒いてやっています。大きく成るのか楽しみです。中秋の名月頃へちま木を一升ひんぱんに採るとへちま木かよく採れるんです。それを使ってへちま化粧水を作ってみませんか。

作り方はへちま木1粒に対して局方アルコール100cc、グリセリン30cc、ホウ酸20gで作ります。素肌で使用するととても気持ちいいですよ。私も10年位前には手作りしていましたか。最近遠のいていましたか。今年は良い機会なので又挑戦してみようかと思っています。(材料は薬局で手に入れます)

表題【へちまの成育にかた】

投稿日【6月27日】お名前【西堀明投市町村 菊生町】

へちまの種をいかに早く木の下にまきました。木に登ってへちまが成る様か見てあげたか。発芽には大分日かかかりました。もう芽か生ないかと思つた時分に可愛いの二つ葉か出て来た。6年程今は5、6枚の葉かついています。水とやると肥料をやると17番かついていますか。へちまクラフト(物3)の根本土のまき入れ私の苗は大分遅かっている様かです。大きな黄色の花か咲きへちまか、ふちまがる目と花のしかに育つてきています。





表題【うかり菓子に育つれたい系瓜君。】

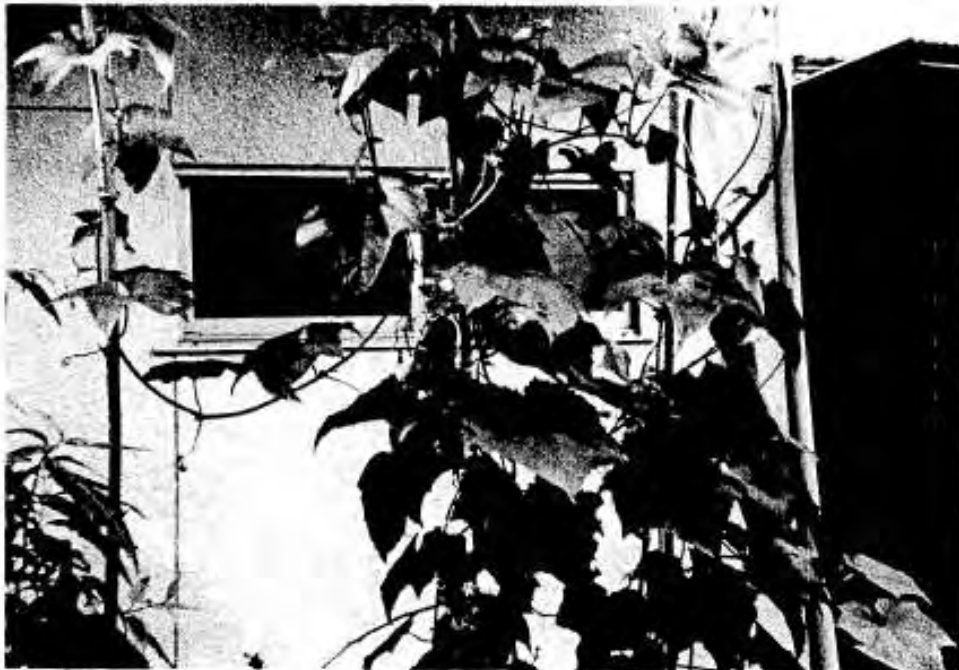
投稿日【X7月2/日】お名前【今津市町村 早田 幸子】

20010721

へちまは霜に弱いので素人は種蒔き時期が迷ったので  
つる小豆のものに、胡瓜・朝顔でも同じで大抵今津では  
6月15日頃から定植する。その時期を選んで苗を買う。  
今年はずよく行った。2本植えた苗が或る程度  
成長してから1本・本植えたものに気が付かず、5本も  
支柱を立てた。今日根もとをしっかりとおどろいた。

31cm <sup>10</sup> 6cm

の3ヶがびょうきかたていよ。28cm <sup>10</sup> 7cm、27cm <sup>10</sup> 5cm  
1本立て、1本張りの観察・育成したい。



表題 【掲示板 13号ありがとうございました】

投稿日 【2001/6/26】

【東浅井郡びわ町 楢本さつき】

掲示板 13号ありがとうございました。

みなさんの投稿楽しく読ませていただきました。スタッフのみなさんに感謝しています。

いたにあゆちゃん テレビ見ました。

ステキなファミリーだと思いました。エコライフは、できることを続けることだとわたしも思います。

たくさんの人びとが、びわこの水を毎日のんでせいかつしておられるのですから、びわこをよごさないよう気をつけたいですね。

へちまについて

種まきの方法も皆さんそれぞれ工夫しておられ感心しながら読ませていただきました。情報がいただけて有り難く思っています。

今年だけでなく、へちまの発芽は、早い発芽と遅い発芽の個人差が毎年あります。

そのことがわかるように、同じ日にどのくらいの差があるか標本をつくってみました。お見せできる日を楽しみにしています。

苗の欲しい人はないようですね。

では、また。

表 題 【フィールドリポーター調査】

投稿日 【010615】お名前【草津市町村 小林光子】

今回の調査は楽しみました。滋賀で生まれ育った私にとってもう一度見直すよい機会でありました。3つ選べというのはむづかしい事でした。

私は甲賀郡甲南町で育ちました。高校に入って月暮所に通う途、琵琶湖は近くて遠い存在でした。夏は津の海へ連れて行ってもらっていたし、生かけまのは京都・大阪でしたので、素通りだったのです。

成人して比良山や伊吹山、鈴鹿の山々に登るようになり、琵琶湖・余呉湖の美し、素晴らしさに目覚めました。

草津に住み、30年以上経て、歴史ある滋賀と深く知り、自然に育ち、生活に便利な、この土地が大好きです。

滋賀県に住みながら知らないことの多いこと、これからも発見の喜びの宝庫だと思っています。

# 掲 示 板



2001 年度 第 4 号 通巻第 15 号 (10 月)

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。

10 月も半ばをすぎ、いよいよ秋も深まってきましたが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。スポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋、いろんな秋があるようですが、何をするにも大変過ごしやすいい時期になりました。特に、今年の夏は暑かったですから、いっそう過ごしやすいうような気がします。



ところで、いよいよ今年度第 2 回目のフィールドレポーター調査が始まりました。今回の調査は、【身近な鳥を調べてみよう】と題し、カイツブリ、カワウ、サギ類 4 種、カラス類 2 種を対象に、それらがどこで何をしていたかということについて行うこととなりました。これらの鳥は、カイツブリとカワウを除けば、琵琶湖内よりもむしろ田んぼや川、人家の近くなどに多く見られる鳥です。また、カイツブリは琵琶湖にもいますが以外とため池や用水路などでもよく見かけます。つまり、今回の調査は主に琵琶湖以外で見られる鳥について、調査をしようということになりました。というのは、これからの時期琵琶湖には多くのカモ類が飛来しますが、これらは見分けが難しい上に観察がしにくいことや、定期的な調査が毎年行われているため、改めて調査する必要はないと思われるのに対し、内陸の鳥についてはあまり調査が行われておらず、有意義な調査を行うことができるのではないかと考えられたためです。

また、今回の調査では鳥の見分け方についても重点を置いて調べるようにしてあります。これまで、フィールドレポーター調査ではほとんど鳥類をみつかったことがありません。鳥類を観察するには、やはりちょっとしたコツが必要となります。そこで、それぞれにそのコツをつかんでいただくという目的もあるのです。おそらく鳥類についてはみなさん興味をお持ちのことと思いますので、今後少しずつステップアップをしながら調査を続けていけたらと楽しいのではないかと考えています。そのためにも、まずは基礎的なところから調査を始めようというわけです。

今回の調査で興味が深まったら、ぜひ新しい調査のアイデアを出していただきますようお願いいたします。

ところで、これはお願いなのですが、集計の関係上調査用紙は鳥 1 種類につき 1 枚ずつ書いてください。調査用紙が足りないようでしたらコピーして使っていただくようお願いいたします。もしどうしてもコピーが難しいという場合には、桑原までご連絡を頂ければ調査用紙をお送りします。

## フィールドレポーター 11・12 月の予定をお知らせします。

- |             |     |             |        |
|-------------|-----|-------------|--------|
| ・11月 3日(土)  | 定例会 | 於：琵琶湖博物館交流室 | 14:00～ |
| ・11月 18日(日) | 定例会 | 於：琵琶湖博物館交流室 | 14:00～ |
| ・12月 1日(土)  | 定例会 | 於：琵琶湖博物館交流室 | 14:00～ |
| ・12月 16日(土) | 定例会 | 於：琵琶湖博物館交流室 | 14:00～ |

\*予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。

表 題【 高温の証し 畑の中にも。 】

投稿日【 010804 】お名前【 大津(市)町村 伊東青美子 】

殊のほか暑い夏、毎年夏ともなれば、使う言葉ではあるけれど、今年ばかりは猛暑そのもの。それでも畑の雑草は容赦なく伸びて、私を困らせている。

何種類かの雑草の中でも、今年は一際多いのがスベリヒユ。繁殖力が強く、ホウキ草に似た草姿をしているが、引きぬこうとすると、根っこが折れすぐ切れてしまう。赤紫色の茎は肉厚で、引いて置いておくと枯れたかのように見えるが、生き返って根っこが伸びてくる。

こうして、暑さに強い植物が環境変化をいち早く捕え、順応していく。野草はそろはいかない。作るのに苦労しているより、自然に生える雑草を食べる加工をした方が良いのかも。

\* \* \* \* \*

表 題【 八ちまの成長 】

投稿日【 20010807 】お名前【 大津(市)町村 水谷 】

この春から参加しています。初めて投稿しました。

頂いた10粒の種を1つずつポットにまき(5/9)、うち8本が芽を出し、畑に定植後、5本が育っています。今、最大15cmの八ちまがぶらさがっています。先日実に黄緑色のカメムシを発見しました。ただひとやすみしていたのか、それともこれから彼等にやられてしまうのか、心配です。ちなみに私の実家では、皆八ちまで体をこらしています。結婚後の今の家庭では、私だけが八ちま愛好家です。皆さんもどうぞ。



表題【へちまの状況 才2信】

投稿日【010812】お名前【彦根市西村 松本睦美】

5月16日付で発芽し既に首レポートしました  
が、その後5月24日 5月27日 6月5日 各1本芽  
が出た。6月18日空地に3本定植。風当たりが  
強い場所では支柱が立ってこたえのため地面に  
はねてしまふ(写真添付) 6月末に1本植  
え現在2本のつるは18cm~24cmの実は  
5個ついています。今後大きくなる様子  
なので収穫を楽しみにしています。



表 題 [ヘチマのその後、その他]

投稿日 [010831]

名前 [彦根市 加藤啓英]

不注意から7月早々に両手首を骨折し、カフカの「愛身」の巨大なイモムシ状態となっ  
てしまい、この夏にやりたいと思っていたことが全て先送りに名ってしまいました。

物が持てない状態のため、頂いた種子から育てたヘチマの苗は水やり不足で、実が  
親指大でしなびてしまいました。ヘチマを育てて気づいたことを以下に述べます。

- a. 早めに苗床から大きな鉢か露地に植え多量の水を与えたものだけが良く育ち土と  
水の不足した苗や移植が遅れた苗は極端に育ちが悪くなりました。
- b. ツルが支柱や他の植物に取り付かず、フラフラした状態では蕾が付かず支柱に固  
定されたツルには多数の雄花が付きました。ただ1個の雌花は針葉樹の上にはい上  
がって安定した場所で実りましたが、水不足でしなびてしまい、来年の為の種子は  
得られなさそうです。
- c. 竹竿の支柱の先端から垂れ下がった1mほどのつるは、風に揺られておりました  
が、テナガザルの枝渡りか選手の要領で近くの木枝に取り付きました。この時、  
古く硬くなった巻き鬚がフックの役をしているようです。

家の庭のハクモクレンの切り株は年を追うごとに太さを増しているように思われま  
す。そんな馬鹿なと思われるかもしれませんが、後日詳細を報告します。

リハビリに散歩する近くの水田の水路でメダカを見かけます。ほんの少しのこされ  
たU字溝や3面コンクリートでない農業用水路に、雨後の数日のみ2~3匹が現れ、  
干上がるたびに全滅します。一群の個体としては大きさがひどく不揃いです。



## 表題【へちまが豊作】

投稿日【011020】

【草津市 古谷善彦】

「へちまクラブ」長めの調査の趣旨に共感して、ちょっと力を入れて育成してみました。

10月も半ばの現在まだまだ発育中ですがアバウトな記録ひろってみました。

5月 1日 ポット8個に各1粒ずつ種を植え、もみがらを被せて水をたっぷり与えた。

5月15日 ポットの2個から芽が出てきた。

6月 6日 3本のツルがしっかり出来た4株を定植し、水をたっぷり与えた。

6月12日 根元から少し離れた周囲に肥料を少し、水をたっぷり与えた。

7月 中旬 頃から、花が咲いてへちまが出来だした。(花がたくさん落ちて心配した)

7月 下旬 へちまが大きく成長し、数も増えてきた。

8月29日 食べごろ4個収穫。9月2日「へちまを食べよう」試食用として

9月 2日 朝、食べごろ4個収穫。当日試食用として

9月14日 3個のへちまが茶色に枯れだす。

9月22日 昨日夕方の雨で潤ったところで、今日夕方へちま水の採取を試みた。

9月23日 朝、早速状況を見たが根元から40センチくらいで切って、根元側からは約100cc程度、枝側からは一滴の採水も見られなかった。

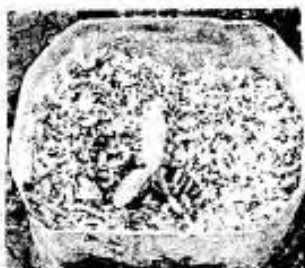
9月27日 別のへちまの木から再度へちま水の採取を試みた。

9月28日 前夜に雨が降ったが、採水は約700cc、ツルは結構太いと思うのだが。

10月 まだまだ生育中で青いへちまがどんどん大きくなってしかも、ツルがよく持ち応えていると感心するほど重たい、どこまで大きくなって枯れるのか？。

既に5個が枯れてたわしとして収穫済みで、来年用の種も確保出来た。

※ へちま水を採る為にツルを切った後、上に実った青いへちまはどの程度に育てば、どうなるのか？ただいま実験観察中です。



五月にふ化し八月に羽化した、食欲旺盛で小錦のおなかのようにまるまるとした雌オオカマキリの交尾相手に、同じ八月に羽化した雄をと考えていましたが、食欲、元気がないので、野外の元気な雄を捕まえ（五月にふ化した幼虫を放していたもの）今日、雌に少し細工をして交尾をさせたところ、雄が食べられることもなく無事に終わったので、その始終を纏めました（写真次頁）。次はこの雌の産卵とふ化が楽しみということになります。

交尾準備：空腹で雄を食べないよう、一時間前に小形のバッタを一匹与える。

小形飼育ケースのふたの上で、雌の片方の前脚に糸を結びつけ、軽く行動を規制するようにした。雌の注意力は糸に集中し、脚に巻いた糸をかみ続けるが糸は切れない。

9:45：雄を雌の後方10センチに位置させる。

雌をじっと注視、触角を先端で5ミリほど交互にゆっくり動かす。

10:00：一向に行動を始めないので5センチまで近付けてやるが変わらず。

10:10：交尾のリハーサルをやるように尾の先を右に曲げる動きを二度繰り返したのち、突然羽を広げて雌の背中に飛び乗り、今度は尾の先を左に曲げ、雌の尾に近づける。雄の「くすぐり器」は見えないが、くすぐり行動をやっているのであろう。

2～3分後、雌の尾の先端の生殖孔と合体。雄の尾の先は完全にUターンしている。

雄の前脚は、雌の前胸から前翅部分をかっちり挟んでおり、雌が交尾中に雄の頭を食べようとしても頭が回らないので不可能である。雌はこの間じっとしたまま。

10:20：雌が、鎌である前脚をなめ始めるが（グルーミング）短時間でやめる。これ以外は雌雄とも、外の刺激に時々頭を動かす以外は、交接部を含め、全くの静止状態である。横から眺めると、前後に並んでお祈りを捧げる敬虔なクリスチャンの姿である。何を祈っているのだろうか？

11:10：交尾開始後2時間になるが静止状態に変化なし。

13:30：交尾が終わったことになるのか、眠りから覚めたように雌が動き出し、雄を背負ったままそろりそろりと動き始めるが、雄はしがみついたままである。

13:40：雌がゆっくり動いている時、雄は一度羽をはばたかせるがそれだけ。

13:50：雄を背負ったまま10センチほどケース側面を下り、50センチほど移動するが雌はまだ離れようとしなない。雌は雄が邪魔に感じているようで、後ろを振り向こうとするが雄の頭までは、とうてい届かない。雄は頭を雌の背につけて離れまい、食べられまいとしている。

14:30：雄の尾が雌から離れ、交接は終わるが姿勢は雌雄ともそのまま。しかし2分後、雄は突然羽ばたいて50センチほど離れるが、雌の威嚇などはなかった。えんえん4時間に及ぶ交尾はここに終了。ただし雌の生殖孔には多分、精嚢であろう白い塊が3ミリほど見えていたが、二時間後にはきれいに体内に取り込まれ見えなくなっていた。

#### 追伸

交尾の翌日朝9時過ぎに産卵を始めているのを見つけました。交尾が産卵のきっかけなのか、交尾前から栄養状態がよく卵巣がいっぱいでまるまると太っていたので無性卵でも産卵する積もりだったのか分かりません。8月14日の羽化後25日で産卵したことになりますが、保温飼育すれば来年1月ころまで産卵の可能性があるので何個産むか楽しみです。



写真、オオカマキリの交尾

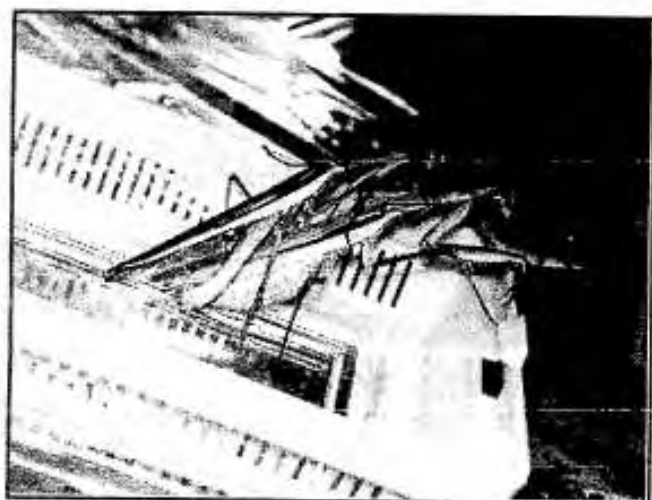


写真1. 雄は雌の後方5センチから雌の上に飛び乗り交尾を始める

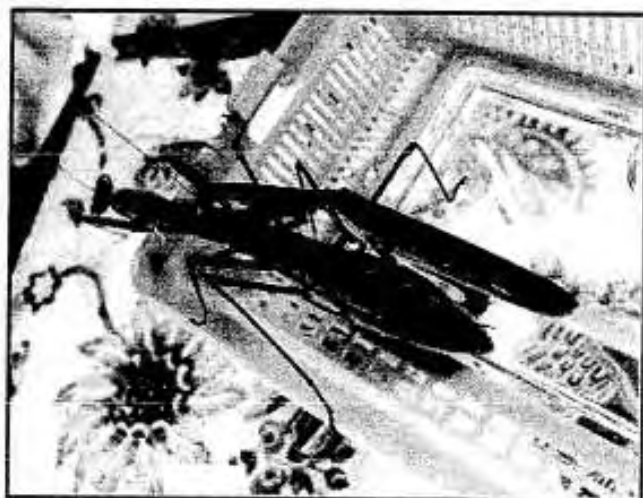


写真2. 上から見ると雄は雌の右斜め奇りに位置、尾の先はし字形に曲がる

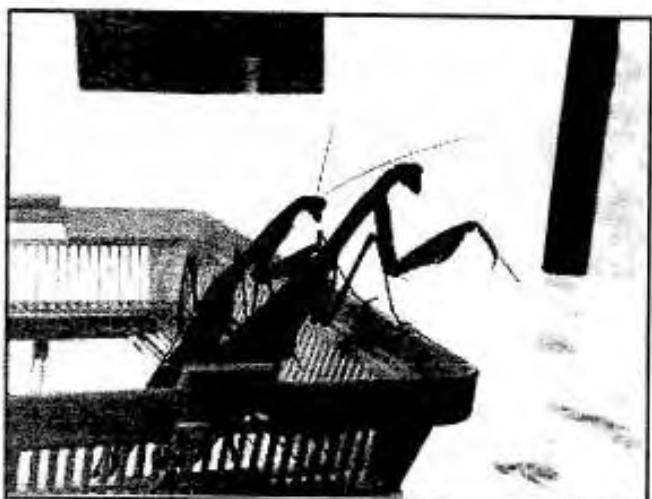


写真3. 横から見ると雄雌並んでお祈りをしているようである。



写真4. 交接部を尾の方から見る。右斜め上に向けて雄の羽。雄の尾はUターン



写真5. 雌の生殖孔と雄の性器の間に白く見えるのは移設中の精囊(?)



写真6. 交尾後3時間半、雌は雄を乗せたまま移動し、ヘン立てに登り始める。

表題「背泳ぎと背歩き一観」

投稿日「010909」

名前「大津市 有田 重彦」

前号の掲載版（2001年度第3号）で背泳ぎができる水生生物は、ホウネンエビと太っちょの空魚くらいと書きましたが、先日読んだ本に甲虫の仲間のマツモムシが背泳ぎをするというものであります。和名の通り松藻などの水草の生えた静水中に住み、英名の back swimmerの通り背泳ぎの名手。水面の裏側に下図のようにぶら下がって餌を待つが、尾の部分を出して呼吸をしている。前脚と中脚が捕獲脚であり、後脚は長くてオールのような遊泳脚。水面に間違って落下する昆虫から小魚まで捕食するが、視覚ではなく獲物の発する水面の波動を脚先の鉤爪の動きとして感知し、獲物の種類や方向距離を判断する。日本では約十種が琉球以外の全土に分布するが、世界各地には約二百種。

昆虫綱半翅目異翅亜目マツモムシ科 Notonectidae に属する昆虫の総称又はその1種。



マツモムシ、翼を下向きに、前・中脚を水面に伸ばし静止する

引用文献

- 1) 日本大百科全書 小学館
- 2) 世界大百科辞典 平凡社
- 3) エゾアの昆虫学 八重 新録 (注) 体長は4~16ミリ。

手で捕らえると口吻で刺されることがある。

表題【 たなご と あかざ 】

投稿日【 010830 】 お名前【 マキノ 市町村 中川 徳司 】

8月12日、集落の共同作業で田南の排水路の掃除に出ました。そこで数十年振りに沢山のタナゴを見ました。私達が子供の頃に「めさんぼったい」とよんでいた正しくは「ミヤコタナゴ」だと思いますが虹色の光沢をもちた幼魚が泥に酔って浮かんでいました。川床の泥をかきあげたので酸欠状態になったのだと思います。まだ2cm程の大きさで数十匹が流されていきました。8月15日改めて網を持って採集に行きましたがブラックバスの幼魚やアユ、カマツばかりで一匹も採る事はできませんでした。川の両面はコンクリート張りですが水源地は湧水地で雑草が川岸から水面に落ち川床にも水草が茂っているのでタナゴが繁殖したのでしょうか全部流されておいては残念です。

それから集落内の田南を流れる殿田川という川中2~3m長さ数百mの小川で昨年アカザと呼ばれる体長15cm程の赤アマスを捕えました。すぐに逃がしてやりましたが水がきれいになってなつかしい魚が帰ってきたようです。

表題 [飛ばない軽鴨]

投稿日 [13.09.09]

[湖北町 土田正文]

6月の終わり頃に近所の池でカルガモの雛が生れ、私がホタルの観察をしている川のポイントで子育てがはじまった。最初は4~5羽、親に連れられ泳ぐ様は可愛いものでした。

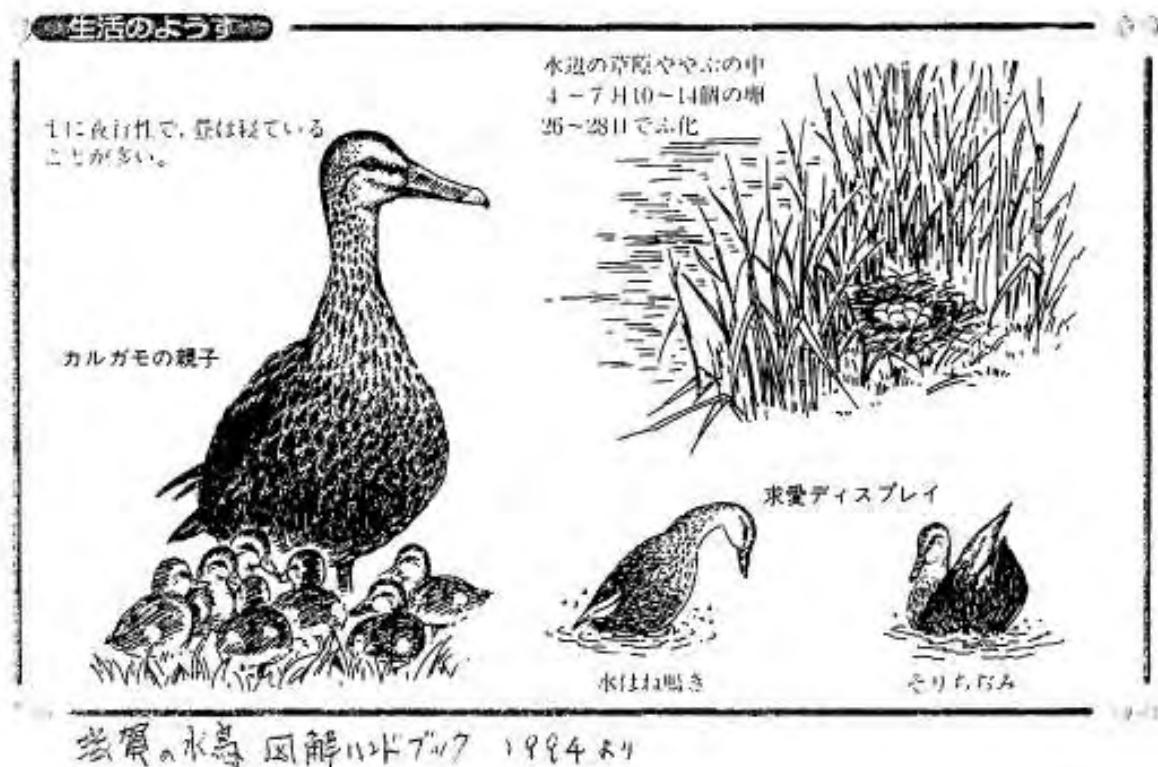
それが、たぶんカラスにでも狙われるのでしょうか。毎週見かけるたびに1羽の減少。とうとう7月末には、親子1羽づつに。ここでの子育ては無理、雛の全滅は時間の問題、親ガモは泣く泣く立ち去るだろう。自然は厳しいものだと思っていたところ、何と、子ガモ1羽だけが残ってしまったのです。

親ガモは身を挺して守ったのでしょうか、8月初めからは独りぼっち。自然界に情けは禁物だが、まだ雛鳥ゆえに、かわいそうで、つい、川の中に石を置いて休憩場所や、隠れる場所を作ったり、エサをやったり。夏の暑さと渇水、人手による川掃除、台風の大雨と増水等、試練を一人で乗り越え、8月末にはすっかり成鳥の毛並みへと。

順調と思っていたが、鳥なのに飛ばうとしないことに気がついた。

「習」という字は、雛鳥がいく度も羽を動かして飛ぶ練習をする意と習ったが彼（彼女）には教える親がいない。もう一生飛べないのでしょうか。羽ばたきの練習をさせる方法はないのでしょうか。

今日もエサをやると寄ってくる小鴨。「なんで翼をつかわないの」と言い聞かせています。



滋賀の水鳥 図解ハンドブック 1984より

表題「適度にハゲた田上山」

投稿日「010920」

名前「大津市 有田 重彦」

今回行われたフィールドレポーターの調査レポート「私の選んだ21世紀に残したい湖国滋賀のいろいろ」を拝見しましたが、守山市の井上さんが田上山の崩落地の修復緑化工事を喜ばしいとする一方、荒々しい岩肌の景観を一部保存しては（適度にハゲた田上山）との、相反する複雑な想いのメッセージを拝見し、過日、たまたま行われた川鶴に関する討論会とも関連して、私の思いつくままをまとめてみました。

ご存知かと思いますが、田上山は、七世紀末に奈良の藤原京や平城京を造成する時の良材を調達する「そま（袖）」であり、多量の伐採で緑深かった山は裸となり、その後の風雨で土砂が流出、自然の森林再生ができずにはげ山となったものです。この流出した土砂が堆積して瀬田川は水の流れが悪くなり、明治中期までの琵琶湖の大水害の原因となっていたようで、これに関しては、今行われている「琵琶湖博物館研究最前線」講座の「琵琶湖の治水」で中川主任主査のお話がありました。

このような意図しない人為的な自然破壊が、長い年月で一つの景観に、定着する例は多々あるようです。

森林伐採の大きな例として、ヨーロッパ、特にイギリスで十八世紀末の産業革命があります。蒸気機関の発明とも相まって燃料の薪需要を増大させ、薪に代わる石炭が使われるまでの間に、森林は消え失せましたが、時が経った現在、それはそれなりのきれいな風景に定着しています。

以上の二例は、意図しない人為的な自然破壊による景観の変化が、時間という風化？作用によって新しい景観、二次的自然に生まれ変わったということが出来ます。

他方、森林再生に成功した例としては、六甲山が挙げられます。明治、大正、昭和と産業が活発になるにつれ、やはり森林が侵食され、また御影石の地質から土砂崩れが多く、谷崎潤一郎の細雪に出てくる芦屋川の大氾濫となったわけですが、現在の六甲山は、県や市の並々ならぬ努力で、先の大地震の傷跡も癒えて緑美しい山々に恢復しています。

この例は、意図しない人為的な自然破壊が、洪水という深刻な被害をもたらすので、破壊からの再生、原状復帰が人為的に行われ、成功したものです。

さて、琵琶湖に戻って竹生島の川鶴問題も調査レポートに数件寄せられています。もしもですが「川鶴の異常増殖によるフン公害で北側の樹木が枯れて全滅し、雨水によって肥沃な腐葉土が洗い流されて樹木の自然再生ができず、南半分の緑うっそうとした景観と好対象の見事な岩山となったものでございます」、あるいは「異常増殖によるフン公害で、かつての全島を緑で覆っていた樹木が全滅、長年の雨水によって見事な巨岩の島に変身したのでございます」という島めぐり観光船の船内ガイドがあったとしたら、皆さんどう思われますか。田上山の荒々しい岩はだに対する井上さんの想いが、竹生島で再現したことになります。

竹生島では、フン公害で全島の樹木が枯れても、常住者がいない条件では直接の被害は少ないようですが、次のような被害が想われますので、森林のCO<sub>2</sub>削減効果とともに、樹木の枯化はたちどころにストップというのが当然の結論でしょう。



(1) フンや土砂の流出による島周辺の水質悪化

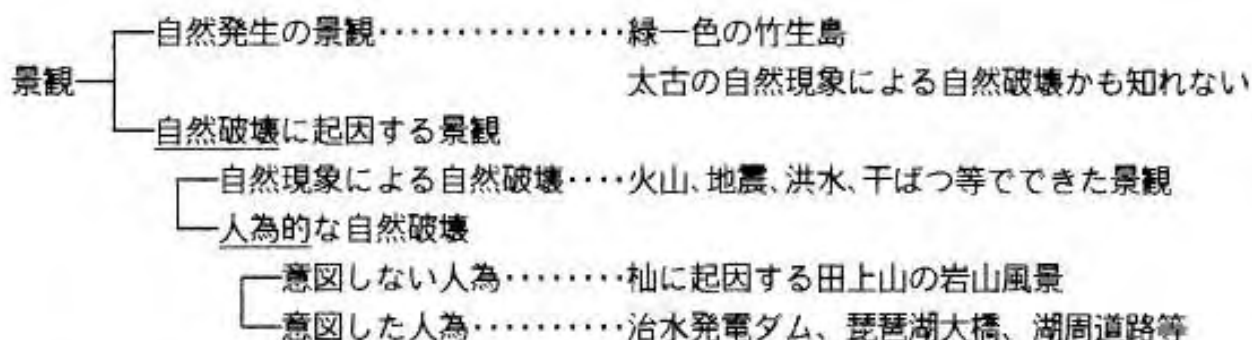
(2) 川鵜を含めた生態系が受ける環境変化

川鵜の異常増殖という自然現象による自然破壊が竹生島の樹木破壊をもたらしたというわけですが、この異常増殖が人為的な何かに起因するものであればそれは人為的な自然破壊であり、また異常増殖がなぜ放置されたかという点（情報の入手発信はどうであったかその影響評価は充分であったか、速やかな処置はなされたか等）からも、人為的自然破壊と見なければならぬかも知れません。

「出る杭は打たれる」という言葉がありますが「出る杭は打たなければならない」と言い換えると、それは環境保全のために大変適切な指針になると思います。異常増殖を続けていけばやがてその種は自滅するのが自然の摂理であり、川鵜自身の存続のためにも適当な間引きが必要かと思われます。また肥沃な土が流された急峻な岩山に木を植えて緑の復元を図ることの困難さ、時間や費用の膨大さを考えれば、答は明白だと思っていますが、皆さんはいかがでしょう。

ところで、21世紀に残したい湖国のアンケートで、風景、景観に関して、沢山ある候補からどういう基準で三つ選択するか大いに悩みましたが、結局、結論が出せず時間切れの棄権という、最悪のケースとなってしまいました。甲賀町の井野さんは「人工的なものより自然なものを残したい」と願っておられるのは、多数の人の潜在意識にあるのではと思いますし、同じく「在来の自然はどうであったか」しっかり研究して選びたいと言われているのは、私の悩みそのものを表現して貰ったような気がします。

田上山の例から、自然破壊をキーワードとして次のような景観分類を作ってみました。自然破壊による景観でも、年が経つと一つの自然発生的な景観、二次的自然に生まれ変わってくるわけですから（この変化を新生と呼ぶか再生、風化と呼ぶか、人それぞれでしょう）、時間軸をどう織り込むか難しい点です。また、自然破壊は罪悪だ、とは限らないわけで、生活や環境改善のための自然破壊を伴う土木建設工事が、自然景観と見事にマッチした景観や人工美を作り「はま大津の七色の噴水」や「なぎさ公園」がアンケートに登場してくることになる訳で、琵琶湖大橋の景観なども21世紀に残したいものではないでしょうか。



なお、蛇足ながら田上山の木材は、いかだにして瀬田川から宇治川経由で木津川を遡上し、木津から平城京まで陸路運ばれたようです。木津から赤い朱雀門が復元されている平城京までは、今の奈良街道を車で十分感覚の近さです。また先日の新聞記事に、世界一大きい木造建築物・東大寺の杣は山口県であったとありましたが、この運搬コースは瀬戸内海から大和川経由でしょう。

表 題 C展 展示パネル の様子うかがい  
投 稿 日 01. 08. 27 名 前 津田 国史

昨 26 日 (日曜日) 午後 2 時半、先週展示替えした C 展の、その後の様子を見に行きました。

夏休み最後の日曜日とあって、ふだんの日曜日より入場者が多く、館内はどこも家族連れが目立ちました。

このたくさんの何人が、フィールド レポーターの展示パネルに関心をしめすのか、観察してみようと、パネルから少し離れたところから、1 時間だけ、入場者の動態観察を試みました。

観察時間 01. 08. 26 14:40 ~ 15:40 (1;00h)

この間に、展示パネルのあるコーナーに来た人(小学生以下は計数してない)	192
展示パネルに気づいた人	36
その 36 名の内 内容を読んだ人	11
パネルの存在に気づかないか、関心のない人	156
たんぼの生き物 分布図を見た人	2
(この 2人は 内容を読んだ11人にふくまれる)	

パネルの裏(昆虫コーナー)から来る人は、パネルを背にするためか、ほとんどの人がパネルに関心を示さず。その意味では、どちらからこのコーナーに来るかで、パネルへの注目度はかなり違ったものになるとみました。

パネルの右下に「のぞいて みよう」とバケツのイラストに付けた仕掛けに興味を示すのは、主に子供で、彼らはその内容には係わりなく、単にさわって動かせるものがそこにあるから興味をしめすだけのようです。

パネルの内容をじっくり読み(本当は、写真を見ているだけかも)しばらくパネルの前に立ち止まるのは、大人の男が多いようです。たんぼの生き物 の分布図に注目した人は、内容を読んだ11人の内の、2人だけでしたが、その1人は熱心に凡例をみては、分布図と照合していました。

パネルのコンセプトを考えると、対象を自然科学に興味をもっている大人、をメインに子供も写真を見て興味をもってもらえたら、と欲張っていましたが、昨日みたかぎりでは子供は全く関心を示さないのには驚きでした。

また、大人(大抵は、親)が、ほとんど子供に解説、説明してやろうとしないことも知らされました。

わずか1時間ばかりの観察で、きめつけるのもどうかと思いますが、いろいろと考える材料を与えられたひとときではありました。

表 題 C展 展示パネル その 2

投 稿 日 01. 08. 30

名 前 津田 国史

先日、日曜日の入場者(5,000人とか)の動きを観察しましたので、昨日は平日の(夏休み中の)動きを見ました。

観察時間 01. 08. 29. 14:00 ~ 15:00 (1:00h)

展示コーナーに来た人	82人
その内 パネルを見た人	3人
バケツの仕掛けに触れた人	11人
分布図を見た人	0人

8・27の報告でも小学生以下は計数していませんが、今回も計数からは省いていません。観察していて、同じ人が再びこのコーナーにきたのを、どう扱うか、という現実にとまどってしまいましたが、この人たちは計数しないことにしました。

幸いか、不幸か、この人たちは、例外なくパネルを見ずに行ってしまいました。

昨日(29日)の入場者は普段の日曜日より少し多いのではと、交流員の話でした。

展示物に、入場者の関心の集まる物の第一は、動くもの、であり、触れるものであることを改めて知らされました。なかでも、動く映像には大方の人が注目し、それを自分で操作できるところには、まず子供が興味を示し、それを操作しだし、大人は子供には係わらず、先に行ってしばらくしてから戻り、子供をうながして次に行くといったケースが多く見られ、大人がこれらの機器を操作することはすくなく、自分でする大人は展示の対象に興味ある人のようです。

展示物の前に腰を下ろせる物があることも、展示に注目してもらう要素の一つではないかと思いました。というのは、子供も含め歩き疲れて、休めるところを求めている人がおおく、そんな所に動く映像があると、そこに腰を下ろす人が多いようです。

内容に関心を持ち、腰を落ち着けて見るという、望ましいかたちからは遠いのですが、ただの通過地点であるより、そこに人が居ることで、コーナーに活気を演出する、サクラ的役割は期待できるのではと、みていました。

交流員のかたから、子供の目線からすると、パネルが少し高すぎるのでは、と指摘され、なるほどそうか、子供を対象にする際に考えねばならぬことだとおもいました。

「馬を、水際に連れて行くことはできるが ～～」と言うのを、子供のころ親父から聞かされ納得していましたが、水を飲みやすいようにしてやることも必要ではないかと、パネル際で考えていました。

表 題 【フィールドレポーター交流会に参加して。】

投稿日 【010908】 名 前 【びわ町 梶本 さつき】

2001年度第1回フィールドレポーター交流会に、参加させていただきありがとうございました。

「わたしの選んだ21世紀に残したい湖国滋賀（わが町）のいろいろ」は、気の遠くなるような膨大なまとめをよくまとめられたな！と感服しました。

自然を守り共存したいという願いは、共通した願いであり、湖国滋賀が美しいふるさとで、素晴らしいフィールドだとみなさん感じておられることがわかります。環境の世紀にふさわしい調査だったと思います。

～へちまクラブ～「へちまを食べよう」は、みなさんのご協力で大変おいしくいただきました。ありがとうございました。

沖縄では、若いひょうたんも野菜だそうで、へちまとおなじように日常の惣菜なのだと長浜の「めんそーれ」で教えていただきました。

暑い夏に育つ植物は、抗酸化作用があるので活性酸素をおさえ疲れを癒す働があると聞きます

ゴーヤ・へちま・ひょうたんなど食べる習慣がなかったわたしたちですがきっとヘルシーな食品なのでしょう。

9月の末は、へちま水の採取時期になります。うまく採取したいものです。根っこからと切ったつるの方からと、今年は両方で採取しようと思います。

へちま水と氷砂糖を煮詰めて餡も作りたいと欲張っています。いろいろ情報をいただけてうれしい交流会でした。

私事でたいへん失礼いたしますが、交流会の帰り八幡駅まで送っていただいた、八日市の雲川弘子様ご親切ありがとうございました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。



表 題 【ヤマジノホトトギス その後】

投稿日 【010906】 名 前 【草津市 寿茸】

朽木村古谷保谷林道のヤマジノホトトギスの花が咲きました。草刈りからは守っていたものの、自然災害で長く伸びた茎が折れたり、虫に食われたりでしたが、また新発見がありました。

葉に油点の少ないものは、花の模様(赤紫の点々)がうすく、油点があるものは模様がくっきりしていたことです。一株などは白っぽく見えて、違う種類かと思うほどでした。



表 題 糸瓜の蔓に瓢箪？

投 稿 日 01/10/18

名 前 守山市 びわこ おおなまけ

多分いちばん遅いへちま栽培の記録になるのでは、と私は思うのだが、我が家のへちまは、いま育ち盛である。

蔓の伸びぐあいはやや衰えたようだが、実の太りは、日ごとに目覚しく、天高く糸瓜肥ゆる秋と言いたい。棚からぶら下がってるのを見ていると、昨日無かった所にひょっこり今日現れたようなのが目につき、それがかなり太いので、ええっと思うことがある。葉の陰にも、密かに成長している実があり、これを探し出すのが私の最近の楽しみで、昨日は気が付かなかった所に、新しいのを見つけたりすると、おおそこに隠れていたのか、そんなに恥ずかしがらんと、陽の当たるところへ出て来いよと、陰を作ってる葉をむしり取ってやることにしている。

そんな中の一つに、瓢箪とまではいかないまでも、胴の真中あたりがくびれた瓢箪もどきをみつけたのだ。良く見ると胴の所に細い蔓が巻きついていて、それがしっかり胴を締め付けるものだから、実はそこだけ太れず、前後が膨らんだ瓢箪もどきが出来た次第である。

あんな細い蔓でも、胴の太りに抗して切れないで、しっかり巻きついているしたたかさに驚くとともに、巻きつかれた実は、それなら、太れるところだけ太ってやろうと、これまた太平楽に太り続けて、私を愉しませてくれている。

これは、糸瓜の習性かどうか判らないが、早く出来た実が、後からできた実に成長を追い越され、あまり大きくなることである。

後で出来た実が、最初の実の倍以上に成長しているのをみると、長男である私は、とても複雑な心境にならざるをえない。

もう一つ、棚に這わせられなくて、地面に這わせた株の、環境が良くなかったせいかも知れないが、蔓の伸びぐあいが悪いのである。

そのため、いまだに実ができてないのだ、多分このまま実が成らない状態で終わるのではないだろうか。





さて、そろそろ皆さんからへちまの収穫はどうするの？というお便りをいただくようになりました。今回は梶本さんにへちま水と実の取り方を書いていただきましたが、いかがでしょうか？もしわからない点などありましたら、博物館にお尋ね下さい。

へちま水がたくさん採れすぎた時のアイデアですが、「風呂に入れた」というのを当館の展示交流員の奥村さんにいただいています。

今回はへちまの調査に関してちょっと提案をしてみたいと思います。へちまの来歴について調べていただきたいのです。私は薬として入ってきたのではないかと考えています。

梶本さんが紹介して下さった「へちま忌」の由来にもあるように、へちまは薬としても役立てられています。たとえばインターネットで調べてみますと、「天津新内田製薬有限公司の民間薬のしおり」(<http://www.shinuchida.com/minkan-ha.htm>)には

☆果実・・・鎮咳、去痰、利尿薬として生の果実を煮た汁を飲む。

☆つるの液汁（へちま水）・・・ひび、肌荒れには化粧水。煮詰めたものは利尿剤

と紹介されています。他にもへちま水を猪口で毎日二杯飲むと心臓によい、というものもありました。薬効をもたらす成分は科学的には未解明ですが、化粧水については複数種のサポニンが効くという説があります。

長崎大学薬学部の「シーボルトによる日本の民間薬調査」のリストの中にもへちまが登場します(<http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/history/history2/yakuso.html>)。江戸時代後期にはすでにへちまの薬効が知られていたこととなります。さらに、「へちま日記」(<http://www.bea.hi-ho.ne.jp/delta/sub4-h.htm>)というホームページには「へちまは慶長の頃（約360年前）中国から日本に伝わり、江戸時代には小石川植物園で薬草として作られ、咳止めや利尿の薬として利用されました。」という記述があります（出典は不明）。こうしたことに興味のある方がいらっしゃいましたら、調べていただけませんか。当館にも本草学に関する書籍は若干ありますが、私の手には負えません。

もうひとつ。「〇〇もへちまもあるか！」などへちまを役立たずの意味で使う事があります。先の「へちま日記」でも話題に上っていて、へちまの皮をつまらないもの、役にたたないものとしてたとえる（「へちま（糸瓜）の皮とも思わず」の略）と辞書で調べた結果が載っていました。でも不思議ですね。なぜへちまの皮なのでしょう？この話題もどなたかに調べていただけたらと思います。

調査の近況をひとつ。へちまタワシの世界的な分布を調べるために、11月に開かれる国際湖沼会議でアンケート調査を平野小学校有志（先生＋生徒）で行う予定で、現在準備を進めています。これまでに「中国では普通に使っている」（梶本さん）、「ギリシャの市場で見た」（辻さん、当館研究員）などの情報が寄せられています。果たしてへちまタワシはグローバル・スタンダードでしょうか？結果は次回の掲示板で。

最後になりますが、レポートを寄せて下さった皆さま、ありがとうございます。坪田さんからは地区のグループでの栽培の様子（かなりの規模です）と、試食会のレポートをいただきました。紙数の関係で今回は残念ながらご紹介できませんが、次回の交流会などでお話いただけたらと思っています。次の交流会には皆さんがそれぞれ自慢のタワシやへちま水、話題などを持ち寄って下さることを期待しています。

フィールドレポータースタッフからの一言

フィールドレポーターのみなさん、こんにちは！！

10月も半ばに入り、いよいよ秋本番となりました。今津の蕎麦の花もいま見事に咲いて、さわやかな風にゆれています。フィールドレポーターのみなさん、秋を求めてどこかへお出かけになりましたか？。秋は収穫の秋であり、また食欲の秋でもあり、何をするにも極めて良い季節でもあります。

ところで、今年度第2回目のフィールドレポーター調査は、鳥の調査をすることになりました。すでにお届けしましたように、テーマは《身近な鳥を調べてみよう》で、調査の対象の鳥たちは身近で、しかも比較的しらべやすいのではないかと思いますがいかがでしょうか。

とは言っても、《野鳥の観察の一般的な注意》にもありますように、観察するについては、いろいろと守らなければならない事柄もありますので、今いちどご確認の上お出かけください。

調査期間は11月30日までです。桑原さんからは、「早々と回答が寄せられています」と聞いていますので、これから締め切りまでには、相当の回答数になるのではと、スタッフ一同集計を想定したデータベース作りを模索しています。欲を言いますと、出来るだけ多くの方の参加と、県内の広い範囲にわたっての調査をお願いできたらと、希望をふくらませています。

C展示室の、フィールドレポーター コーナーの展示替えが完了しました。

今度の展示テーマは《田んぼの生きもの》です。みなさんに調査して頂きました《田んぼの生きもの》の結果がパネルになりました。

ぜひ一度C展示室に見に来ていただいて、意に満たないところなどありましたら、この掲示板などで遠慮なく指摘いただければと考えています。



担当は 津田でした





2001 年度 第 5 号 通巻第 16 号 (12 月)

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。

21 世紀最初の年もいよいよ残りわずかとなりました。この 1 年、みなさんにとってどんな年だったでしょうか。また、フィールドレポーター活動の方も楽しんでいただけましたでしょうか。なかなか十分なお手伝いもできずご迷惑をおかけした点が多々あったとは思いますが、来年以降もどうかよろしくお願ひします。

ところで、今年度第 2 回目のフィールドレポーター調査【身近な鳥を調べてみよう】の方はいかがでしょうか。カイツブリとカモ、カラス 2 種等の区別がつきにくい、アオサギの幼鳥とゴイサギとの区別はつくのだろうか、等々難しい点や疑問点などがスタッフの方々からも聞かれます。確かに、鳥は神経質で用心深いため、なかなかそばに寄らせてくれません。そのため、みなさんの中にもちょっと難しいということで敬遠されておられる方がいらっしゃるのではないかと思います。実際これまでのフィールドレポーター調査に比べると、参加されている方が少ないようです(11 月 30 日現在)。ただ、多くの情報を寄せられている方や、たくさんいるところを発見された方など、いろいろな形で楽しんでおられる方もいらっしゃいます。最初はなかなかとつきにくいかもしれませんが、調査期間も 12 月末まで延長しましたので、身近なところ、とりあえずわかる範囲から調査を行ってみてください。ちょっとなれてくると、以外と目に付き見分けることもできるようになると思います。今回の調査の顧問をしてもらっている当館学芸員の亀田氏から、「1 月中旬頃に水鳥の一斉調査があるので、その時期に合わせてフィールドレポーターによる川やため池などで見られるカイツブリの一斉調査をしてみたらどうだろう」という案も出ています。毎年行われている水鳥の一斉調査は、琵琶湖が主体なので、琵琶湖以外の場所の分布状況がわかれば、比較ができておもしろいのではないかと思います。もし、実施することになりましたらまたご連絡させていただきますので、その際にはまたよろしくお願ひします。

よいお年をお迎えくださいますよう。

フィールドレポーター 1・2 月の予定をお知らせします。

- |              |     |             |         |
|--------------|-----|-------------|---------|
| ・1 月 5 日(土)  | 定例会 | 於：琵琶湖博物館交流室 | 14:00 ~ |
| ・1 月 20 日(日) | 定例会 | 於：琵琶湖博物館交流室 | 14:00 ~ |
| ・2 月 2 日(土)  | 定例会 | 於：琵琶湖博物館交流室 | 14:00 ~ |
| ・2 月 17 日(土) | 定例会 | 於：琵琶湖博物館交流室 | 14:00 ~ |

\*予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。

フィルドレポーター掲載投稿用紙

表題 秋の七草クイズ

投稿日 平成13年10月20日

新旭町岡年落け戸数約80戸ですが、今年で  
才18回の岡区主催文化祭を開催しました。  
その催物の中に私も「秋の七草クイズ」出題  
として参加しました。

コップに7種類の植物を展示し「この中に  
秋の七草が4種類隠してあります。その番号  
に○をつけて下さい」とクイズを出題しまし  
た。1ヨモギ 2ヨメナ 3イタドリ 4ハキ  
5クズ 6ススキ 7オミナエシの植物です。  
大変好評で、97名の応募がありました。中には  
互違から教られたためホクホクの正答があ  
りました。

クイズ解答の時間に、展示した植物それぞれ  
を説明したあとで、展示されていたかった  
キキョウ ナデシコ フシギバカマの実物を  
見せて「秋の七草」の説明をしました。

名もない雑草と言われながら殆んど賞心も持たれない。身近かの植物に対し、このクイズを通して、多くの園区民が賞心を持ってくれたいと思います。

このクイズを出題するため準備している間に、私自身がよい学習ができました。

1. 秋の七草は約1500年前に作られた万葉集の中に山上憶良(660-733)の

「秋の野に咲きける花をゆひおりかき数うれば七草の花」から出ると言われています。

これが事實とすると、今から1500年前の植物が、平成の時代でも観察できると言える事になります。中でもハギ、ススキ、クズ、ナデシコ(カワラナデシコ)は今でも山野で普通に観察できます。オミナエシ、キキコウ、フジバカマは栽培植物として保存されている事から、植物の生命の長さ<sup>に</sup>感じます。

2. 同花している秋の七草を新旭町で採集するためまわりました。ススキ、オミナエシ

は果実の状態で見ることができたが”他の植物は8~9月が開花期であることから、地球の温暖現象のためか 万葉の時代は秋の七草のうち花期が約一ヶ月遅かったのではなかろうかと思われる。

新旭町 坂野善博





表題【 めだかが 生子しました。 】

投稿日【 011101 】お名前【 青根 市町村 花裕 】

毎年 蚊 戸口 庭の つくばい に めだか を 入れ て、 ぼろぼろ  
と 食 べ て も ら っ て い ます。 金 魚 屋 さ ん で 1 匹 10 月 で 買 っ て  
い る の じ ゅ う。 今 年 の 夏 の 終 り、 9 月 末 に 産 し き の 前 庭 の  
つくばい の 方 に めだか の 子 が 泳 ぎ っ て い る の に 気 が つ き ま し た  
半 月 ほど そ の 子 子 に し て い た の で す が だ ん だ ん 数 が 少 く な っ て  
い る の が わ か り。 水 そ う を 買 っ て 来 て 浄 化 装 置 も つ け て 移 し  
て や り ま し た。 親 めだか が 一 匹 い た の で 多 分 数 が 食 べ た の  
だ ろ う と 思 い ま し た が 10 匹 違 ら ず に 残 っ て い ま し た。  
水 を 替 え っ た ら だ の で 薬 が 入 り 出 来 た の で 産 卵 し や す け ん だ の で わ

と 思 い ます。 さ て 来 年 の 夏 は めだか を 買 っ ち だ す み ます か？  
楽 し み で す え さ も や っ て い ます



表題【 カムレ 】

投稿日【 01112 】お名前【 大津市 町村 伊東貴美子 】

今年も カムレ が 家 の 中 で 入 っ て き ま し た。 洗 濯 物 に つ い て 入 っ て  
き た よう で す。 知 ら ず に 舐 め て、 あ わ て 手 を 洗 う の で す か。 あ の 臭 い  
は、 言葉 で 言 い 表 わ は ら ぐ が あり ませ ん。 以 前 は 火 煙 の 害 虫 と 思 っ て い ま  
し た が、 家 の 中 で も 元 氣 に 飛 び ま わ っ て い る と こ ろ を 見 れ ば 違 う の か  
も わ か り ませ ん。 体 の 色 も 茶 色 や 緑 が い ます。 形 も 少 し 違 う の か  
い て、 ま れ に も 種 類 が あり っ か。 そ れ で は 卵 は？ 幼 虫 は？ と ---。  
好 奇 心 は、 背 中 の 模 様 を 見 る た め に 虫 わ か り を 取 り 出 す 生 け 膨 り  
ま し た。

表 題 【掲示板15号有り難うございました】

投稿日 【011129】

名 前 【びわ町 梶本 さつき】

掲示板（10月）有り難うございました。遅ればせながらお礼申し上げます。  
みなさんのへちまのお話や、カマキリの詳しい観察など何度も繰り返し読ませていただきました。

ところで、へちまタワシは皆さんのお台所で、活躍しているでしょうか。今年の秋は、晴れた日が多かったのできれいに乾き、美しいタワシができました。みなさんもそうだったと思います。12月16日にみなさんとお話し合いができるのを、楽しみにしています。  
実は、失敗談があるのですが、梅の木や、柿の木につたわすと木が弱ると、家人から注意をうけています。来年は、しっかり支柱をして、栽培しようと反省しているところです。

へちまコロンは、美肌（？）づくりに重宝しています。本人が満足していただいているので、高価な化粧水をつけるほどの顔でないことが、正直なところです。

健康なよい種が沢山できたので、来年も「へちま」のお仲間を増やしたいと思います。

表 題 【 へちま たわし の 本 来 由 について 】

投稿日 【011101】 お名前 【 香根 町村 桃 桜 】

我家ではへちまを 根木鉢に植えて、すかしの木の下に  
置き育てました。始め木陰だったので 成育が遅く又鉢の  
うちの 1つからのと 梶本様の 実のとり方を読んで黒く  
染めているのを（まだ緑色が残っていました）皮をとり粉干し  
の 洗濯ばさみに干しました。まだ又個は緑の色もあさ  
やかで、根木が黒く染めるのを楽しみにしています  
すかしの木にはまだへちまの 花が咲き小さな実をつけ  
ているのもあります。すかしの華がよいので 成育はよく水はけ  
と乾いています。

表 題【鳥の観察を今回やってみて。】

投稿日【01.11.26】お名前【肥後県宇市町村 草津市】

こんなに白さぎかいいなくなるとは驚きました。  
 だって、この調査用紙が届く前まで、毎日、  
 家の裏の小川に白さぎか来てたし、いつもいつも  
 田舎の田舎に白さぎかいた。なのに、10月  
 11月といたなくなりました。レポートを書くのに  
 困難をきめました。  
 草津川でかも(…だろと)か君にいたけど、  
 双眼鏡を辞ち歩くよりにたつても、日が暮れ30

か早くなって結局、種類を確認できず(「まいて」  
 鳥の観察は本腰を入れて時間をとらないとむずかしい  
 とかめかいた。

表 題【へちま大のしは難かしい。】

投稿日【13.12.01】お名前【草津市町村 古谷善彦】


へちまの大のしを作る苦労してはす。  
 9月3日までのしの大のしが採れず、それ以後は青大と  
 生育するばかりで枯れてくれています。  
 そこで、青いへちまを切り取ってビニール紐を吊して2週間ほど、黒く  
 なりかけた水分を取ります。結局は腐ってしまいました。  
 現在秋大のしへちまが4個青大化して1個が秋大化して  
 生かされ、今年も、へちまのしは思い難い。

表 題「花びらの異常性一統2」

投稿日「011103」

名前「大津市 有田 重彦」

小菊のようなつわぶき（石蓴、キク科）の花が満開状態、といいますのは、この花が日の当たらない北側の庭すみでもきれいに花を咲かせるので、一株から増やしてきたところ十株程になり、かなりの花を付けるようになってきたからです。同じ団地内の家で石垣塀の上にずらっと植えてある見事な満開に比べるとまだまだ、ささやかな状態ですが。

小さいころ、つわぶきの茎を母が料理していたような記憶がありますが味の記憶は全くありません子供にとってはうまいものではなかったからでしょうか。一度試食はやってみようと思っておりますが「あく」は強そうです。

本題ですが、花びらを見るとまた計数くせが出てきてしまい、下表に追記したとうりです。花びらの数が十三本とは不吉な花だな、なんで、とつい思ってしまいますが、十三が不吉な数というのは人間、クリスチャンが勝手に決めたことで、花にとってはとんでもない迷惑ということでしょうか。

それから、六月には十本程の白い鉄砲百合が例年どうり見事な群集美を見せてくれましたが、この花びらは全部六弁で異常なものは全くなく、清楚でお行儀の良いお嬢さんという感じがします。来年もよく咲くように先日、二年ぶりに球根を掘り起こして植え直したところです。

表 花弁の数の異常性調査結果（2001.11.03追記）

調査 年月	花の名前		正常 の花 弁数	花弁の数／正常のものより2枚少ないものは-2弁							調査 花数 合計
	通称名	正式名称		-3弁	-2弁	-1弁	正常	+1弁	+2弁	+3弁	
12.3	金のなる木	花月	5	0	2 0.3%	17 2.9%	529 89.5%	43 7.3%	0	0	591 100%
12.4	クンシラン	クンシラン 彼岸花科	6	0	0	0	69 95.8%	1 1.4%	2 2.8%	0	72 100%
12.4	ハナニラ	ハナニラ	6	0	4 0.7%	4 0.7%	551 90.0%	30 4.9%	23 3.8%	0	612 100%
13.4	染井吉野桜		5	0	0	4 0.8%	481 99.2%	0	0	0	485 100%
13.6	鉄砲百合		6	0	0	0	71 100.0%	0	0	0	71 100%
13. 11	つわぶき	ツワブキ 菊科	13	1 2.5%	1 2.5%	9 22.5%	25 62.5%	4 10.0%	0	0	40 100%



表 題 [稲枝駅西側より 雑件]

投 稿 日 [011107]

名 前 [彦根市 加藤啓英]

両手首を骨折後もやじ馬根性止み難く、痛さをこらえて「閑居して不善をなす。」日々を重ねています。芭蕉の「侘び」「寂び」や「俳諧」とは無縁ですが、リハビリの為に「近くのおぜ道」の「徘徊」を日課にしています。

1. JR稲枝駅の西側の彦富町の水田の干上がりかけた、U字溝や3面コンクリートの農業用水路でメダカを採取し続け、現在約40匹を木漏れ日の下に置いた36:70:25(深さ)cmのプラスチック容器で飼っています。発生元をさかのぼりましたところJR稲枝駅の東側、国道8号線よりは西にある、忘れられたようにミゾソバやツユクサに覆われた両岸泥で出来た、ごく短い、いつU字溝に回収されてもおかしくない用水路でした。

- \* これを増やして、この地域の特徴をもったメダカとしてこの地域(愛知川・宇曾間の国道8号線より西)に限り、小学校等の飼育や水環境改善後の放流にあてても良いでしょうか。又、DNA調査の試料等として意味のある使い道はないでしょうか。多分、メダカの激減が話題になり、注目された後なので多くの地域から見つかри、珍しくは無くなったのでは無いでしょうか。

2. 農業用水路を見ていると、色々な生き物に出会います。イシガメが数匹も連なって下って行きます。底がコンクリートでは冬が越せないので無事下流の泥に逃げ込めるよう祈っています。

「黒いゴミ用ポリ袋が遡上してくる。」と見えたのはナマズでした。水面スレスレの足元のコンクリートの板の下を通り過ぎて行きました。

釘箱を蹴散らしたように4~5mmの無数のハゼ類が上って来ます。中には空き缶に籠城した少し大きいものも見られます。多分海のマハゼと同様に雌の生み付ける卵や稚魚をここで育てるつもりでしょう。

少し規模の大きい用水路の文祿川(底には生活排水のヘドロが溜まっているが、澄んだ水が流れ溶存酸素は足りていそう)には、大きなフナや数種の名前の分からない魚が群れをなして泳いでいます。その中に、泳ぎが速すぎよくは見えないのですがハーマークがあるように見える12cmほどの7匹ほどの群れを見かけ気になっています。

季節に関係なく堰の開け閉めで流量が変わり、魚の登れない垂直の水路やカーテン状に落ちる水にはばまれ、日照りには干上がり、生き物が死に絶える水環境を改善出来ないでしょうか。愛知川や宇曾川では日照りが続くと本流は干上がり、多くの生き物は死に絶え、水草が腐り悪臭が立ち込めますが、本流内の窪地や橋の橋脚の周囲の水でえぐられた部分は伏流水につながっているのか、冷たい水に水生昆虫やマキガイや幼魚・稚魚が生き残ります。淀川のワンドと同じような働きをする貧弱・脆弱な環境の多様性ではないでしょうか。

3. うれしい誤算で一個も実らなかったと思っていたヘチマが庭木の間にぶら下がっているを見つけました。水に浸けておきましたが、黒く腐りはじめて、あまり良いタワシは出来そうもありません。それでも来年分の種子は得られそうです。

ヘチマ水も採りましたが、鉢(プランター)の容積がかぎられているのでごく少量でした。それにしても、鉢にかけた単なる水が地上数センチで切った茎を上る間に有価物(化粧水・利尿剤・咳止め、成分は微量のペクチン、タンパク質、糖分等)に化けるのはどうしてでしょう。

雌雄異花の為、素人でも雑種が作れそうに思うのですが、容易に手に入る、学名の頭の「属名」が Luffa ではじまる植物は無いでしょうか。よく似ているヒョウタン、キュウリ、カボチャ等が全部別の「属」なのです。

〒 521-1113

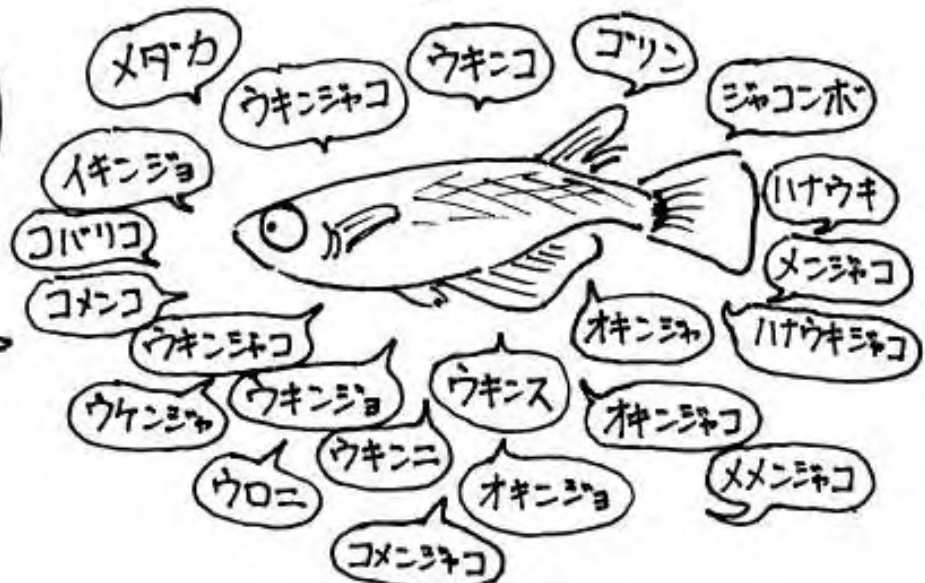
彦根市稲部町270-8

加藤 啓英

Tel/Fax 0749 43 2576



みんなホワの名前です。  
(滋賀県内の)  
全国では、  
2000以上も  
名前がある  
って!



私の家は、1972 年ごろ水田を山土で造成した、160 世帯程の JR 稲枝駅の西側の住宅地です。造成地は厚く覆土されておるので、ここで見られる動物は、その後自力で移り住んだか、意識的または物流によって運び込まれたと考えても良さそうです。又、町に沿って走る JR 線の上手は小動物の棲み家と移動ルートになっていると思われます。

以下にわが家とご近所(場所を記入)で見られる脊椎動物をリストアップして見ました。

両生類 1. アマガエル(多分ニホンアマガエル *Hyla japonica*)

- \* 以前、庭に池を作って魚を飼っていましたが、その頃は、春先などに上を掘ると外の種類のカエルが現れ、あわてて埋め戻すことが時々ありましたが、今は見られません。

爬虫類 2. ヤモリ(多分ニホニヤモリ *Gekko japonicus*)

3. カナヘビ(多分ニホンカナヘビ *Tokydromus tochydomoides*)

- \* ここではトカゲ(多分ニホントカゲ *Eumeces latiscutatus*)は見られませんが、近くの荒神山ではよく見まかけす。

4. シマヘビ(*Elaphe quadrivirgata*) お隣に棲み着いているらしく、数年毎にお隣から「助けて下さい、何とかとて下さい」と頼まれます。

鳥類 5. スズメ、ツバメ、ムクドリ、セグロセキレイは住宅地内に営巣するようです。ハシボソガラスが近くの稲枝東小学校のプラタナス等によく営巣します。

哺乳類 6. イタチ(ホンドイタチかチョウセンイタチかは不明) お隣の池のまわりや住宅地内の道路を横切るところを見かけます。

7. アブラコウモリ(イエコウモリ *Pipistellus abramus*)住宅地内を飛び回ります。わが家に棲み着いてはいません。

8. アカネズミ(*Apodemus speciosus* Temminck 1845)町の中を家庭排水配管が複雑に走っており、町の清掃・草刈りで追われるのか、その中を伝わって数年毎にわが家にも逃げ込み、ピアノのフェルトのハンマーを食い荒らされ大痛手です。

不完全ではありますが、年月・場所・記述者名の記録に残しておけば後日の変化の比較の資料なると思います。専門知識のある方の指導を頂き、フィールドレポーターの内の興味のある方により、同様の記録を集積して残す事が出来れば、滋賀県の動物の生息環境を面にとらえられるのではないのでしょうか。

表 題 「樹の切株を調べてみました」

投 稿 日 「011127」

名 前 「彦根市 加岡 啓英」

7月9日に両手首を骨折し、なんとも情けない夏を過ごすはめとなりました。8月の始めに退院した後も、約一月間、ひねもす・夜もすがら寝て暮らしました。

この間、聞こえるものは昼間はアブラゼミ、夜はコオロギ、見えるものは枕元から約2m先に、この辺りの子供にトトロの樹と呼ばれるハクモクレンの樹ぐらいのものです。

この樹はそれほどの大木ではなく、二階の屋根よりわずかに高い程度ですが、住宅地内で手入れもせずノホホンと育つにまかせているのはわが家だけなので、目立つらしいのです。

この木は、根元から幹が二本に分かれ、ほとんど同じ様に育ったため、数年前にその片方を切り倒したのですが、その時の切り取った側の太さは周囲 20 cm 程度(大きく見積もっても 30 cm 以下)だったようにおもいます。ところが今見ると、幹として育ち続けている側と、切り株側の太さはほとんど同じなのです。

<永年にわたり、一生懸命、黙々と生き続けていた切り株の苦勞を見落としていたようです。>

傍芽が育ち続けている間は株は生きており、年数掛ける形成層の厚さ分だけは太さが増しおり、これが完全な切り株の場合でも傍芽からが雑木林が再生することは頭では理解出来るのですが、有機物の製造設備である葉緑素のある葉が出来、同化作用が始まるまでの材料とエネルギーの元は何処から来るのでしょうか。

種子や球根や塊根から芽が育つ時、胚乳が消費され、球根や塊根が痩せてゆくように、切り株のどこかが消耗しているはずです。取り除かれた縮小した(いやな言葉で：リストラ?)地上部に対して、手付かずの過剰な根が使われているように思えるのですが。

カサの巻いた切り株は、広葉樹の葉柄や果実のへたの離層に似ている様に見えます。

参考までに彦根市南部、荒神山南西の琵琶湖畔のアカマツの切り株を調べましたが、生きている株で最も太いものでも、胸高の周囲が最大級でも約 2m40cmでした。

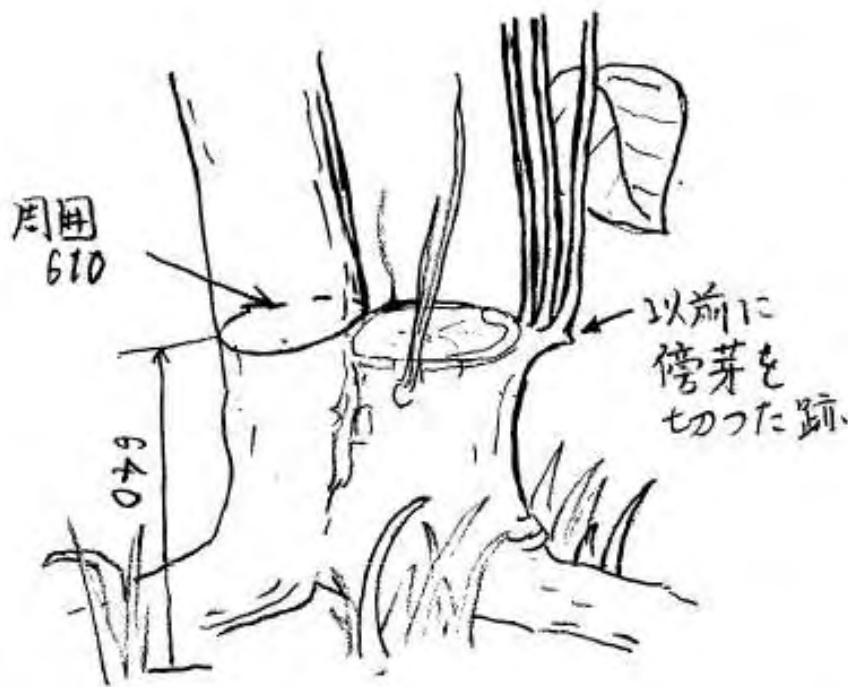
切り株は樹齢80年程度、以外に若いのに驚きました。外側5~15年分の成長が止まり、年輪の間隔が異常に狭く、健康なら切られた形成層を覆っている筈のカサが全く見られません。マツガレ病の為に切り倒されたものなのでしょう。

\* 私は小学一年生の夏に敗戦を迎えましたが、戦時中にはアカマツの幹から松根油を採取する為の、ウルシ液やゴム樹脂液を採る為の物に似た斜めの切り傷が付けられておりましたが、半世紀以上たった今、この跡のあるアカマツが何処かに生き残っているのでしょうか。あるのなら見たい気持ちがします。

以下に A図 現在の切り株の計測寸法と見取り図

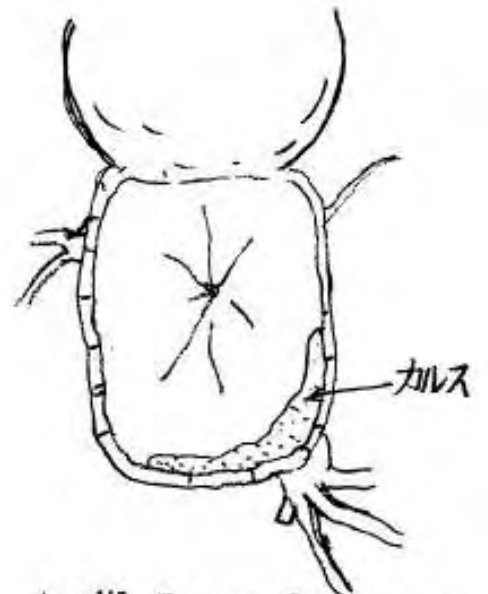
B図 半世紀近く前に学んだ、おぼろげな「生物学」の記憶とあやふやな知識で書いた断面の想像図





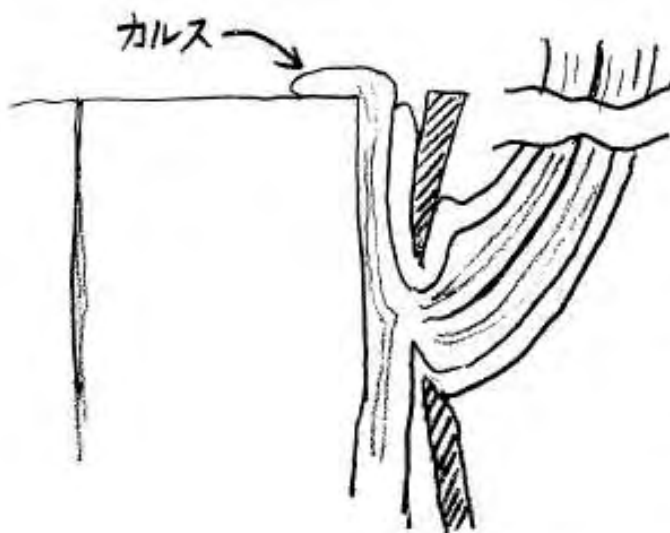
傍芽の長いものは { 1350 mm  
730 mm  
以下、合計 6本

A-1 図



切断面は長径 179  
短径 135  
上面は煤の様に黒く  
年輪は数えられな  
かった

A-2 図



B 図

幹の基部にある定芽  
(頂芽の補欠)が萌  
芽幹となって伸長  
する。多分早期に  
頂芽が失われた為、  
二本の幹となったと  
思われます。

環境庁・滋賀県環境課の「(滋賀県の)哺乳動物調査」に加わっているのですが、聞き取り調査に参加してくれる方が少なく困っています。

フィールドレポーターの方たちの中で情報をお持ちの方の協力を頂きたい、お願いします。

対象は野性び野性化した外来種の哺乳類です。

- \* クマ シカ カモシカ イノシシ (野性化イノブタ) キツネ タヌキ  
アナグマ ホンドリス イタチ (チョウセンイタチ) ノウサギ  
ニホンザル ムササビ モモンガ リス ヤマネ 等
- \* ニートリア マスクラット ハクビシン アライグマ タイワンリス  
スカンク ハリネズミ ミンク タイワンザル (交雑ザル) 等につき、

以下わかる範囲でお知らせ下さい。(申し訳ありませんが、予算がなく、謝礼ができません。)

「野性動物」と表記して

1. 何時 : 何月何日、何月頃、約何年前
2. 何が : 和名
3. 何処に : 地名、できればメッシュコードも、周囲の環境も
4. どれだけ : 何頭・何頭程
5. 情報提供者の連絡先・Tel・Fax等
6. 後日、電話等で更に聞き取り調査に応じて頂けますか。

以上をフィールドレポートか投稿に同封してして下さい。

イノシシとイノブタ、イタチとチョウセンイタチ、ニートリアとマスクラットは見分けが困難かと思っておりますので、自信が無ければ" ? "を付けて下さい。

連絡先 〒521-1113  
彦根市稲部町270-8  
加藤 啓英  
Tel & Fax  
0749-43-2576

サルに付きましては、もし尻尾の長いものに混じってしまいたら交雑ザルと思われるのでお知らせ下さい。

あまりむづかしく考えず気楽にお知らせ下さい。「ウリ」では困りますが「誤り」は問題ありません。必要なら追跡調査をしますので。

## フィールドレポータースタッフからの一言

今年もあわただしく年の瀬を迎える頃となりましたが、フィールドレポーターの皆さん風邪を召さずにお過ごしでしょうか。

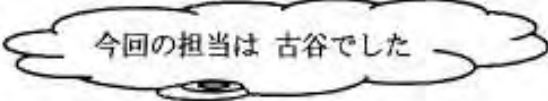
今年はちょっと趣の替わった長めの調査「へちまクラブ」を芳賀さん@IBMのご指導と、根本さんの長年に亘る栽培体験談を参考にこの春から始めましたが、皆さんの成果は如何だったでしょうか。「へちまたわしが出来た」、「へちま水を探った」「種がたくさん採れた」「まだまだ生長中」、と云った状況を耳にしています。私の経験からは生命力の強さを改めて感じた事でした。9月2日の夏のへちま交流会「へちまを食べてみよう」では、刺身や炒め物などを飛び入り参加の家族連れなどを含めて、賑やかな雰囲気の中で素敵な経験をして結構おいしかったのではないかと思います。参加された皆さんお味の感想は如何だったでしょうか。この「へちまクラブ」はまだまだ続くようです。

さて、ただいま今年のフィールドレポーター第2回調査「身近な鳥を調べてみよう」を実施中ですが、今まで行ってきた調査の回答数に比べると少ないようなので先日、担当の桑原さん@IBMにお願いして回答締切日を12月末まで延長する事として、先日改めて調査用紙を送付していただきました。寒さが増してくるに従って鳥の姿も少なくなっているようですが、今一度身近なところでも目を向けていただきたいと思います。

今年最後の掲示板ですが今号で今年度すでに第5号になりましたが、フィールドレポーターの皆さんの熱い想いの数々を、この掲示板にたくさん寄せていただき有難うございました。

これからも親しみやすいそして、大いにためになる掲示板を目指しますので、来年も引き続き宜しくお願いいたします。

最後になりましたがフィールドレポーターの皆様、良いお年をお迎えください。



今回の担当は 古谷でした

フィールドレポーター

# 掲 示 板



2001年度 第6号 通巻第17号 (1月)

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。  
明けましておめでとうございます。少し遅いですが、新年のお祝いを申し上げます。みなさんどんなお正月をお過ごしでしたでしょうか。不況のせいか年々せちがらくなり、昔のようにお正月をゆっくりと祝うことも難しくなっているようで、私も何か年々お正月というイメージが薄れていくなあというのを感じております。そのような中、フィールドレポーターの活動は楽しく和気あいあいと進めて行きたいと思っておりますので、今年もどうかよろしくお祈りいたします。



さて、12月末日で今年度第2回目のフィールドレポーター調査【身近な鳥を調べてみよう】の方も終了とさせていただきます。最終的には、37名の方から総数326件の報告が寄せられました。期間を2ヶ月に延ばしたことで、後半はみなさん慣れてこられて観察もうまくできるようになったのだらうと思っております。ただ、今回は調査の方法でいろいろと改善しなければならない点が見つかりました。そのあたりはまたスタッフのみなさんとも相談しながら、よい方向に進めて行きたいと思っております。

ただ、今回の調査については、掲示板の中でも何度かご案内させていただいておりますが、調査のあまり行われていない琵琶湖以外にすむ鳥について調査を行おうということと、今後フィールドレポーター調査の中に鳥の調査も含めていきたい、そのための第一ステップとして比較的簡単な調査をしようという2つの意図がありました。それについては、いくつか意見を頂いております。現在、フィールドレポーターには122名の方に参加していただいております。いろんな分野に興味をお持ちの方がおられ、中にはもちろん鳥に興味をお持ちで、独自にいろんな会や調査に参加して活躍しておられる方もいらっしゃると思います。そのような方々には今回の調査はもの足らなかつたかもしれませんが、できるだけ多くのフィールドレポーターの方に参加していただき、しかも調査の手薄なところをカバーして行くというところで、今回のような調査が企画されたわけです。これから、全体にステップアップしていければと思っておりますので、何かよい案がありましたら、ご提案ください。

ところで、前回の掲示板で1月中旬にある琵琶湖いっせい水鳥調査にあわせて琵琶湖以外のカイツブリ調査をするかもしれない旨書きましたが、残念ながらこちらの準備が間に合わず、実施することができませんでした。次の機会にはぜひやりたいと思っておりますのでその際にはよろしくお祈りいたします。

フィールドレポーター2・3月の予定をお知らせします。

・2月 2日(土) 定例会	於：琵琶湖博物館交流室	14:00～
・2月 17日(日) 定例会	於：琵琶湖博物館交流室	14:00～
・3月 3日(日) 定例会	於：琵琶湖博物館交流室	14:00～
・3月 17日(日) 交流会	会場未定	13:00～

\*予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。



本掲示板先々号（8月）の『カマキリのふ化』に続いて、本テーマの『脱皮・羽化』編とすべきところを、先号での『カマキリの交尾』編が、えんえんと続く交尾観察の間に、結果をワープロに打ち込んでいったので原稿がすぐ出来てしまい、先走ることになりました。一匹のオオカマキリの一生を追った飼育記としては、本編が先で次が交尾編、最後に産卵編で一応の完結というところです。

昨年秋に野外の成虫を採取して始めたオオカマキリの飼育では、年を越して2月までの生存に成功しましたが、本年5月19日にふ化した1齢幼虫の飼育では、11月23日に5個の卵のうを残して残念ながら死んでしまい、再度の越年飼育には失敗しましたが、野外の自然寿命よりは若干長生きだったようです。ふ化から羽化までの観察結果は次のとおりです。

### 1. ふ化から羽化までの成長

野外産卵の卵のうからふ化した一匹の雌オオカマキリについて、5月19日のふ化・脱皮から、更に7回の脱皮を繰り返して8月14日に最終8回目の脱皮・羽化までの成長過程を、体長を測定して調べた結果は表1（次頁）と図1（次次頁）に示すとうりである。

体長の測定は、スケールをカマキリと平行に置いて目測で行ったが、幼虫が小さいときは動きが早いので目測が難しく、また全体として、背筋を伸ばした状態で丁寧に測定というわけにもいかず、±5%程度の誤差は避けられないようである。死後、まっすぐに伸ばして測定した体長は86mmであったが、羽化時に測った動態での体長は83mmであり、3.5%の違いであった。

昆虫は、脱皮の時に体長が伸びるので、脱皮から次の脱皮までは、体長の変化なしというところで、図1のような階段状の体長成長曲線ができるわけである。マイクロ天秤で体重の測定も行っていれば、これは滑らかな直線に近い体重成長曲線になったはずである。体長の成長曲線ではあるが、これに羽化後の五回の産卵と死亡の時期を追記したので、これは、この雌オオカマキリ一生のイベントを示した生涯曲線ということができる。

この図表から得られる知見を、産卵も含めて纏めると次のとうりである。

①羽化した成虫の体長は、ふ化直後の1齢幼虫の9.2倍、ふ化前の前幼虫の13.8倍に相当する。

人間の赤ちゃんに適用すると、大人は4、5m級の超巨人になるが、自然界にはもっと高い倍率（成長度）や低い成長度の生物がいるようであり、なぜこのような違いができたのか、存在するのか、不思議なことである。

②脱皮後の体長は、脱皮前の体長にたいして、1齢幼虫から4齢幼虫まではほぼ1.5倍で、5齢幼虫以後は1.3倍弱である。

付図の（1）にふ化したただけの前幼虫とそれから脱皮した1齢幼虫の比較写真を示した。脱皮した抜け殻は付図の（3）のように薄くて弱そうであり、これが3～5割もの成長量を押し込んでいたとは考えがたいが、抜け殻の厚さや強度を測って見ないと結論を出す事はできない。

③次のふ化までの間隔は、9日から18日まで、平均12日ちょっとであるが結構差が大きく、また大きくなると間隔が長くなるような、体長との相関は認められない。

カマキリの食餌量が多いと体長には現れない実質的な成長（体重の増加）が早くなり

脱皮間隔が短くなるのではと考えられるので、気温等の天候条件とともに与えた餌の量（時間当たり）の多少も脱皮間隔の差になったのであろう。

④カマキリの基本的な姿は、羽の有無を除けば初齢（1齢）から成虫まで変わらないが羽に関しては、羽化前の6齢幼虫から付図の（4）のように翅芽と呼ばれる羽の原形らしきものが認められ、終齢の7齢幼虫では付図の（5）（6）のように羽化に近いことを明瞭に知らせている。

⑤産卵は、9月8日から11月12日までの期間に、計5個であった。

野外では、3個の卵のうが近くにまとまって見つかることが多く、一匹の産卵数はほぼ3個と思われるが、この人口飼育では2個多い結果となった。

自然条件では、秋が進むほど最低気温の低下と餌の量の減少が顕著になるので（10月後半でコオロギ、バッタは激減）、体力・産卵能力が低下し、3個の産卵が限界になるのであろう。

室内・ケース内での飼育は、夜間の気温低下が少なく、かつ11月10日から18℃の保温を始めたうえ、餌も根切り虫や肉類をコオロギ、バッタの次に与えたので、体力・産卵能力の低下が少なく、死ぬ前まで産卵ができたのであろう。

⑥卵のうの重量、すなはち大きさは、産卵の順に小さくならず、第3回のものが最大であった。最終の卵のうは、死ぬ十日程前で、体力が弱ったのか半分以下であった。

表1. 雌オオカマキリの体長成長記録

	月 日	ふ化後 の日数	間隔 日	体長 mm	体長比 1齢幼虫時	成長比 脱皮毎	備 考	
ふ化/前幼虫	05/19	0	0	6	0.67	0.00	薄い皮を被って出てくるとすぐ薄い皮を脱ぎ始める	
1 齢幼虫	05/19	0	0	9	1.00	1.50		
2 齢幼虫	06/01	13	13	14	1.56	1.56		
3 齢幼虫	06/10	22	9	21	2.33	1.50		
4 齢幼虫	06/28	40	18	32	3.56	1.52		
5 齢幼虫	07/10	52	12	40	4.44	1.25		
6 齢幼虫	07/19	61	9	51	5.67	1.28		羽の原形”翅芽”が見える 翅芽顕著
7 齢幼虫	08/03	75	14	67	7.44	1.31		
羽化/成虫	08/14	86	11	83	9.22	1.24		
交尾	09/07	110	--		卵のう重量g	雌雄比	野外成育の雄と交尾させる	
第1回産卵	09/08	111	25	-----	1.368	1.00	交尾の翌日産卵	
第2回産卵	09/25	128	17	-----	0.908	0.72		
第3回産卵	10/12	145	17	-----	1.438	1.05		
第4回産卵	10/30	163	18	-----	1.217	0.89		
第5回産卵	11/12	176	13	-----	0.541	0.40		
老衰死亡	11/23	187	11	-----	-----	-----		

## 2. 飼育経過

- ① 1 齢幼虫は、弁当大のプラスチック製食品容器で10匹ほど一緒に飼い始めた。餌は、アブラムシが密集して寄生している菜の花を枝ごと与え、無制限投与の形にしたので共食いはまったくなかった。2匹がぶつかると手足を振り回して互いに逃げるだけで威嚇姿勢や捕獲行動はまだ見せなかった。
- ② 6月末になると、カマキリは3齢となるが、餌のアブラムシが激減したので、小さな虫類や子供のバッタを与え始めた。また昆虫飼育ケースで1匹ずつ計3匹の個別飼育を始めた。ただし、羽化まで生存したのは1匹だけであった。
- ③ バッタやコオロギは、カマキリと平行して大きくなるので、それらが死滅する10月まで絶好の餌であり、2～3日に1回2匹程度与え続けた。
- ④ 脱皮は早朝に行われるようで、9時以降の時間では観察できなかった。カマキリが大きくなっていることと、抜け殻の存在で脱皮を確認した。
- ⑤ 成虫の雌はまったく飛ばないが、雄は高さで1.5メートルの上昇が出来ること、水平飛距離は、室内のため5メートルまでは飛べることを確認した。

以上

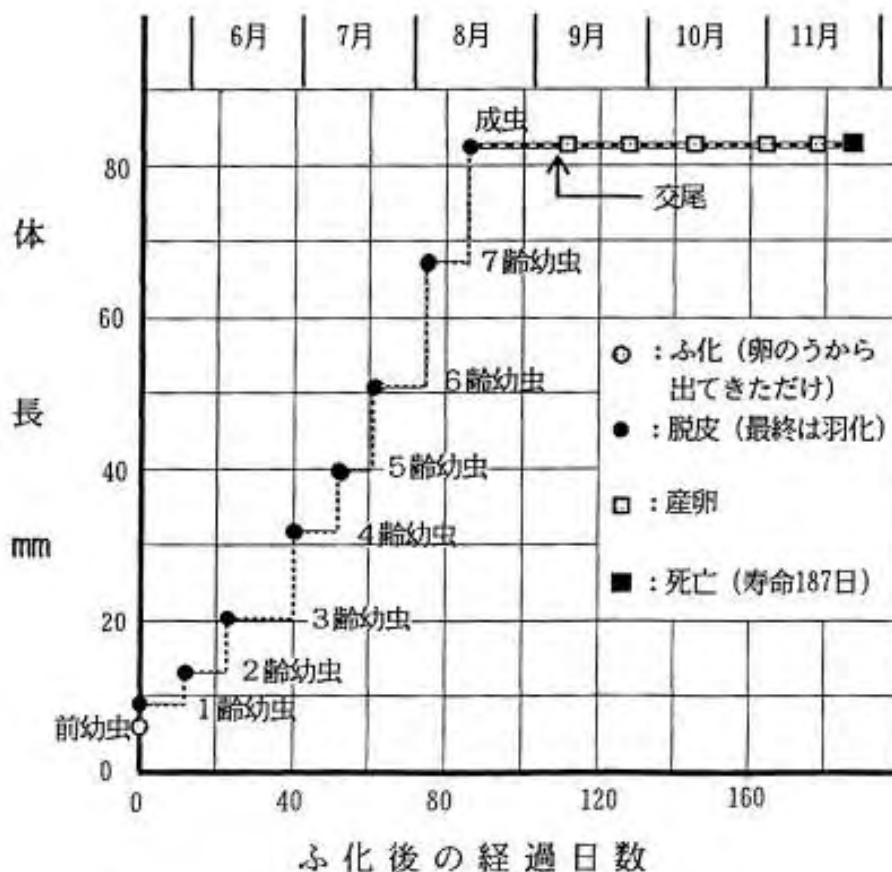
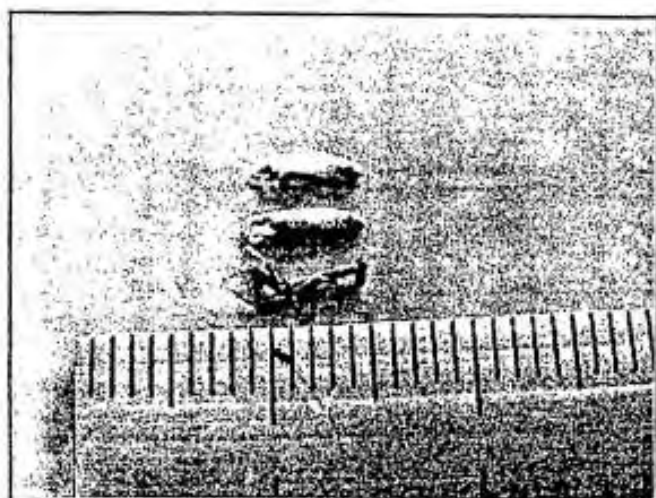
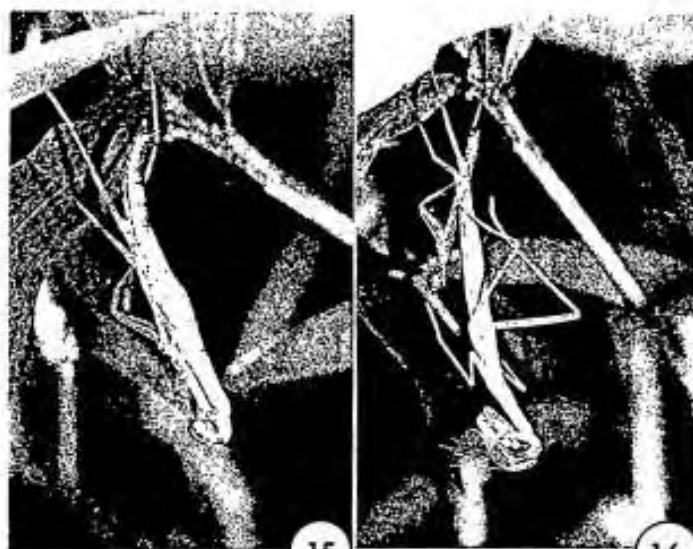


図1. 雌オオカマキリの体長成長曲線（生涯曲線）

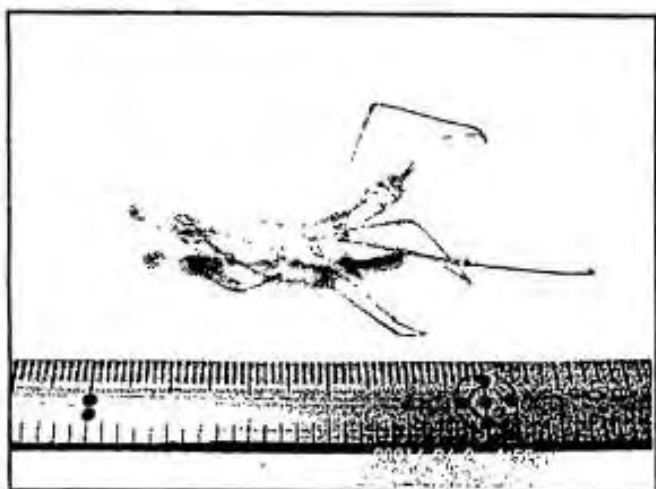
付図. オオカマキリの脱皮・羽化



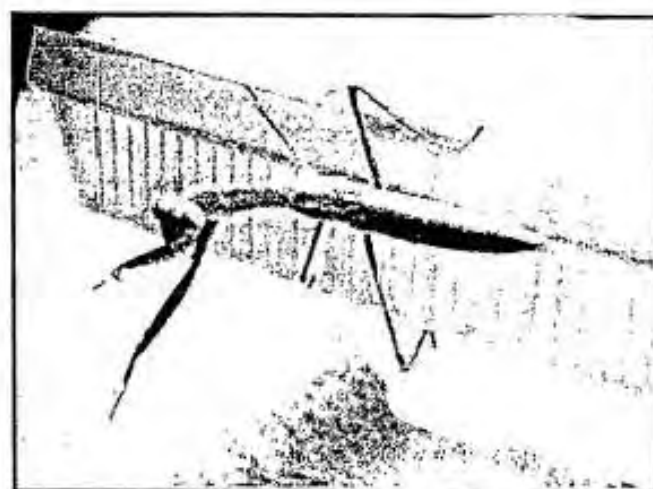
(1) 前幼虫と脱皮後の1齢幼虫(手前)



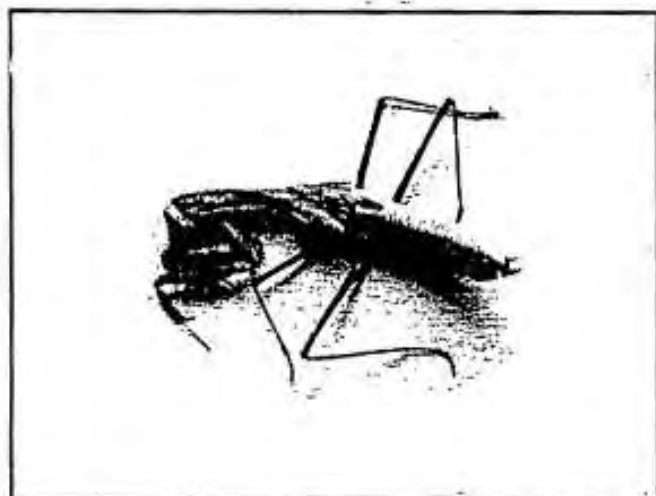
(2) 5齢幼虫の脱皮状況



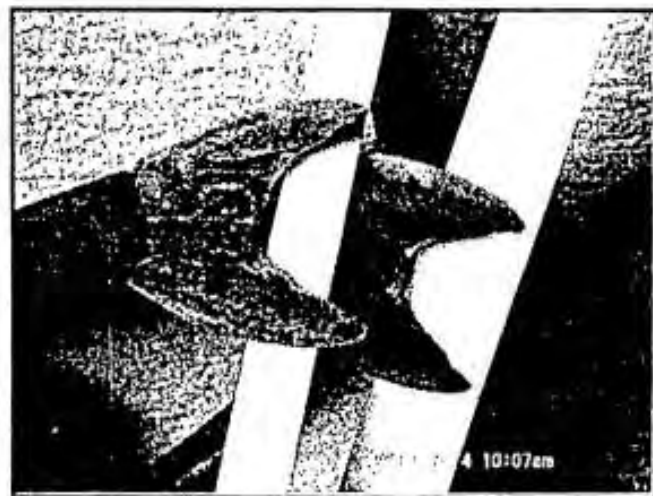
(3) 6齢幼虫の脱皮した抜け殻



(4) 翅芽が見え出した6齢幼虫



(5) 7齢幼虫の発達した翅芽



(6) 拡大した7齢幼虫の翅芽

(カマキリは原因不明の死)

注) 写真(2)は『佐藤信治:庭にきた虫 人間選書206 農文協』から引用





表 題【ハクニ化粧水とタワシできました】

投稿日【01/228】お名前【中村かほり市町村 安土町】

ハクニの観察:久しぶりにしました。初めの頃は雄花ばかりで雌花が咲かない状態が続いたので、実ができていないのでは無いかと心配していたが、8月に入りやっと雌花が目につきました。実の付くのが遅くて、なかなか大きく育たなかった感じでした。レポーター便りで実が食べられると言う事だったのでみそ汁の実にして食べてみた所、何とかナスを食べている様子を感していました。結局タワシは2車たけて10月の20日頃にハクニ水を採って、無事ハクニ化粧水作り事ができました。ハクニの種戴いたお陰でハクニ作り楽しむ事ができました。有り難どう御座りました。

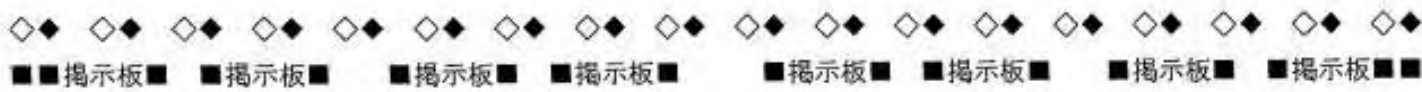


表 題【川せいかど、ハクマのタワシできました】

投稿日【12/29】お名前【甲西 市 村 古びるママ】  
011229

地植えしましたのが 軒下で、水が少なかったのが  
小さな、かわいいハクマでした。適当なサイズには水につけておくと、あの固い皮が、みかんの皮をむくようにむけました。サイズが小さかったので、種をとりにつかた  
です。来年 自ら一度、トライして、水をたくさんあげて ハクマ水をとりたいです  
では、よいお年を!

1. 下突いても、踏ん付けても、締め上げても、引っ掻いても、なかなかしぶとく剥けにくかったヘチマの皮が簡単に剥けましたのでお知らせします。  
12月16日の交流会で頂いて持ち帰ったヘチマをブツ切りにし、室内の乾燥を防ぐ為のヤカンに代えて、灯油ストーブの上に置いた胴長の鍋で煮ただけで拍子抜けするほど簡単に剥けるようになりました。難点は長いヘチマを切らずにそっくり煮られるサイズの鍋が、なかなかないことです。
2. 宮本武蔵は風車の廻るのを見て、湫石は坂道を登りながら考えた。そこで小市民はヘチマの皮を剥きながら考えた。「ヘチマのタワシは魚礁にならないだろうか」と、以下、一緒に考えて下さい。  
大小無数の孔があり、稚魚・幼魚が親魚や他の魚から逃れ易いのではないか。ここに着生する水質浄化に寄与する生物の多くは稚魚・幼魚の餌になるのではないかと思うのです。・・・と解ったようなことを言いましたが、稚魚・幼魚の言葉の正しい意味を教えてください。卵黄を腹に付けている卵から孵ったばかりは何と云うのですか。
3. ヘチマの煮出し汁は「草木染め」に使えそうに見受けられるので、絹や羊毛のような蛋白質繊維を模した分子構造のナイロンが染着性がよいので、試して見たいのですが、どなたかナイロンの布地を売っているお店を知りませんか。(透明な袋やフィルムを無差別に呼ぶ「ナイロン」「ビニール」でなく材質が本物の「ナイロン」です)

【質問】

前述の皮を剥く為に煮た後の種子と、何もしなかった種子との発芽率を比べて見たいのですが、ヘチマの種子は、実の中では十分な水分があるのに発芽しないのは、発芽抑制物質のような物が働いているのでしょうか。種子のまま冬を越せず、秋・冬の内に発芽してしまうことの無い為の歯止めの機構が有るのでしょうか。直前まで果汁に浸って濡れていた種子の表面を、水洗いして乾燥しただけで、再度水を与えれば発芽の条件は整うのでしょうか。

又、広く認められた発芽率測定の手順がありましたらお教え下さい。

\*\*\*以下は別件です。\*\*\*

私にご連絡を頂いた時だけ博物館へ伺っておりましたので様子が解らないのですが、フィールドレポータースタッフの皆様は博物館でお会い出来る曜日をお教え下さい。

☆☆☆ 最終ページに少し詳しく説明しました。☆☆☆

投稿日 「011209」

\* 自宅付近の、住宅地・耕地・河川及び河川林（愛知川・宇曾川）・緑地（曾根沼緑地）・里山（荒神山）で見られる鳥（四季を通しての全て）を思いつくままにあげて見ました。これ以外にも思い出せないものもあり、名前のわからないものも数種見かけます。

特に鳥について知るための努力や勉強をしたわけでもなく、日々の行動範囲で目に付く鳥の姿と名前を気にしだしたらいつのまにか識別出来るようになり、楽しみが一つ増えました。初めて見た鳥は思いきり下手な、誇張したスケッチに矢印で色名を記入しておき後で図鑑で照合しておく、次ぎに出会った時には旧友に会ったような気になります。

\* 一年を通すと次ぎのような鳥が見られます。この他にも、珍しい種に合えることも有ります。

アオサギ	アマサギ	ウグイス	エナガ
オオバン	オオヨシキリ	オナガガモ	カイツブリ
カルガモ	カワウ	カワセミ	キジ
キジバト	キセキレイ	キンクロハジロ	ケリ
ゴイサギ	コガモ	コガラ	コゲラ
コサギ	コシアカツバメ	コチドリ	シジュウカラ
ジョウビタキ	スズメ	セグロセキレイ	ダイサギ
タシギ	タゲリ	チュウダイサギ	ツグミ
ツバメ	トビ	トモエガモ	ハクセキレイ
ハシビロガモ	ハシブトガラス	ハシボソガラス	バン
ヒバリ	ヒヨドリ	マガモ	マヒワ
ミミカイツブリ	ムクドリ	メジロ	モズ
ユリカモメ			

\* 以下の様にあやふやな点、知識の不足を感じている点が多々あります。

- ☆ ガアガアとダミ声で鳴いている群れをハシボソガラスとして個体数をカウントしながら通り過ぎたころ、頭の後ろからカアカアと澄んだ声が聞こえた時、どれがハシボソガラスでどれがハシブトガラスか、個体数はどう扱うべきかまようことがある。
- ☆ 人がカワウであると言うのを聞いてカワウと信じているものの中に、もしウミウが混じっていたとしても、とても気が付きそうにもない。
- ☆ モズとアカモズ・チゴモズは図鑑で見る限りシルエットや色が似ており、これらを見ても多分モズと誤認してしまいそうに思われる。
- ☆ コチドリと信じている鳥がイカルチドリの誤りかも知れない。
- ☆ トビ以外のハヤブサか、それよりやや大きめのワシ・タカ科の鳥を見かけるが識別出来ない。
- ☆ シギ類の内、タシギとムナグロ以外は見分けられない。
- ☆ 個体数調査に自信がない。 今年の今頃、愛知川の栗見橋～湖岸道路間の左岸から主にカモ類をカウントしました。肉眼では約30程でしたが22×6倍の双眼鏡で見たところ、対岸の割石に見えたの全てがカモ、カモ、カモ、枯れ葦の根元にもカモ、カモ、カモ、総計は400以上になってしまいました。



### ご近所の小鳥情報

- \* 私の住む住宅地横の用水路の文祿川でハクセキレイが確認できました。セグロセキレイとキセキレイだけと思っていたのですが、これで近似種3種がそろいました。

セグロセキレイとの見分けの決め手は、胸の黒い逆三角形です。

- \* 小鳥の行動を見ると結構笑わされるものがあります。

\*\* ハクセキレイ2羽が向かい合い、鳴き交わしており、そのそばに更になが控えているのを良く見かけますが、始めの2羽は多分♂でそばの1羽は多分♀、2羽の♂は1羽の♀をめぐるの恋の鞘当て中です。♂の1羽が逃げ出せば他の1羽は必ず追いかけます。あまり夢中になって追い回し、出来かかったカップルに破局がおとずれることはないのでしょうか。

\*\* モズの求愛給餌は良く見かけられます。♂はさしずめ「ミツグ君」、餌をもらう側の♀は羽を膨らませ、からだを震わせ、嘴を大きく開けて、雛が親鳥から餌をもらう時のようなポーズをとります。元祖「ブリッ子」でしょうか。

このところ数日間、餌をくわえて♀の後を追いかけて続けている♂に出会います。多分彼が元祖「モテナイ君」でしょう。

\*\*\* 今、恋愛騒動が起きているのですから、巣箱は今が整備・清掃の時期でしょうか。少し小さいのですが、牛乳の紙パックで使用期限一年の巣箱を作って見る積もりです。

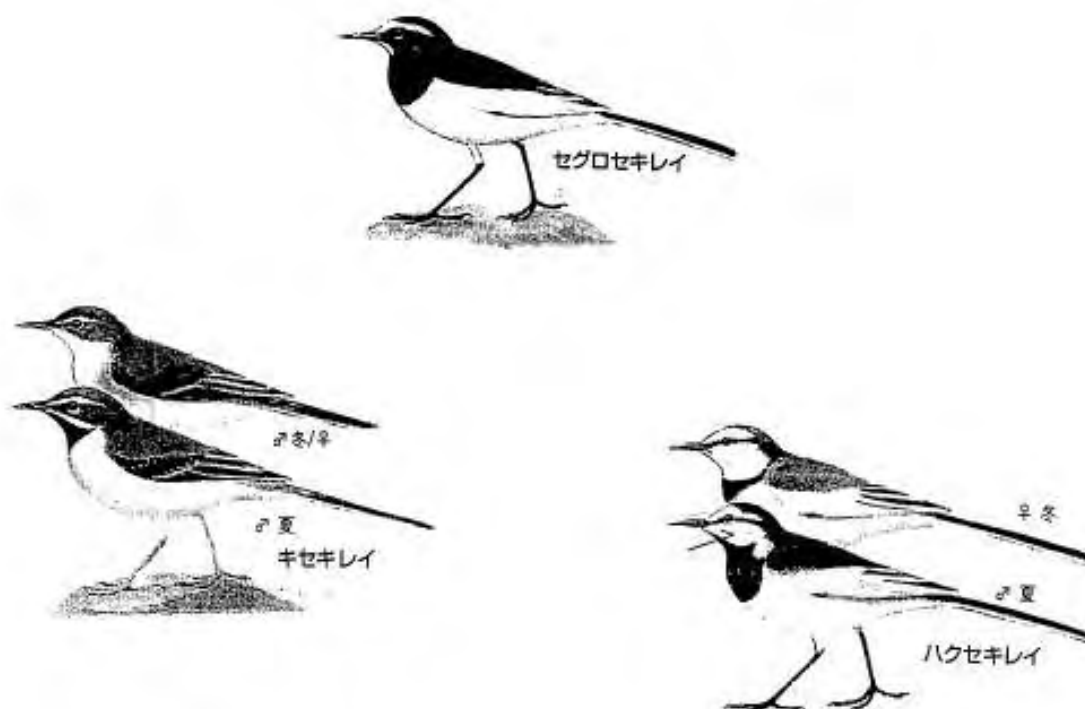
- \* 今朝住宅地の外れの柿の木にゴイサギの幼鳥が止まっていた、時期的にはこれで良いのでしょうか、冬が越せるのでしょうか。

図鑑等で産卵期の記載の有る物が以外に少ないのですが、

ゴイサギ 4～8月

参考 アオサギ 4～6月

コサギ 4月下旬～8月



## オシドリを見ました

投稿日 2001 / 12 / 10

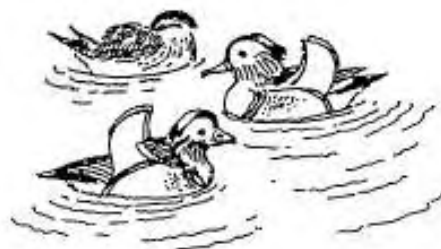
投稿者 前田 雅子

私は見つけるのが下手なのでしょうか、フィールドレポーター調査ではいつも、調査対象物を探すのに苦労しています。けれども先日、カイツブリがいないかなと思って出かけた池で、なんとオシドリを見ることができたのです。

場所は天津市北部、真野中学校のすぐ近く（JR堅田駅の北西約2km）。山を切り崩した住宅地の端で、車はビュンビュン通るが、人はほとんど通らない所です。私は、オシドリは山あいの池にいたと思っていましたから、湖岸から2kmの住宅地のそばにいるなんて、もう大発見・大感激でした。

オシドリは10羽ほどの群で、さかんに潜ってはエサを探っていました（池に落ちたドングリなどを食べるらしいです）。初めは車の中から双眼鏡で見ていたのですが、もっとよく見たいと車の外にでたところ、鳥たちはスーッと、入りくんだ岸の陰に隠れてしまいました。鳥との距離は100m位だったと思います。さすがに野生の鳥だと感心したり、ガッカリしたり…。仕方なくその場を離れて20分ほど時間をつぶしてから、再度見に行きました。今度は観察しやすい場所に車を停めて、車中から見るだけにしました。よく、周りにとけ込む服装で姿勢を低くして近づくと良いと言いますが、この車中からの観察も“おすすめ”です。その際、いいポイントを確保するのがコツで、でも決して無理をしないのがお互いのためと分かりました。

フィールドレポーターをしていると、こんな思いがけない出会いや発見があって楽しいですね。



「滋賀の水鳥 図解ハンドブック」より



表 題【 野性動物 丹Ⅾ 】

投稿日【 2001.12.20 】 お名前【 大津市町村 伊東 善美子 】

1. 12/4 12/7 12/9 12/14 12/16 12/17 猿が家の近くへ来た同.

2. 丹Ⅾ.

3. 〒江ノ東 5235-4669 比叡山の麓、(京阪穴太駅、  
高志徳神社 四ヶ谷川、瓦家

4. 約 30頭 田、大田)

5. 大津市穴太二丁目11-8. TEL. FAX 077-578-1535

6. 調査をしておられる目的がよくわかりませんが、わかる  
範囲でお答えします。猿の被害が大きく困っている

毎日です。このグループは狂暴  
だと言われていいます。



表 題【鳥の調査を省みて】

投稿日【020116】

名前【古谷 善彦】

調査期間が1ヶ月延長されたのを受けて、12月は方々へ出かけたものの期待外れの結果に終わり少々残念でしたが、それでも全くの成果ゼロではなく湖北のJR近江中庄駅から中庄浜までは同じコースを3回通いカイツブリ、ダイサギ、そしてゴイサギらしい鳥に会うことが出来ました。中庄浜で見つけた鳥たちは概ね同じ処を棲みかになっているように感じました。今津の日置前にかけても探索しましたが、この辺りでは鳥どころか人にも会えませんでした。車は走っていても人の歩く姿はなく、カラスを見つけるのがやっとの感じでしたが、ゆめのや鳴野で食した地場特産のそばは結構おいしかったですね。

田んぼに水の入る頃、今度は「たんぼの生き物」調査に訪れたいと思っています。





表 題 「納豆の次ぎに」

投 稿 日 「011215」

名 前 「彦根市 加岡 啓英」

この夏は不注意より骨折し、やりたかった事が何も出来ぬまま年の暮れとなってしまいました。 以下が先ずやりたかったこと

1. 納豆の完全自家製。藜苳とナットウ菌の為の稲作に加えて大豆も自家栽培すること。  
タイミングを逃し出来ず。
2. 稲以外のイネ科植物から得られたナットウ菌による納豆作り。  
よく理解していない「麦角菌」「LSD」という言葉が頭をかすめ、断念。

そこで納豆製造は一時休業とし、ヨーグルトを作ってみました。 これまた非常に簡単で、12月の始め頃より食べ続けていますが特に体調に変化も無いので多分無害だろうと思いますので報告します。宜しかったら試して見て下さい。

製造法は、冷蔵庫に残っていた牛乳3本分を容器に移しヨーグルトと砂糖を大匙2杯分加え混ぜ合わせただけで、後は4～5日待つだけです。

ここで加えるのは生きた乳酸菌入りの「ヨーグルト」であり、「乳酸飲料」では有りません。

砂糖は甘みだけの為だけではなく、頑張ってくれる乳酸菌への御褒美でもありますので、必ず加えて下さい。

冷蔵庫内では温度が低すぎますので室内に置いて下さい。 めるま湯で加温すれば発酵は早まるようです。 後は好みの味になるまで待つだけです。

回りくどく言いましたが、手抜きをすれば、食べた後の少しヨーグルトの残った容器を洗わずに牛乳と砂糖を加えて掻き混ぜたと同じことです。

教えて下さい。 納豆菌、乳酸菌は種の名前ではありませんが、生物として扱う場合の表記は下のどれを使うべきでしょうか。 \*はワープロの変換したものです。

「ナットウキン」「ナットウ菌\*」「納豆菌」

「ニューサンキン」「ニューサン菌」「乳酸菌\*」

昨年5月のふ化から飼育していたオオカマキリが、9月に入って死んだので、その空いたケースで、庭で採取した小ぶりの雌オオカマキリ成虫の飼育を開始した。そして4個の卵のうを産卵したが、その最初に産んだ卵のうから越年前の12月18日にふ化が始まり、季節はずれの1齢幼虫が生みの親の目の前で誕生した。人為的な環境ではあるが珍しいのでそのいきさつを日を追ってまとめてみた。

- 1) 01.09.16 庭のムラサキツユクサにいた小振りの雌オオカマキリの飼育を始める。
- 2) 01.09.18 同じく庭で採取した雄と交尾をさせる。
- 3) 01.10.24 飼育ケース上蓋内角に第1回目産卵、サイズはオオカマキリとして中。付図写真1, 2参照。卵のうは産みつけたままの状態にしておく。
- 4) 01.11.10 最高気温が15度を切りだしたので18度の保温箱に飼育ケースを入れる。この日以降は一日24時間、18度を切ることなし。最高気温は西日で30度。
- 5) 01.11.14 第2回目産卵、第1回目の卵のうに平行して並んで産卵、サイズは中。付図の写真1, 2の卵のうの向こう側。写真4はこの全部の卵のうをケースから取りはずした状態で、第2回目の卵のうの様子がよく分かる。
- 6) 01.11.29 第3回目産卵、サイズは極端に小さくなる(写真4)。産卵場所はそれまでのところから離れるが、天井隅角部は同じ(写真3)
- 7) 01.12.17 第4回目産卵、前回の卵のうに平行し、大きさもほぼ同じ(写真3, 4)
- 8) 01.12.18 第1回目産卵の卵のうから1齢幼虫が28匹ふ化しているのを発見。早速、自然では見られない親子の記念写真を撮る。産卵後55日でその間の最低気温は多分10~15度以上で、越冬はふ化の必要条件ではない事が分かる。小型の飼育ケース2個に分けて入れるが、春に幼虫の餌であったアブラムシがないので、水とハチミツを含ませた脱脂綿を与えて様子を見ることにする。なお、ふ化して数時間は、親と一緒にいたことになるが、食欲不振の親であったので、親から食べられた様子はなかった。
- 9) 01.12.22 子供のふ化を見て安心したのか親カマキリ衰弱死。写真1, 3で見えるように右前脚の基節から先がなくなっており死因の一つと思われる。脚の切断原因は分からないがケース蓋の開閉不注意であろうか。
- 10) 01.12.29 餓死と共食いで生存数11匹となる。6個のビニールバックに分けてやり、1ミリくらいの肉片を針の先に突き刺し、口先に直接着けてやると鎌を振り回して逃げるが、4匹は食べ始める。以後2~3日おきに肉片を与えるが、根気よく与え続けるとやっと食いつき、小1時間ほど食べている。
- 11) 02.01.06 1匹の1齢幼虫が脱皮して2齢幼虫となる。ふ化から19日目。
- 12) 02.01.09 2匹目が脱皮して2齢幼虫となる。ふ化から22日目。

現在、1齢幼虫と2齢幼虫が各2匹であり、餌の肉片から逃げ回って餌付けの良くないのもいるが、なだめすかして、春には季節はずれの羽化した成虫を見たいものである。

付図． 越冬前にふ化した卵のうとその親子

12180003.JPG



写真1. ふ化した卵のうとその実母のオオカマキリ、ふ化した子の1齢幼虫

12180001.JPG

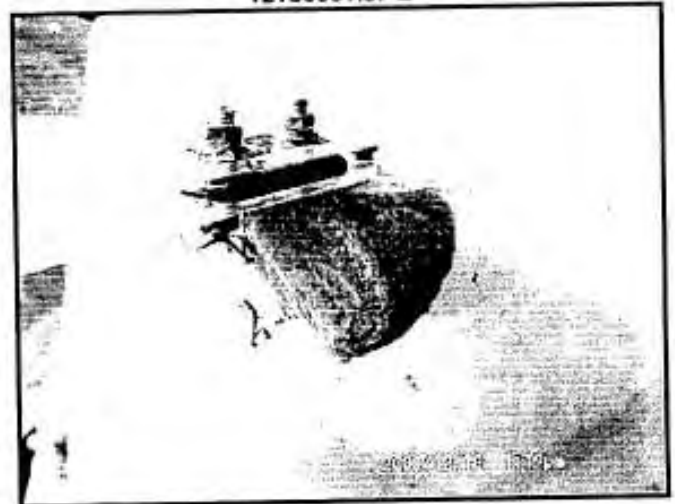


写真2. ふ化した卵のうと1齢幼虫(2匹)卵のうの下に脱皮抜け殻がぶら下がっている

12180004.JPG

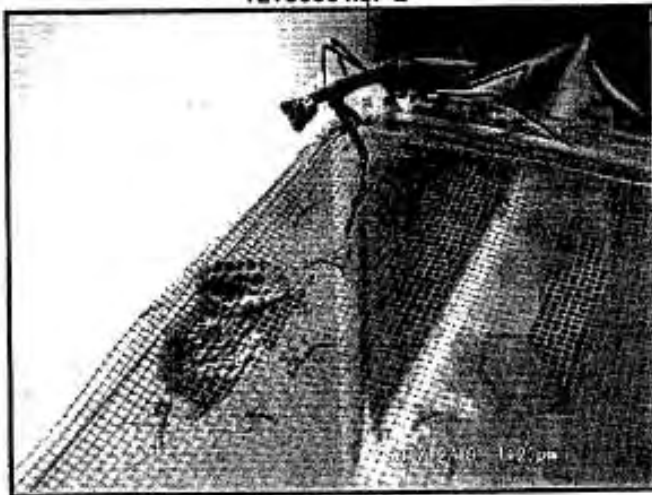


写真3. 飼育ケース上の親とケース内の1齢幼虫、卵のうはふ化してないもの

12180006.JPG

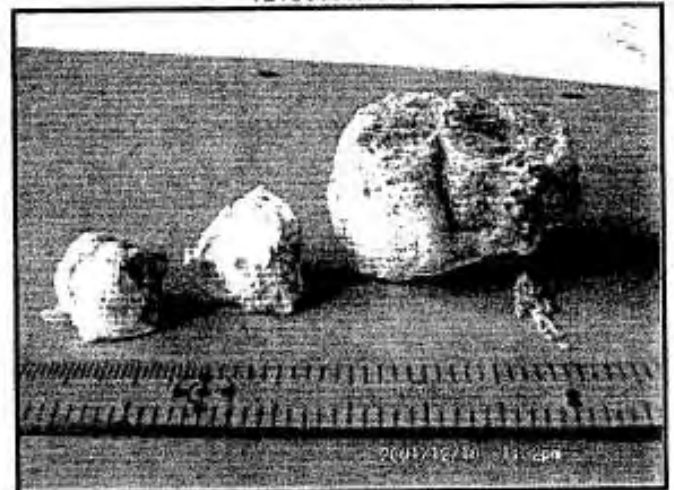


写真4. ケースから取出した卵のう、右から産卵した順、1番目が今回ふ化した卵のう

01110003.JPG



写真5. 針に刺した肉片を口に当てると前脚の鎌で挟んで小一時間かけて食べる

01110006.JPG

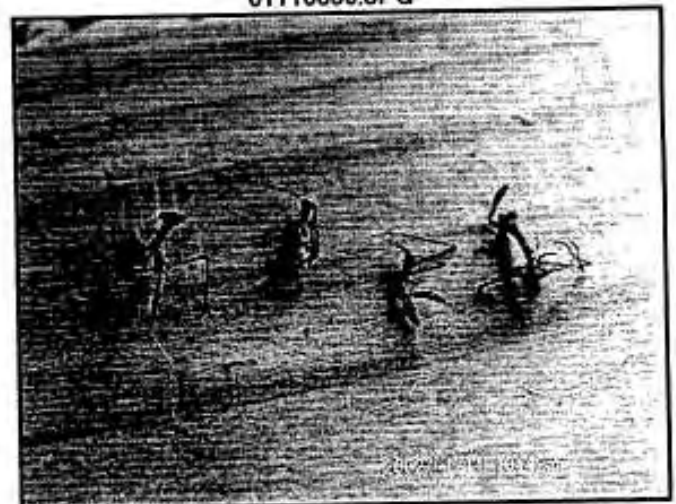


写真6. ふ化初期で肉片を与える前は一部で共食いがあったようで写真はその残骸

## フィールドレポータースタッフからの一言

また、新しい年が巡ってきました。

フィールドレポーターのみなさん今年にかける決意、目標などを心に秘めて希望に満ちた年を迎えられた事と思います。

時代はIT（情報技術）の進歩により世界を駆け巡る情報網による瞬時の情報発信は、日進月歩どころか時々刻々で、その結果は、めまぐるしい競争社会を創造しており、一方では心の安らぎを何処かへ押しやる感があります。

21世紀初頭の昨年は「戦」の表現どおり、想像すら出来ない諸々の事件があり20世紀の負をそのまま21世紀に持ち込んでいる状況のようです。

そんな社会を反映してか地球にやさしい、人にやさしい環境づくり、そして争いの無い平和な共存社会の再生を実現するため各種のNPOの行動やボランティア活動がますます盛んになってきています。今年も国際ボランティア年でもあります。あらゆる面で地球と人類は共存できる素地はまだまだあると思います。

私達フィールドレポーターも自然を愛し、同時に自然を守り育てる心を常に携え、しかも楽しみながら、ささやかなことでも直接的、間接的に文化を守り、環境の維持改善に拘わっていきたいですね。



今年の初定例会は早々1月5日（土）に例年以上の参加人数で賑やかに開かれました。今年も多数の参加をお待ちしています。

今回の掲示板への投稿の中で、定例会などの開催日は？、連絡方法は？の質問がありましたが現行は次の通り実施しています。興味ある方は交流室へおいでください。

※ 定例会は基本的に第1土曜と第3日曜です。定例会に限らず「フィールドレポーター掲示板」の1ページに予定を掲載しています。

- 1) 土曜日または日曜日しか出られないという人に配慮しています。
- 2) 変更の場合「フィールドレポーター掲示板」に判明している時は掲載します。
- 3) メールアドレス登録のスタッフの方には桑原@l b mより送信されています。

※ 定例会など以外の日にスタッフが交流室で作業をしていますが、個人の時間の都合で決めていますので予告連絡はしていませんが、交流室の在室日時の情報提供は今後の検討課題です。

担当は 古谷でした